高崎市文化財調査報告書第 328 集

八幡中原遺跡５

－宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

２０１４

高崎市教育委員会
株式会社　榛名土地
有限会社　毛野考古学研究所

例　言

1．　本書は、宅地分譲工事に伴う八幡中原遺跡第５次調査の埋蔵文化財調査報告書である。

2．　本遺跡は、群馬県高崎市八幡町字中原1276番地1、1280番地１に所在している。

3．　本調査および整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。

4．　発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、株式会社榛名土地に負担して頂いた。

5．　発掘調査は、田口一郎・清水豊（高崎市教育委員会）の監督のもと早川麗司（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

6．　発掘調査・整理作業は、平成25年８月26日～平成26年６月30日の期間で実施した。

7．　本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「571」である。

8．　本調査区内で一部を確認したＳＢ－１においては、その範囲確認を高崎市教育委員会が行い（第６次調査）、その成果の一部を本書に掲載した。

9．　本書の執筆についてはⅠ章を高崎市教育委員会、Ⅱ章、Ⅵ章－１を石丸敦史（有限会社毛野考古学研究所）、Ⅴ章－３－２を山本ジェームズ（高崎市教育委員会）、それ以外を早川が主体となって行い石丸が補佐した。

10.　本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。

11.　発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。

【発掘調査】

青柳美保　新井健悟　井口ヒロ子　岡村美弥子　川島隆好　北野進二　小関泰洋　齋藤清一　佐藤関雄　菅沼喜良　鈴木　正　高橋三郎　竹生正明　中島勝由　森山惠子　森山孝男

【整理作業】

青柳美保　磯洋子　鬼山由子　根本正子　日沖美奈子　渡辺博子

凡　例

1．　挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海抜標高を示す。座標は世界測地系を用いている。

2．　遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。遺物観察表の計測値で用いた単位はcm、ｇで、（ ）は復元値、〔 〕は残存値を示す。遺構内床面被熱箇所についてはその範囲をトーンで図示した。

3．　土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修2006）を用いた。

4．　土層説明における含有物の量は、多量（50～30％）・中量（25～15％）・少量（10～５％）・微量（１～３％）と表記した。

5．　本書掲載の第１図は高崎市発行１/2,500「高崎市都市計画基本図」、第２図は、国土地理院発行１/200,000地勢図「長野」・「宇都宮」、第４図は、国土地理院発行１/25,000地形図「高崎」を一部改変引用した。

6．　遺構略称は、住居跡：ＳＩ、礎石建物跡：ＳＢ、土坑：ＳＫ、ピット：Ｐとした。

目　次

例　言

凡　例

目　次

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　地理的・歴史的環境……2

1　地理的環境……2

2　歴史的環境……2

Ⅲ　調査の方法と経過……3

1　調査の方法……3

2　調査の経過概要……4

Ⅳ　基本層序……4

Ⅴ　遺構と遺物……5

1　概要……5

2　住居跡……5

3　礎石建物跡……38

4　土坑……47

5　遺構外出土遺物……48

Ⅵ　まとめ……49

報告書抄録

図表目次

第1図　調査区位置図……1
第2図　遺跡の位置……2
第3図　周辺の遺跡……3
第4図　基本層序……4
第5図　遺構全体図……6
第6図　SI－1……7
第7図　SI－1出土遺物（1）……7
第8図　SI－1出土遺物（2）……8
第9図　SI－2（1）……9
第10図　SI－2出土遺物……10
第11図　SI－2（2）……11
第12図　SI－3出土遺物……12
第13図　SI－3……13
第14図　SI－4……14
第15図　SI－4出土遺物（1）……15
第16図　SI－4出土遺物（2）……16
第17図　SI－4出土遺物（3）……17
第18図　SI－5（1）……19
第19図　SI－5（2）……20
第20図　SI－5（3）……21
第21図　SI－5出土遺物（1）……22
第22図　SI－5出土遺物（2）……23
第23図　SI－6……25
第24図　SI－6出土遺物……26
第25図　SI－7……28
第26図　SI－7出土遺物……29
第27図　SI－8（1）……31
第28図　SI－8（2）……32
第29図　SI－8（3）……33
第30図　SI－8出土遺物……33
第31図　SI－9……35
第32図　SI－9出土遺物……36
第33図　SI－10……37
第34図　SI－10出土遺物……37
第35図　SB－1……40
第36図　SB－1土層断面（1）……41
第37図　SB－1土層断面（2）……43
第38図　SB－1掘方……44
第39図　SB－1地業土内出土遺物……45
第40図　SK－6出土遺物……47
第41図　SK－2・SK－3・SK－6……48
第42図　遺構外出土遺物……48
第43図　礎石建物跡・掘立柱建物跡配置図……52
表1　遺構別出土遺物量一覧……5
表2　SI－1出土遺物観察表……8
表3　SI－2出土遺物観察表……12
表4　SI－3出土遺物観察表……13
表5　SI－4出土遺物観察表（1）……17
表6　SI－4出土遺物観察表（2）……18
表7　SI－5出土遺物観察表（1）……23
表8　SI－5出土遺物観察表（2）……24
表9　SI－6出土遺物観察表……27
表10　SI－7出土遺物観察表（1）……29
表11　SI－7出土遺物観察表（2）……30
表12　SI－8出土遺物観察表……34
表13　SI－9出土遺物観察表……35
表14　SI－10出土遺物観察表……38
表15　SB－1地業土内出土遺物観察表（1）……45
表16　SB－1地業土内出土遺物観察表（2）……46
表17　SK－6出土遺物観察表……48
表18　遺構外出土遺物観察表……48

写真図版目次

PL1　調査区全景1
調査区全景2
PL2　調査区全景3
SI－1
SI－1掘方
SI－2
SI－2カマド
PL3　SI－2遺物出土状況
SI－2掘方
SI－3
SI－4
SI－4韓式系土器出土状況
SI－4貯蔵穴遺物出土状況
SI－4掘方
SI－5カマド
PL4　SI－5カマド袖部断割状況
SI－5遺物出土状況
SI－5掘方
SI－6
SI－6遺物出土状況
SI－7掘方
SI－8
SI－8カマド
PL5　SI－8遺物出土状況
SI－8土層堆積状況
SI－8掘方
SI－9カマド
SI－9遺物出土状況
SB－1平面検出状況
SB－1完掘状況（1）
SB－1完掘状況（2）
PL6　SB－1大型礫出土状況
SB－1大型礫1
SB－1大型礫2
SB－1大型礫3
SB－1構築状況（1）
SB－1構築状況（2）
SB－1構築状況（3）
基本土層
PL7～14　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

平成25年5月、株式会社榛名土地（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成工事予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地が埋蔵文化財包蔵地であり、八幡中原遺跡での4次の調査や隣接の七五三引遺跡等で古墳～平安時代を中心とする集落跡が検出されていた。当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年6月6日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年6月24日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構を確認した。

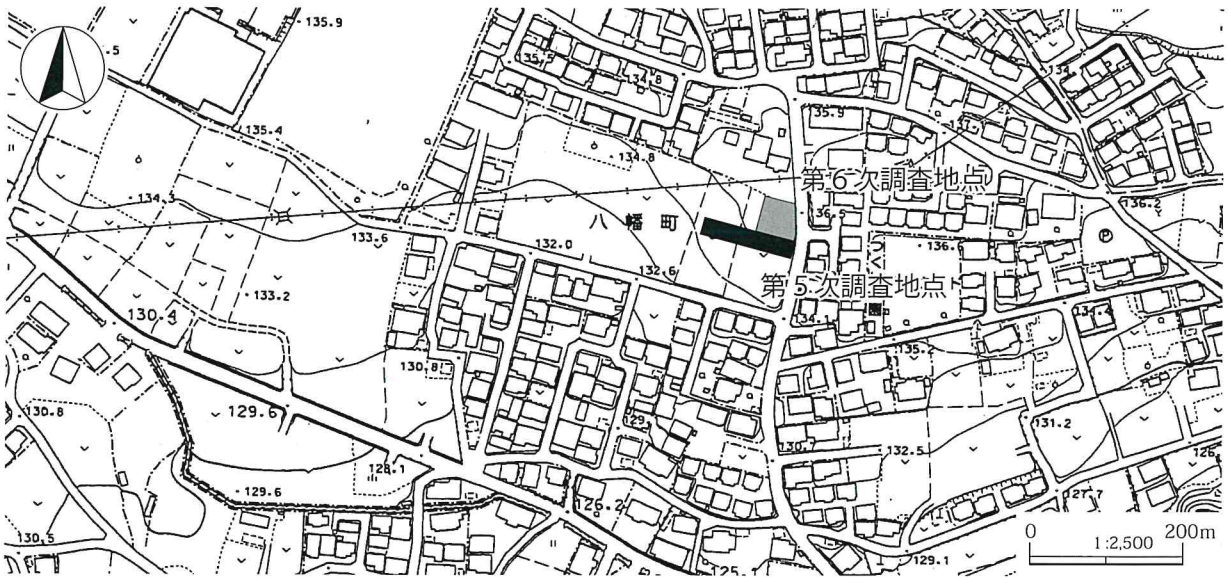
試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成25年8月6日付けで高崎市長･事業者･毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成25年8月6日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で八幡中原遺跡第5次調査の委託契約が締結された。

調査開始まもなく、掘込み地業の大型遺構（SB－1）の存在が確認され、礎石を思わせる大型礫も検出された。遺構が北側道路敷地外の個人住宅予定地に伸びるため、個人住宅の施主（以下施主）と調整のうえでSB－1の広がりと礎石の状態を確認するために試掘調査を実施した。

その結果、SB－1の掘り込み規模は、南北10ｍ、東西は東が道路まで延びるため不明であるが13ｍまで確認された。また､大型礫についても複数検出されたが､いずれも後世に動かされ埋め込まれた状態であった。

八幡中原遺跡周辺では、従来から掘込み地業建物や区画溝等複数検出され片岡郡衙との関わりが指摘されていた。SB－1についても一連の遺構群と位置づくため、事業者及び施主と現状保存の協議を行ったが計画変更は難しく道路建設部分に関して記録保存、個人住宅分については、遺構の保存への影響を可能な限り少なくなるように協力をいただき、遺構上部の削平部分についての発掘調査を実施することで合意し、八幡中原遺跡第6次調査として市教育委員会直営で実施した。



第1図　調査区位置図

Ⅱ　地理的・歴史的環境

1　地理的環境

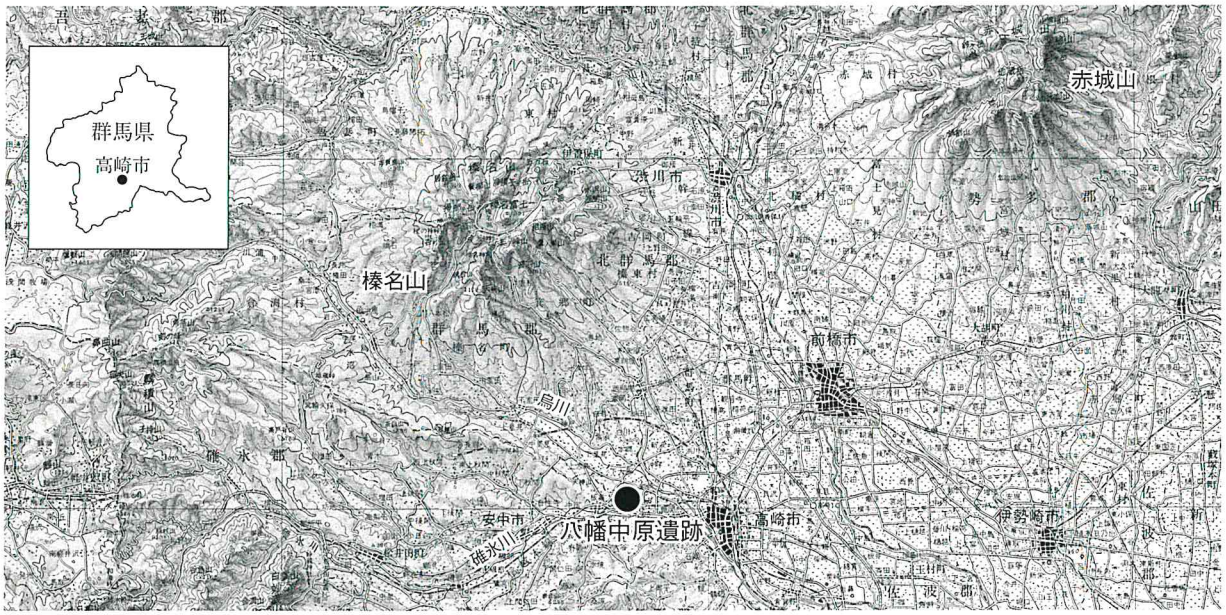
八幡中原遺跡は、東流する烏川と碓氷川とに挟まれた「八幡台地」上に位置する。その八幡台地は、西から続く秋間丘陵の先端部にあたり、その南北両側を流れる烏川および碓氷川によって急峻な河岸段丘が形成される。八幡台地は東西に延びる小支谷によって北から「剣崎支台」、「若田支台」、「八幡支台」の３つに分けられ、八幡中原遺跡は若田支台に広がる。

遺跡周辺は、標高約 133 ～ 135 ｍを計測し、おおよそ台地頂部から南斜面に差し掛かる緩斜面地に位置している。その緩斜面は南北おおよそ 120 ｍ前後の幅で東西に長く延びている。近代以前と考えられる地割も各所で残っているが、近年の宅地造成によりその区画も徐々に消失しつつある。

2　歴史的環境

八幡中原遺跡は古墳時代から古代に至る大規模集落として著名である。それはこの地域一帯が東山道駅路「牛堀・矢ノ原ルート」と「国府ルート」との分岐点にあたる交通の要衝であったと目されることと無縁ではないだろう。八幡中原遺跡第１次調査地点では、おもに古墳時代中期から奈良時代の遺構が主体となっており、竪穴住居跡 176 棟、掘立柱建物跡 36 棟が確認されている。古墳時代中期には高坏の未焼成品が出土した 167 号住居跡や祭祀場的性格を有する 156 号住居跡などが特記される。そして古代には溝を周囲に巡らせる３号掘立柱建物跡などがあり、さらに平安時代になると竪穴住居跡が減少し、掘立柱建物跡が主体となる点は一般集落の様相とは異なる。

近年、八幡中原遺跡およびその周辺において、発掘調査が行われ八幡中原遺跡の全容が徐々に明らかとなっている。古墳時代においては、第３次・第４次調査で韓式系土器が小片ではあるが出土しており、これまで剣崎支台にある剣崎長瀞西遺跡（12）などで顕著であった渡来系遺物が八幡支台においても認められることがわかった。また、第１次調査地点から空閑地（第３次調査地点）を挟んで古墳時代中期の集落跡が第４次調査で確認され、複数の集落があることがわかった。第４次調査では「三ツ寺型」と呼ばれるような大型の



第２図　遺跡の位置

1.八幡中原遺跡第1次調査地点　2.八幡中原遺跡2次調査地点　3.八幡中原遺跡第3次調査地点　4.八幡中原遺跡第4次調査地点　**5.八幡中原遺跡第5次調査地点**　6.七五三引遺跡　7.剣崎六万坊遺跡　8.若田屋敷裏I・II遺跡　9.若田大塚古墳　10.楢ノ木古墳　11.若田原遺跡群　12.剣崎長瀞西遺跡　13.剣崎長瀞西古墳　14.大島原遺跡　15.剣崎稲荷塚遺跡　16.剣崎稲荷塚遺跡2　17.剣崎稲荷塚遺跡3　18.剣崎天神山古墳　19.引間I・II遺跡　20.引間III遺跡　21.上豊岡引間IV遺跡　22.引間V遺跡　23.上豊岡引間遺跡6　24.豊岡後原I・II遺跡　25.下豊岡後原III遺跡　26.八幡六枚遺跡　27.四ノ市遺跡　28.八幡遺跡　29.平塚古墳　30.二子塚古墳　八幡二子塚遺跡　31.観音塚古墳　32.龍的塚古墳

第３図　周辺の遺跡

高坏が出土しており、これらが「国府ルート」に重なるように広がることは、前代、古墳時代からの関係性を考えるうえで示唆的な資料である。

古代では第３次調査地点で方形の掘り込み地業のほか礎石の可能性が考えられる大型の礫が各所で検出された。同様の掘り込み地業は七五三引遺跡（６）でも以前の調査で確認されており、関連性が想定される。また八幡六枚遺跡（26）では「片罡（岡）郡」と線刻された須恵器大甕片が住居跡内から出土している。その他、八幡中原遺跡第４次調査地点では溝覆土中から円面硯が出土している。このように近年の調査成果によってこの一帯が片岡郡衙との関連が想定されることがわかってきた。

Ⅲ　調査の方法と経過

１　調査の方法

表土除去は、0.25㎥バックホーを用いて行った。それぞれ表土除去後、人力による遺構検出および遺構掘削を行った。遺構掘削は、適宜ベルト設定および半截を行い、土層堆積状況を記録した。

遺構測量は、トータルステーションおよび電子平板を用い、平面図を作成した。断面図は遣り方測量で行った。各測量データはDXF形式に書き出すことによって汎用性を持たせた。なお座標は世界測地系を使用した。遺構写真は、調査の進捗状況に応じて行い、35mmモノクロ・35mmカラーリバーサル・デジタルカメラ（1,200万画素相当）を使用した。

遺物接合は、溶剤系接着剤（セメダインC）を用い、エポキシ系樹脂で部分的に補強した。遺物の写真撮

影は、センサーサイズ APS-C のものを使用した（Nikon D7000）。遺構・遺物トレース、写真加工、版組はそれぞれ Adobe IllustratorCS2、Adobe PhotoshopCS6、Adobe InDesignCS2 を使用した。

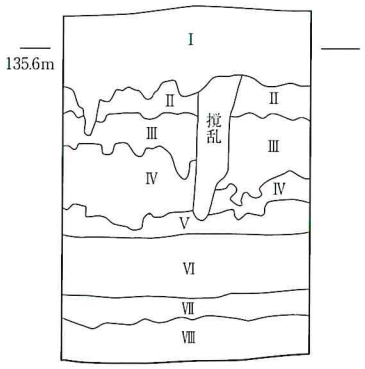
2　調査の経過概要

現地での発掘調査は 2013 年 9 月 17 日～ 2013 年 10 月 10 日まで行った。

9 月 17 日　機材・仮設トイレ搬入。
9 月 18 日　重機による表土除去作業。
9 月 19 日　重機による表土除去作業完了。作業員による遺構検出作業。
9 月 20 日　遺構掘削継続。土坑の調査を順次行っていく。
9 月 24 日　南調査区東側低地部分をトレンチにより遺構確認を行う。
9 月 26 日　北調査区遺構確認ののち遺構掘削開始。
9 月 30 日　検出された遺構を全て完掘。全景写真撮影。
10 月 1 日　補足調査開始。風倒木痕内の遺構確認作業。
10 月 7 日　高崎市による完了検査。
10 月 9 日　補足測量。機材・仮設トイレ等撤収。
10 月 10 日　現場引渡し作業。現場作業完了。

Ⅳ　基本層序

基本層序は調査区中央北面にトレンチを設定し把握した。その層状は南に接する第 4 次調査とほぼ同一であった。Ⅰ層はおもに耕作土で、As － A 軽石（浅間 A 軽石）と As － B 軽石（浅間 B 軽石）が混在する。ただし一部においてⅠ層底面に As － B 軽石の一次堆積層が確認された。Ⅱ層は黒褐色土層で、As － C 軽石（浅間 C 軽石）の可能性が考えられる白色粒子が認められる。多くの遺構はその上面で検出できた。しかし、部分的にⅡ層が厚く堆積する箇所は、上からⅡ a・Ⅱ b 層に分けられ、ローム層との漸移層となるⅡ b 層上面が遺構検出面となる古墳時代の遺構もあった。Ⅱ層以下はソフトローム層のⅢ層、ハードローム層のⅣ層が堆積し、その下に As － YP（浅間－板鼻黄褐色軽石）が認められる。



Ⅰ. 灰黄褐色土（10YR4/2）　As-A・As-B 含む。しまり弱い。表土層。
Ⅱa. 黒褐色土（10YR3/2）　上面遺構確認面。
Ⅱb. 黒褐色土　ローム粒子を含む。ローム層との漸移層。部分的に認められる。一部の遺構検出面。
Ⅲ. にぶい黄褐色土（10YR5/3）ソフトローム層。（八幡中原遺跡 4 -Ⅷ層）
Ⅳ. 黄褐色土（10YR5/6）ハードローム層。（八幡中原遺跡 4 -Ⅸ層）
Ⅴ.As-YP 層（八幡中原遺跡 4 - X 層）
Ⅵ.As-YP 層。Ⅴ層より白色の軽石含む。（八幡中原遺跡 4 - X 層）
Ⅶ. 明黄褐色土（10YR7/6）粘土層。（八幡中原遺跡 4 - X Ⅰ層）
Ⅷ. にぶい黄褐色土（10YR7/3）粘土層。Ⅶ層より白色を帯びる。（八幡中原遺跡 4 - X Ⅱ層）

0　1:40　1 m

第 4 図　基本層序

V　遺構と遺物

1　概要

本調査区は北東側を最高所として、南および西方向へ傾斜している。西方向への傾斜は第３次調査地点西部のＳＤ－３一帯に向かっているものと思われる。

検出された遺構は、竪穴住居跡10棟、礎石建物跡１棟、土坑９基である。遺構はおもに調査区東側で確認され、西側にいくに従って遺構は少なくなっている。これは本調査区の西側に位置する第３次調査地点において遺構が希薄であった状況と合致している。調査した遺構は、古墳時代中期から古代のものを主体としており、それ以前の縄文時代・弥生時代の遺構については認められなかった。

出土した遺物は表１のとおりである。古墳時代から古代に至る土師器・須恵器を主体とし、縄文時代後期称名寺式を主体とする縄文土器片や弥生時代後期樽式を主体とする弥生土器片が覆土中に散見される。陶器・磁器片はいずれも近世に位置づけられるものである。本調査においては礎石と考えられる大型礫の重量については計測できていない。

表１　遺構別出土遺物量一覧

遺構名	縄文	弥生	土師器	須恵器	韓式系土器	瓦器	陶器	磁器	土製品	砥石	石器	石製品	滑石	黒曜石	輝石安山岩	安山岩	凝灰岩	石英	チャート	砂岩	鉄製品	炭化材
SI1			5,926	7		31							17									
SI2			5,028	1,748				5			97		5									
SI3		48	613	285				13														
SI4			9,404	5	1,957					137						5,871					4	
SI5		40	15,854	810	65	64	64	7					6			1,145			11		1	
SI6	17		6,567	591	297				56		48		15									
SI7			4,293	419								167	3									
SI8			4,431	1,750							8		7									
SI9			5,508	122										6								
SI10			3,351	168																		7
SB1			4,613	523			8								133		92				13	
SB1P1			23																			
SK2			15																			
SK3							14															
SK4			46																			
SK5			454				21															
SK6			30	8																		
SK8			337	26																4		
SK9			74													50						
検出	76		3,328	1,654		58	18	18					18	0		466		4			19	
トレンチ			321	332												60						
撹乱			1,002	295		11		6								44						

重量：ｇ

2　住居跡

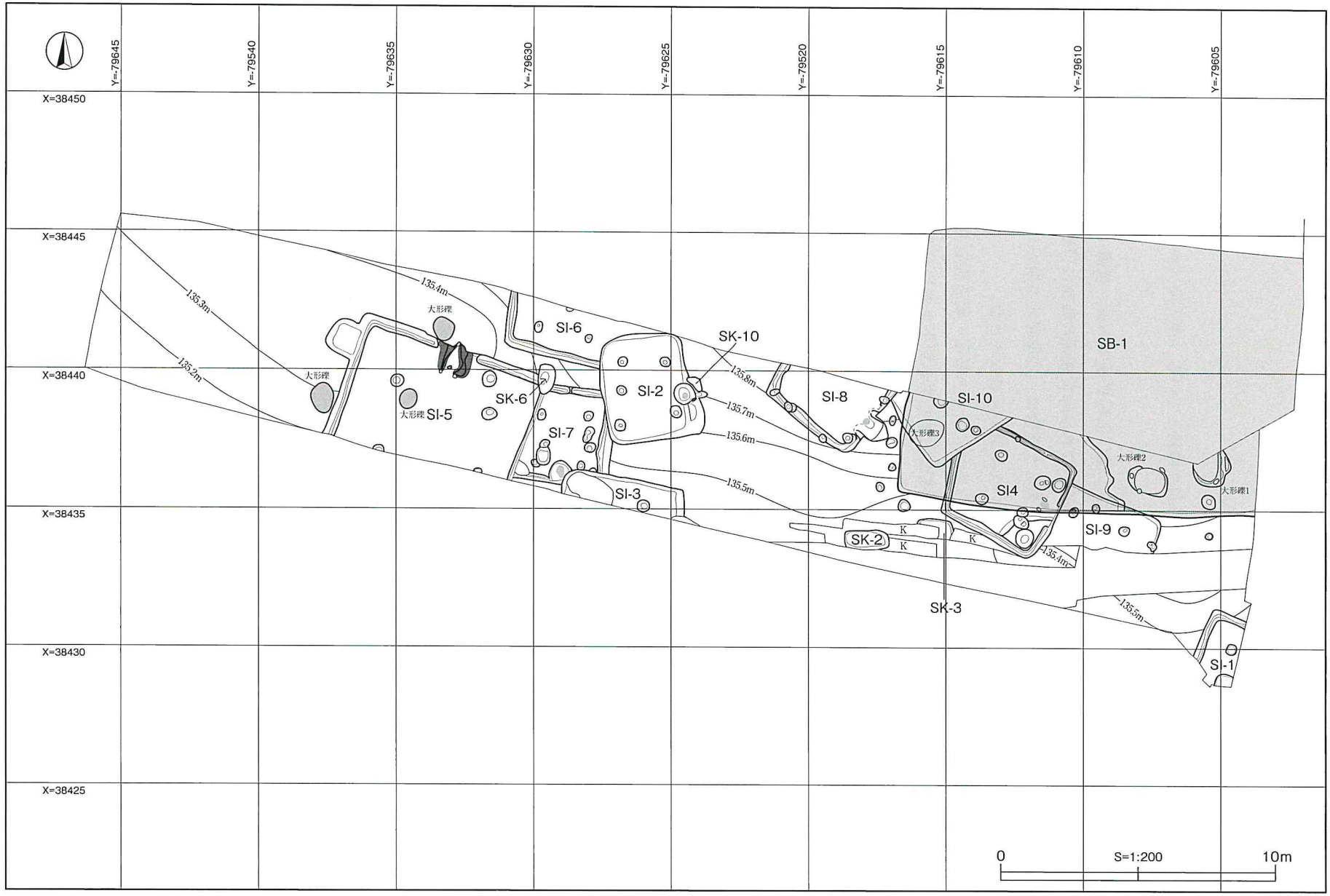
SI－1　（第６・７・８図）

平面形態　不明

規模　不明

遺構所見　東側と南側は調査区域外に延びている。重複関係はSK－１より古い。床は貼り床で、黒褐色土で構築されており、硬く締まっている。壁高は最大44cmである。壁溝は各壁下で確認した。Ｐ１は長径49cm、短径46cm、深さ30cmである。Ｐ１はその位置から主柱穴の可能性が考えられる。

覆土は５層に分層できる。黒褐色土を基調としており、部分的に撹乱されている。第１層と第２層は、ロームブロックとAs－YP軽石ブロックをわずかにしか含まず、第３層から第５層までは、ロームブロックと


Y=-79645
Y=-79540
Y=-79635
Y=-79630
Y=-79625
Y=-79520
Y=-79615
Y=-79610
Y=-79605
X=38450
X=38445
X=38440
X=38435
X=38430
X=38425
135.3m
135.2m
135.4m
大形礫
大形礫
大形礫
SI-5
SK-6
SI-6
SI-7
SI-3
SI-2
SK-10
135.8m
135.7m
135.6m
135.5m
SI-8
SI-10
大形礫3
SB-1
大形礫2
大形礫1
SI4
SI-9
SK-2
K
K
K
135.4m
SK-3
135.5m
SI-1
0
S=1:200
10m

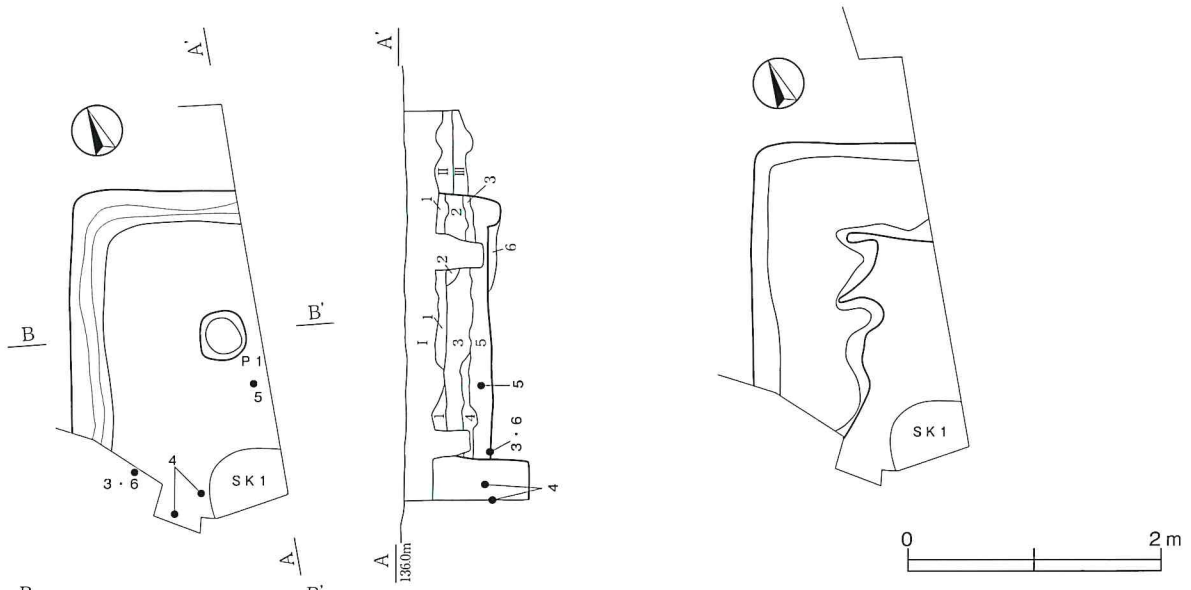
第５図　遺構全体図

As － YP 軽石ブロックが多量に含まれているのが特徴である。

住居掘方は As － YP 軽石層まで達しており、壁際だけ掘られ中央部が島状に残されている。

遺物所見　遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。土師器の甕（4）と石製模造品（6）が覆土下層から出土している。

時期　出土した土器から５世紀後半に位置づけられる。



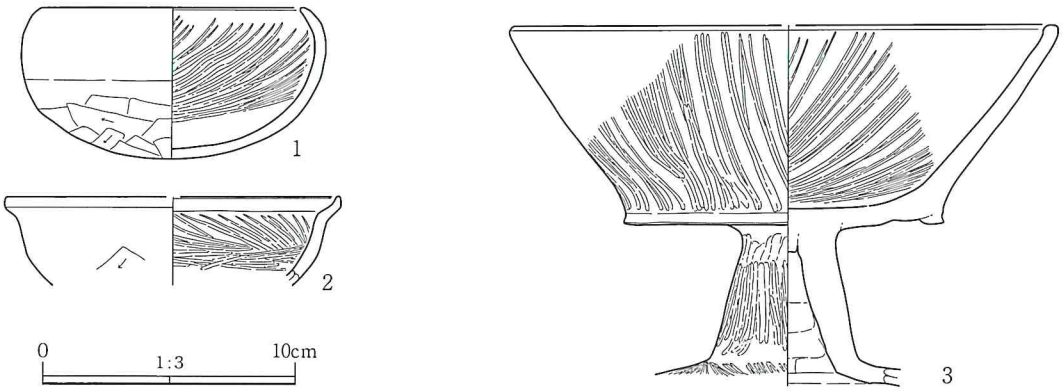
A－A'

Ⅰ	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり、締り弱い。耕作土。AS-A多量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック・小石微量（表土）
Ⅱ	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック微量（地山）
Ⅲ	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム中ブロック・As-YP中ブロック少量（地山）
1	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック少量、焼土粒子微量（覆土）
2	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック・焼土粒子微量（覆土）
3	黒褐色土(10YR3/1)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック多量、焼土粒子微量（覆土）
4	黒褐色土(10YR3/1)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック中量、As-YP小ブロック多量（覆土）
5	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム中ブロック・As-YP中ブロック多量（覆土）
6	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締り強い。As-YP少ブロック多量（貼床構築土）

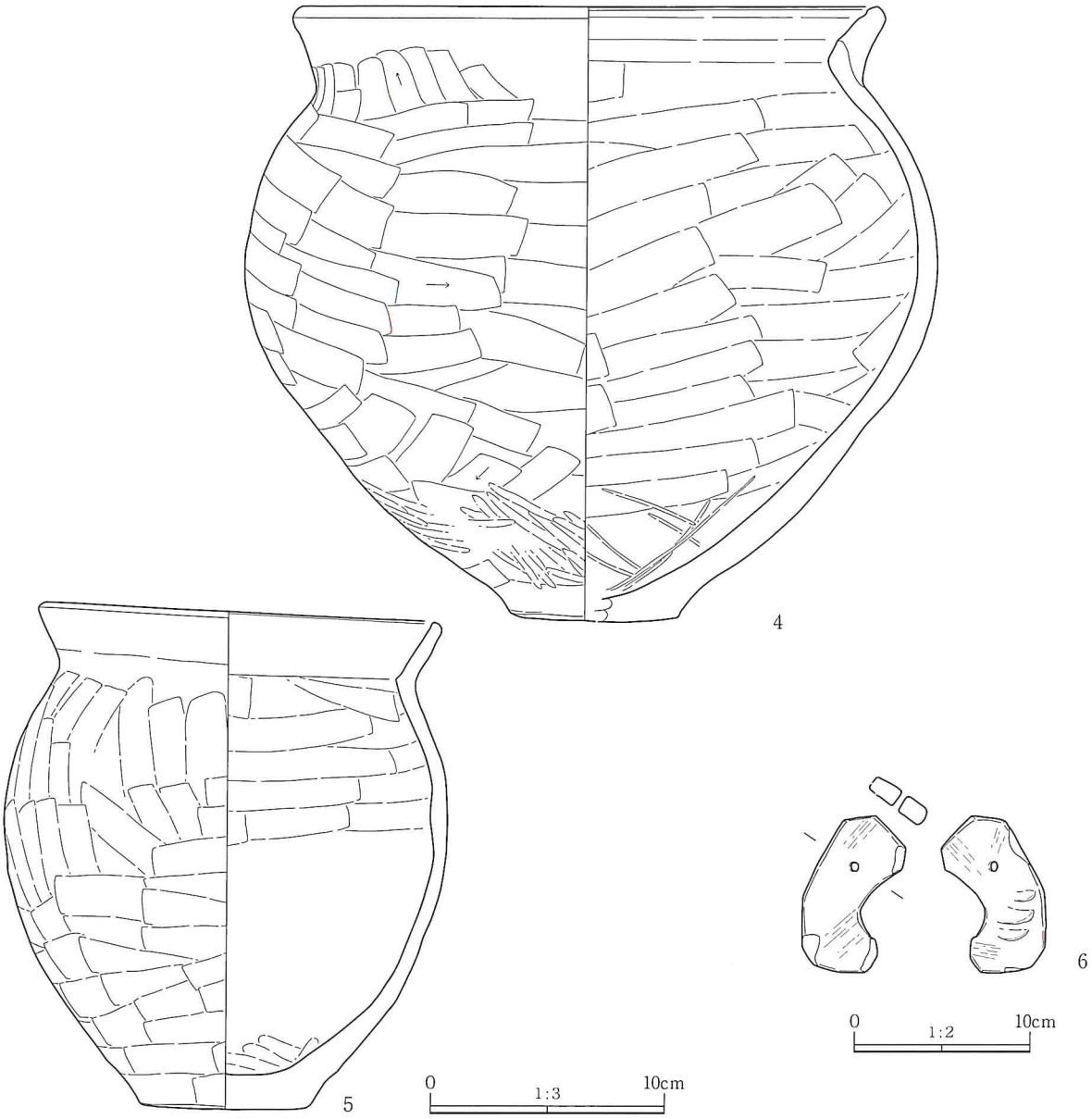
B－B'

1	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。As-YPブロック多量（P1覆土）
2	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。As-YPブロック多量（P1覆土）
3	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。As-YPブロック多量（壁溝覆土）

第６図　SI － 1



第７図　SI － 1 出土遺物（1）



第８図　SI－１出土遺物（２）

表２　SI－１出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　10.2 底径　－ 器高　6.0	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒子、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：上半暗文状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　(13.1) 底径　－ 器高　[3.5]	①酸化焔②明赤褐 ③赤褐色粒子、角閃石 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部暗文状ミガキ。	
3	土師器 高坏	口径　(21.2) 底径　－ 器高　[14.3]	①酸化焔②橙 ③白色粒子、角閃石 ④口縁～脚部 1/3	外面：坏部暗文状ミガキ。脚部ミガキ。裾部暗文状ミガキ。 内面：坏部暗文状ミガキ。脚部ヘラナデ。	
4	土師器 甕	口径　24.5 底径　7.0 器高　26.4	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁部ナデ。体～底部ヘラケズリ。底部まばらなミガキ。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラナデ。	
5	土師器 甕	口径　16.6 底径　7.0 器高　21.7	①酸化焔②明赤褐 ③白色・黒色粒 ④ほぼ完存	外面：口縁部横位ナデ。体部上半縦位ヘラナデ、下半横位ヘラナデ。 内面：口縁部横位ナデ。体部横位ヘラナデ。	
6	石製品 勾玉	長さ　4.6 幅　2.9 厚さ　0.5 重量　10.2	①滑石製 ④完存	片側穿孔。表裏面、側面研磨痕。裏面鑿痕あり。	

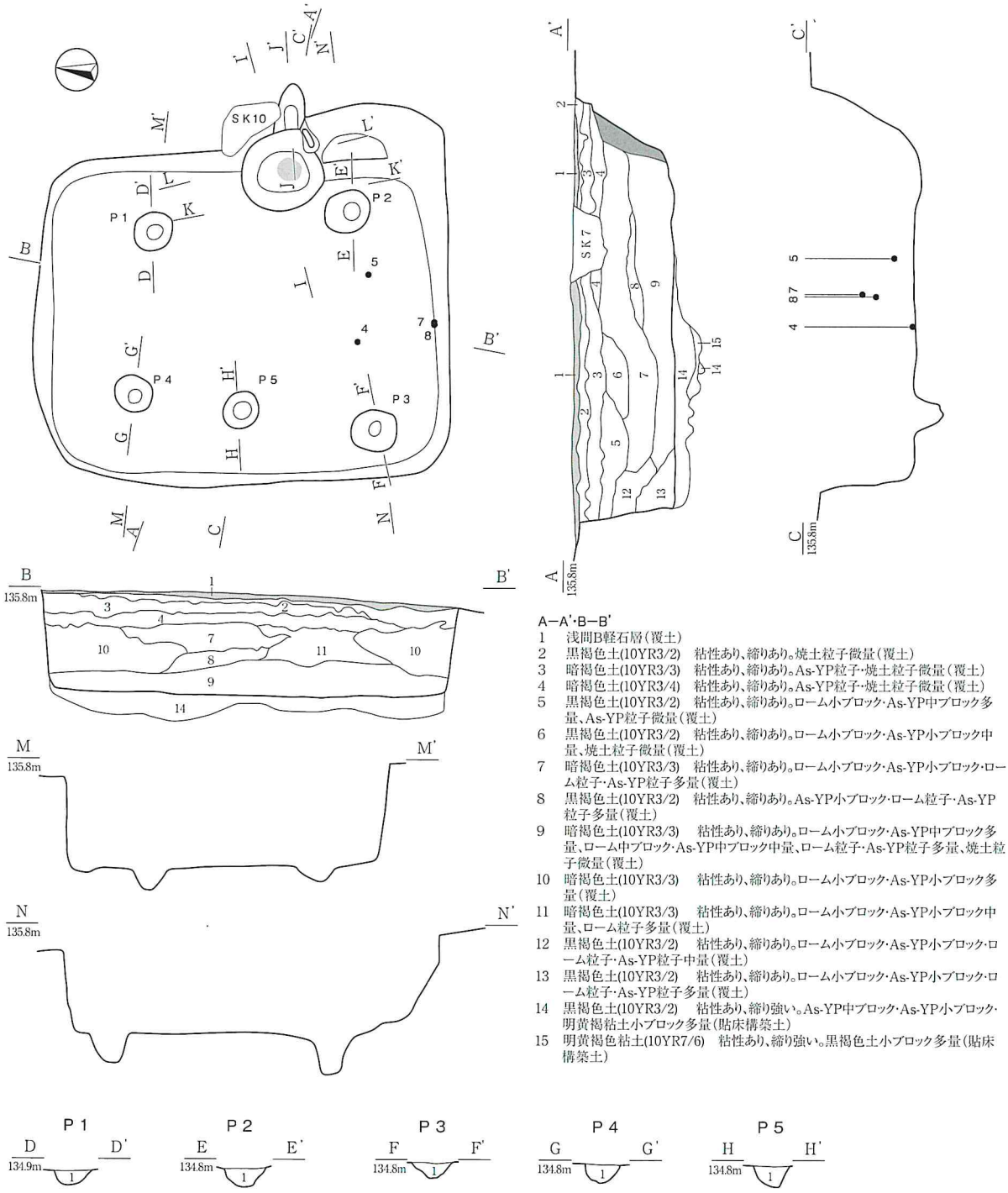
SI－2　（第９・10・11図）

平面形態　南北に長い長方形である。

規模　長軸3.91ｍ、短軸3.52ｍである。

主軸方向　N－92°－Eである。

遺構所見　重複関係はSI－６・７より新しく、SK－７・10より古い。SK－７の覆土は締りが弱く、浅間A軽石が多量に含まれており、18世紀後半以降の土坑と考えられる。



第９図　SI－２（１）

床は北壁際と東壁際のみ地山のAs－YP軽石層をそのまま使用し、それ以外は貼り床である。貼り床は、As－YP軽石ブロックおよび明黄褐色粘土ブロックを多量に含む黒褐色土と明黄褐色粘土で構築されている。カマド前面からＰ１～Ｐ４の内側に硬化面が広がる。壁高は最大95cmである。

ピットは５か所確認した。Ｐ１は長径40cm、短径35cm、深さ14cm、Ｐ２は長径45cm、短径40cm、深さ19cm、Ｐ３は長径43cm、短径40cm、深さ15cm、Ｐ４は長径38cm、短径34cm、深さ18cmである。Ｐ１～Ｐ４は位置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径35cm、短径32cm、深さ19cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

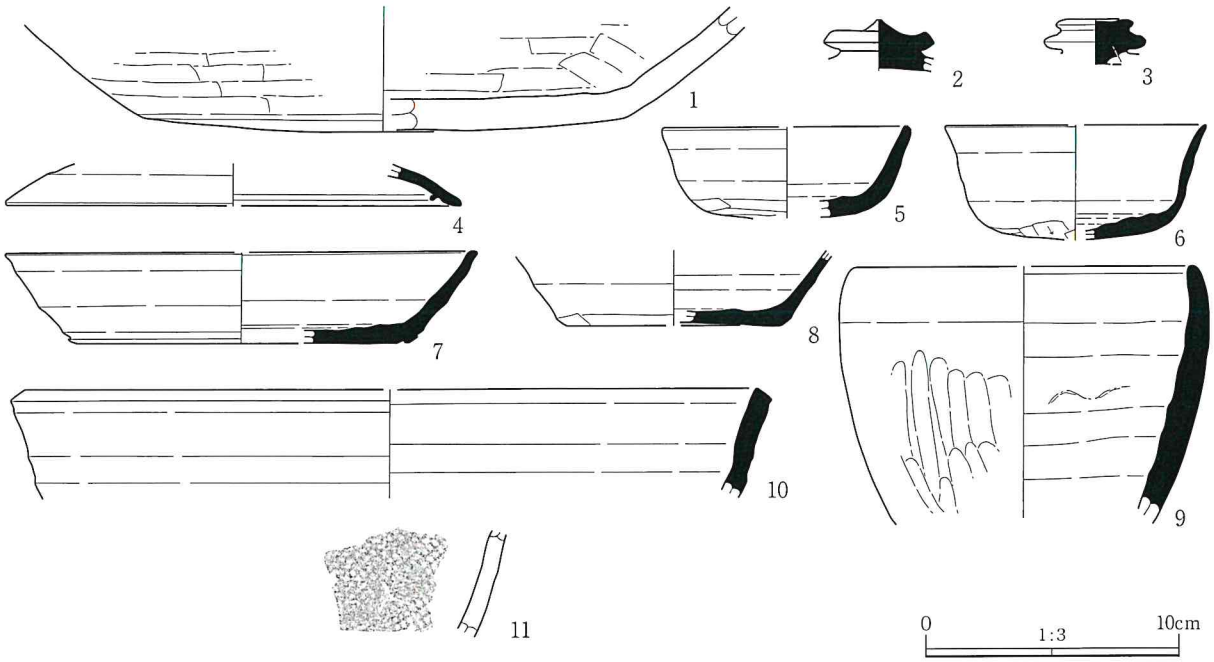
カマド右袖部脇の壁には、床面から15cm上の位置にAs－YP軽石層を整形した平坦面がある。この平坦面は棚状施設と考えられる。

覆土は13層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、最上層には、浅間Ｂ軽石が堆積して層を形成している。それ以外の覆土は人為堆積と考えられ、特に第５層から第13層までは、ロームブロックとAs－YP軽石ブロックが多量に含まれているのが特徴である。

カマドは東壁のやや南寄りに付設されている。煙道部は、確認面の黒褐色土からAs－YP軽石層まで掘り込み、地山に粘土を貼り付けて構築している。粘土は強く焼けており、赤変している。火床部はAs－YP軽石層をそのまま使用している。床面の高さより皿状にくぼんでおり、一部強く焼けて赤変している。袖部は右袖部だけが残っており、粘土をAs－YP軽石層の上に積み上げて構築している。袖部の内側は、強く焼けて赤変している。カマド土層断面の第４層は灰層である。その上に堆積している第１・２・６層は、天井部等のカマド構築材が崩落したものと考えられる。第３層と第５層は人為堆積と考えられる覆土である。

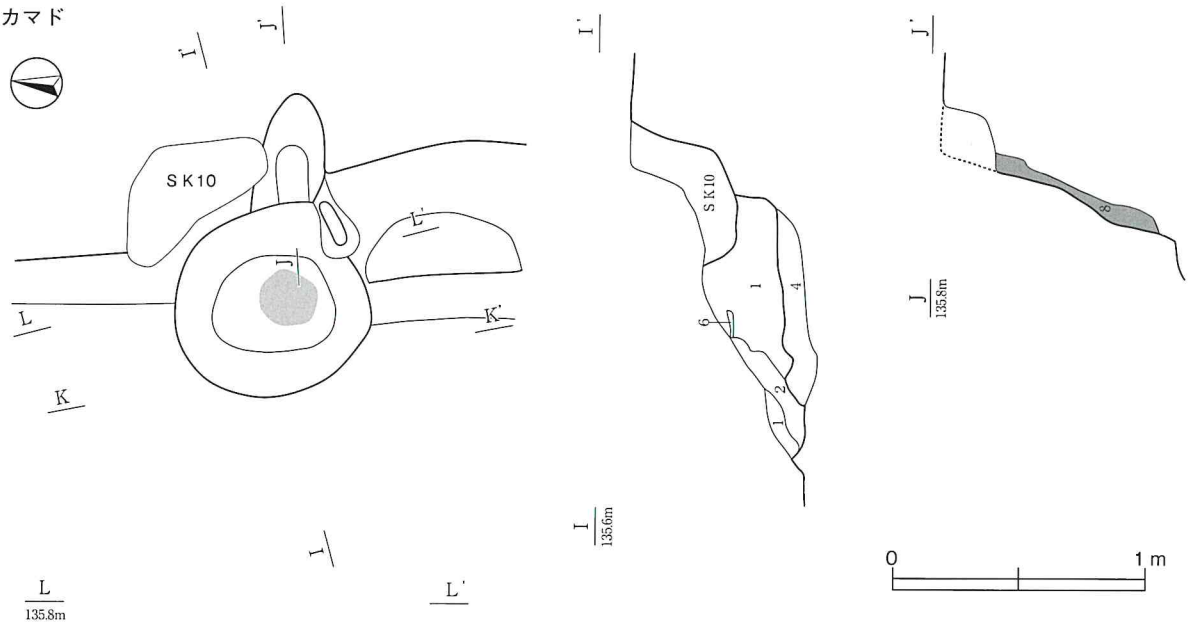
住居掘方はAs－YP軽石層まで達しており、北壁際と東壁際を残して平坦に掘り下げられている。Ｐ６～Ｐ９は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。

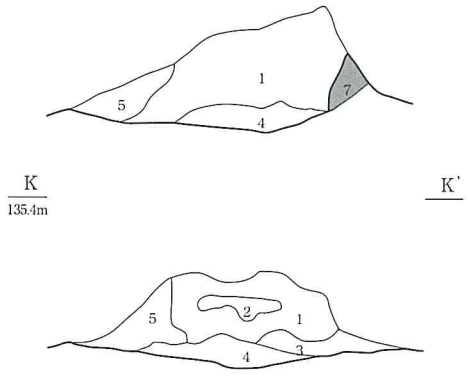
遺物所見　遺物は覆土中を中心に出土しており、床面から出土したものは少ない。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。須恵器の蓋（４）が床面から、須恵器の坏（５）が床面から約50cm上ま



第10図　SI－２出土遺物

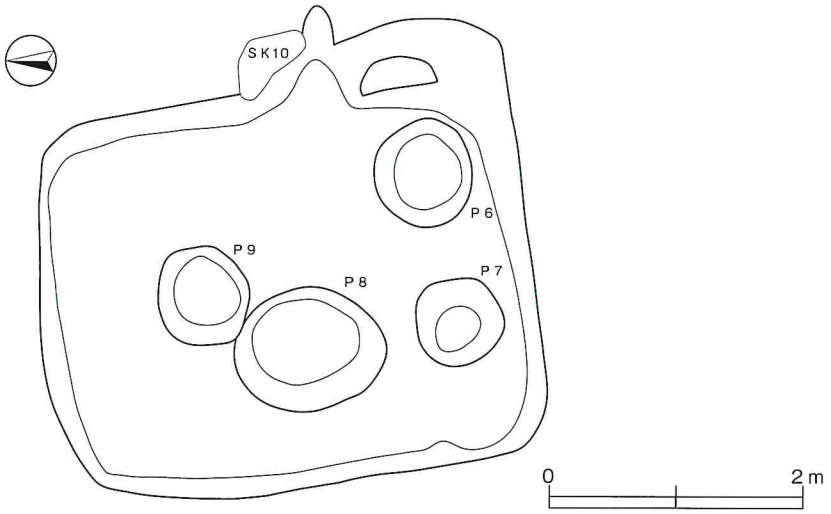
カマド





カマド
1　明黄褐色粘土(10YR7/6)　粘性強い、締り強い。カマド構築材。
2　明黄褐色粘土(10YR7/6)と黒褐色土(10YR3/2)の混合土。粘性強い、締り強い。カマド構築材。
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。As-YP粒子・焼土粒子・粘土粒子中量
4　灰白(10YR7/1)　粘性なし。締り弱い。焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量、As-YP粒子少量。灰層。
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック中量
6　赤褐色(2.5YR4/8)　粘性強い、締り強い。赤変した粘土。カマド構築材。
7　赤褐色(2.5YR4/8)　粘性強い、締り強い。As-YP小ブロック少量。袖部。
8　赤褐色(2.5YR4/8)　粘性強い、締り強い。ローム小ブロック・As-YP小ブロック微量。煙道部

掘方



第11図　SI－2（2）

での人為堆積土中から出土している。

時期　出土した遺物から本住居跡は７世紀末に位置づけられる。なお 11 の韓式系土器は混入と判断される。

表３　SI －２出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕か	口径　－ 底径　(18.8) 器高　[5.0]	①酸化焔②黄灰 ③白色・赤褐色粒 ④体部～底部 1/4	外面：ヘラナデ。体部と底部の境、不明瞭。 内面：ヘラナデ。体部と底部の境、ナデ周回。	
2	須恵器 蓋	口径　4.3 底径 器高　[2.1]	①還元焔②灰白 ③黒色粒子 ④摘み片	外面：ロクロ整形。シャープな造り。 内面：ロクロ整形。	
3	須恵器 蓋	口径　(4.0) 底径　－ 器高　[1.8]	①還元焔（酸化気味）②褐灰 ③白色・黒色・赤褐色粒子 ④摘み片	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。	
4	須恵器 蓋	口径　(17.8) 底径　－ 器高　[1.7]	①還元焔②灰白 ③黒色・白色粒子 ④口縁部 1/4	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。かえり貼付。	
5	須恵器 坏	口径　(9.5) 底径　－ 器高　[3.6]	①還元焔②灰 ③白色・黒色粒子 ④口縁～底部 1/3	外面：ロクロ整形。体～底部手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
6	須恵器 坏	口径　(10.2) 底径　－ 器高　[4.6]	①還元焔②灰 ③白色・黒色粒子 ④口縁～底部 1/2	外面：ロクロ整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
7	須恵器 坏	口径　(18.4) 底径　(13.0) 器高　3.7	①還元焔（酸化気味）②灰白 ③白色粒 ④口縁～底部 1/3	外面：ロクロ整形。高台部削り出し。 内面：ロクロ整形。	SI- 8 出土片と接合。
8	須恵器 坏	口径　－ 底径　(8.4) 器高　[3.0]	①還元焔②灰黄 ③黒色・白色粒子 ④体部～底部 1/4	外面：ロクロ整形。体部下端ヘラケズリ。底部静止ヘラ切り。 内面：ロクロ整形。	
9	須恵器 鉢	口径　(13.3) 底径　－ 器高　[10.3]	①還元焔②灰白 ③黒色・白色粒子 ④口縁～体部 1/6	外面：口縁部横位ナデ。体部縦位ナデ。 内面：横位ナデ。器面凹凸をなす。	
10	須恵器 盤	口径　(30.0) 底径　－ 器高　[4.3]	①酸化気味②にぶい橙 ③白色粒子、褐色粒 ④口縁部 1/12	外面：ロクロ整形。口縁端部面をもつ。 内面：ロクロ整形。	
11	韓式系土器	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③角閃石、赤褐色粒子 ④体部片	外面：擬格子状タタキ目。 内面：ヘラナデ。	

SI －３　（第 12･13 図）

平面形態　不明

規模　不明

遺構所見　南側は調査区域外に延びている。重複関係は SI －７より新しい。床は貼り床で、黒褐色土とロームの混合土で構築されており、硬く締まっている。壁高は最大 42cm である。Ｐ１は長径 47cm、短径 45cm、深さ 37cm である。Ｐ１は位置から主柱穴の可能性が考えられる。

覆土は５層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、部分的に撹乱されている。他の住居跡と比べて、As － YP 軽石ブロックとロームブロックの含有量が少ないのが特徴である。

住居掘方はハードローム層まで達しており、Ｐ１の周囲を壁際より一段低く掘り下げている。

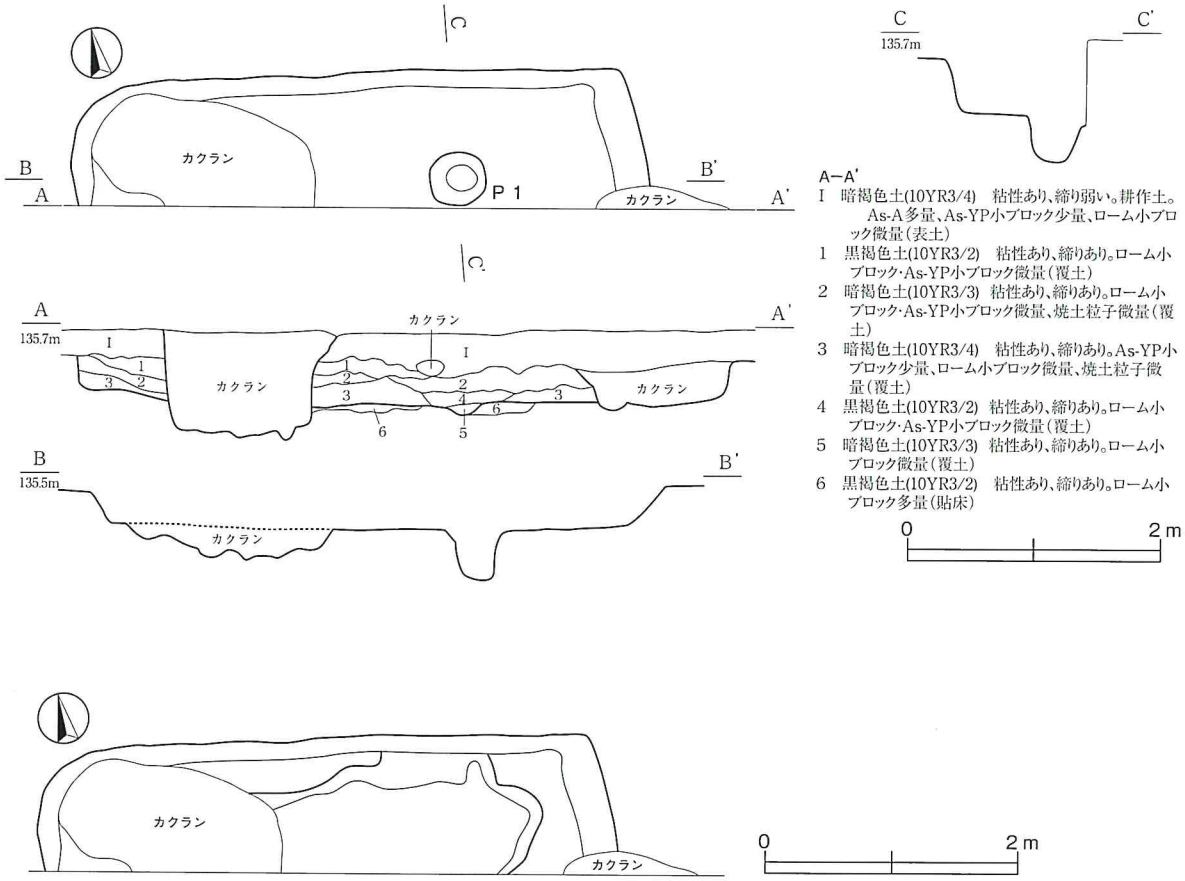
遺物所見　遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。

時期　出土した土器から７世紀末に位置づけられる。なお２の弥生土器は混入と考えられる。

第 12 図　SI －３出土遺物

表４　SI－３出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径 (15.2) 底径 － 器高 [3.2]	①酸化焔②にぶい褐 ③角閃石、白色粒子 ④口縁～体部 1/6	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：ナデ。	
2	弥生 壺	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②にぶい黄橙 ③角閃石 ④体部片	外面：６条一単位の櫛歯による波状文。 内面：ナデ。	



第13図　SI－３

SI－４　（第14・15・16・17図）

平面形態　東西に長い長方形である。

規模　長軸4.36 m、短軸3.83 mである。

主軸方向　N－117°－Eである。

遺構所見　重複関係はSI－９より新しく、SB－１、SI－10より古い。北側の大部分がSB－１の下層に位置する。床は貼り床で、カマド前面からＰ１～Ｐ４の内側に硬化面が広がる。壁高は最大51cmである。

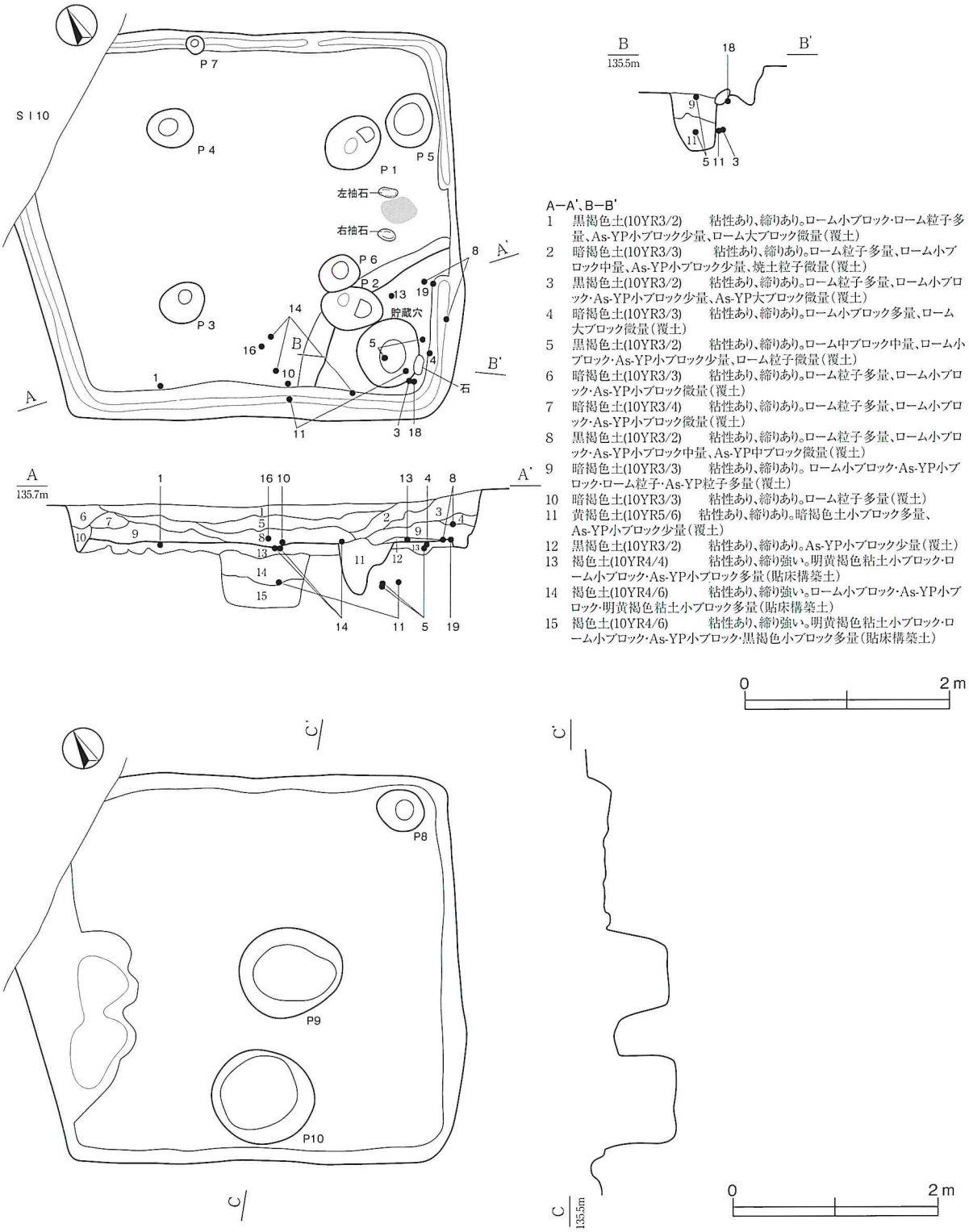
ピットは７か所確認した。Ｐ１は長径60cm、短径49cm、Ｐ２は長径61cm、短径44cm、Ｐ３は長径46cm、短径39cmである。Ｐ１～Ｐ４は位置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径55cm、短径46cm、Ｐ６は長径40cm、短径34cm、Ｐ７は長径19cm、短径17cmである。Ｐ５～Ｐ７の性格は不明である。貯蔵穴は、南西コーナー隅に位置し、その周囲は床面より一段高くなっている。その規模は長径70cm、短径65cm、深さ56cmである。

覆土は11層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、Ｐ２と貯蔵穴の最下層の第11層は、ロー

ムである。

カマドは東壁中央に付設されている。袖石と考えられる礫が立ったままの状態で出土している。袖石と袖石の間の火床部は、床面とほぼ同じ高さであり強く焼けて赤変している。煙道部や天井部等は確認できない。

住居掘方はAs－YP軽石層まで達しており、平坦に掘り下げられている。P９・P 10は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、As－YP軽石ブロックとロームブロックおよび明黄褐色粘土



A－A'、B－B'

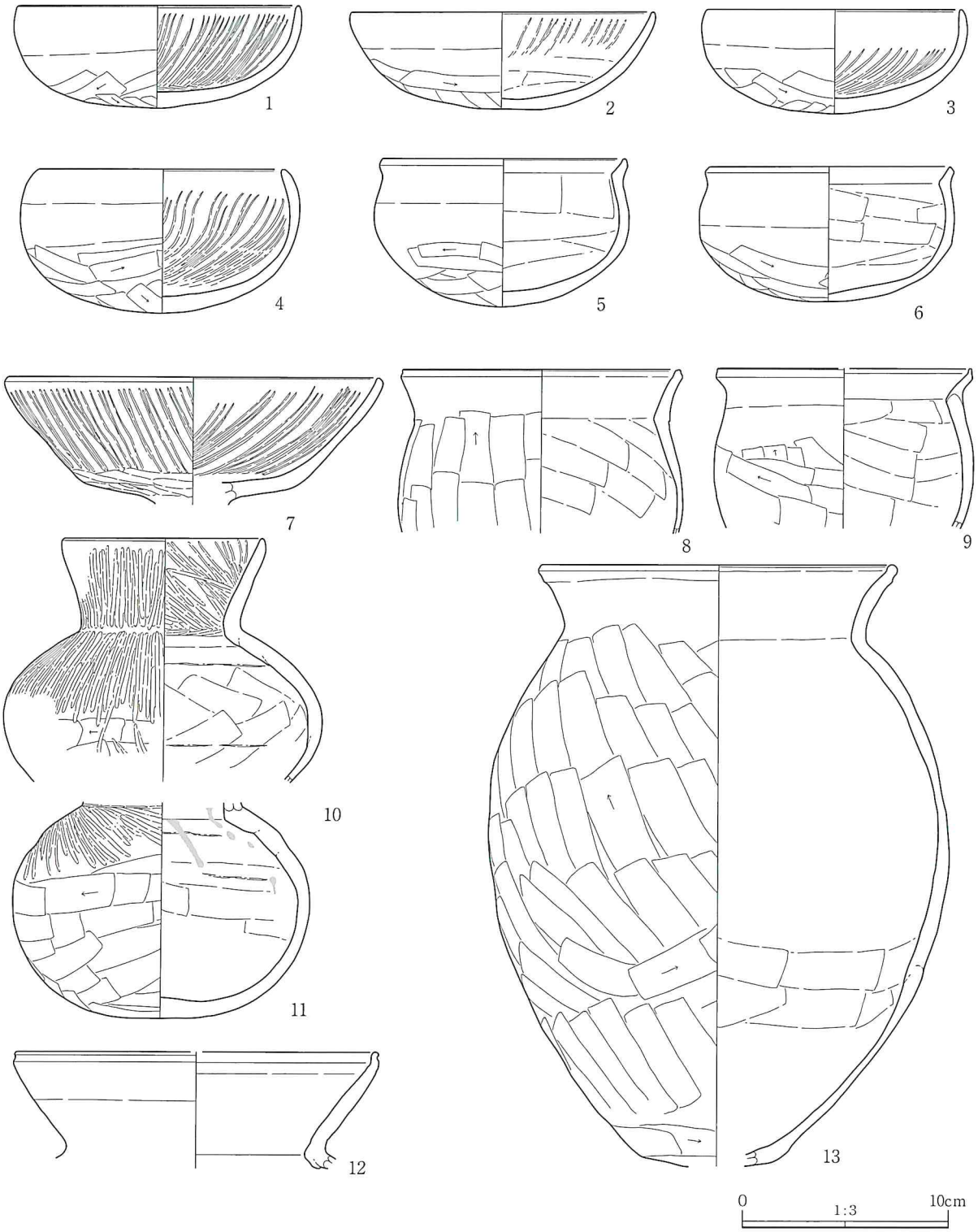
1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・ローム粒子多量、As-YP小ブロック少量、ローム大ブロック微量(覆土)
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、As-YP小ブロック少量、焼土粒子微量(覆土)
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック少量、As-YP大ブロック微量(覆土)
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック多量、ローム大ブロック微量(覆土)
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック少量、ローム粒子微量(覆土)
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック微量(覆土)
7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック微量(覆土)
8　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック中量、As-YP中ブロック微量(覆土)
9　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック・ローム粒子・As-YP粒子多量(覆土)
10　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム粒子多量(覆土)
11　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり、締りあり。暗褐色土小ブロック多量、As-YP小ブロック少量(覆土)
12　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック少量(覆土)
13　褐色土(10YR4/4)　粘性あり、締り強い。明黄褐色粘土小ブロック・ローム小ブロック・As-YP小ブロック多量(貼床構築土)
14　褐色土(10YR4/6)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As-YP小ブロック・明黄褐色粘土小ブロック多量(貼床構築土)
15　褐色土(10YR4/6)　粘性あり、締り強い。明黄褐色粘土小ブロック・ローム小ブロック・As-YP小ブロック・黒褐色小ブロック多量(貼床構築土)

第14図　SI－4

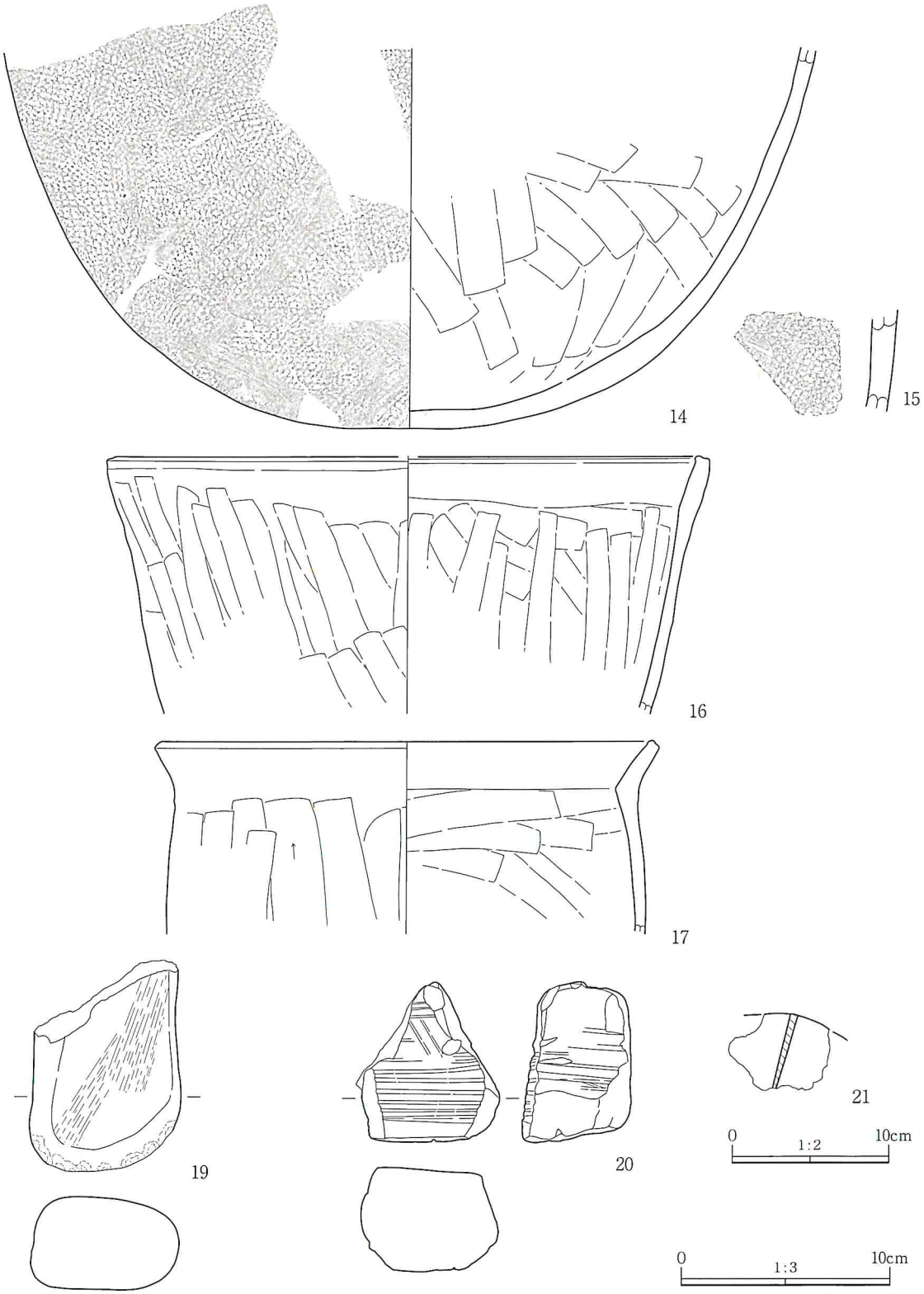
ブロックを多量に含む黒褐色土と褐色土で構築されている。

遺物所見　遺物は覆土中を中心に出土しているが、床面からの出土も多い。覆土中から出土した土器片は細片もしくは小片であり、覆土下層から床面にかけて大きな破片や完形品が出土している。完形の土師器坏が、東壁際と南壁際の床面からそれぞれ出土している。韓式系土器（14）は床面から出土している。

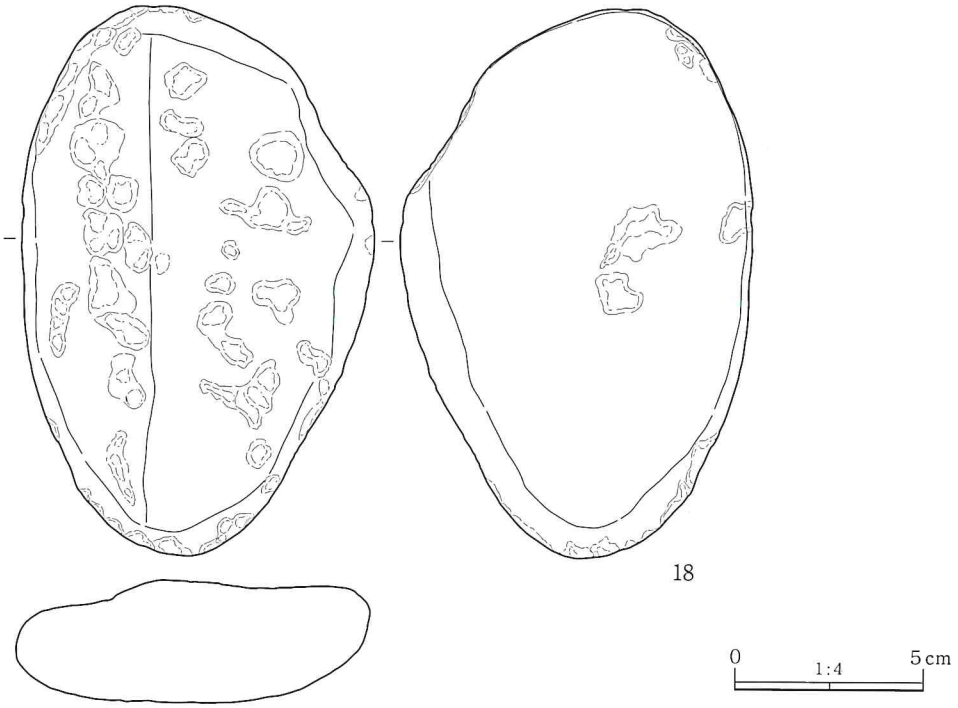
時期　出土した土器から５世紀後半に位置づけられる。



第15図　SI－４出土遺物（１）



第16図　SI－4出土遺物（2）



第17図　SI－4出土遺物（3）

表5　SI－4出土遺物観察表（1）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　13.7 底径　－ 器高　5.0	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤色粒子、角閃石 ④完形	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　14.8 底径　－ 器高　4.8	①酸化焔②にぶい橙 ③角閃石、白色粒子 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ後、渦巻状ミガキ。	貼床内出土。
3	土師器 坏	口径　12.3 底径　－ 器高　5.1	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色粒子、角閃石 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	貯蔵穴内出土。
4	土師器 坏	口径　11.9 底径　－ 器高　7.0	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④完形	外面：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：放射状ミガキ。	
5	土師器 坏	口径　11.8 底径　－ 器高　7.2	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁～肩部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。口縁端部つまみ出し。 内面：体～底部ヘラナデ。	
6	土師器 坏	口径　11.7 底径　－ 器高　6.6	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色・褐色粒子 ④口縁～底部2/3	外面：口縁～肩部横位ナデ。底部ヘラケズリ。口縁端部面をもつ。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラナデ。	
7	土師器 高坏	口径　(18.0) 底径　－ 器高　[6.2]	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色粒子、角閃石 ④坏部2/3	外面：放射状ミガキ。下端部ヘラナデ。 内面：渦巻状ミガキ。	カマド内出土。
8	土師器 小甕	口径　13.4 底径　－ 器高　[8.0]	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・黒色・赤褐色粒 ④口縁～体部	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。口縁端部つまみ出し。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	カマド内出土。
9	土師器 小甕	口径　12.2 底径　－ 器高　[7.8]	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・赤褐色粒 ④口縁～胴部1/2	外面：口縁部横位ナデ、端部つまみ出し。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	
10	土師器 壺	口径　(9.6) 底径　－ 器高　[11.9]	①酸化焔②橙 ③白色・黒色粒子 ④口縁～胴部	外面：口縁部暗文状ミガキ。胴部ヘラケズリ後、肩部縦位ミガキ。 内面：口縁部放射状ミガキ。胴部ヘラナデ。	
11	土師器 壺	口径　－ 底径　－ 器高　[10.5]	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・赤褐色・黒色粒子 ④胴部3/4	外面：胴部上半ミガキ、胴部下半～底部ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ。上半に黒色液状付着物。	
12	土師器 甕	口径　(17.4) 底径　－ 器高　[5.7]	①酸化焔②橙 ③石英、角閃石、赤褐色粒 ④口頸部1/3	外面：横位ナデ。口縁端部沈線めぐる。 内面：横位ナデ。	
13	土師器 甕	口径　16.9 底径　6.8 器高　[29.3]	①酸化焔②にぶい橙 ③石英、白色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。胴～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。胴部ナデ。体部下半接合部ヘラナデ。	貼床内出土。
14	韓式系土器 甕か	口径　－ 底径　－ 器高　[18.3]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④胴部下半～底部	外面：擬格子状タタキ目。一部タタキの後、帯状に粘土貼り付け。 内面：ヘラナデ。	
15	韓式系土器 甕か	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③白色・赤褐色粒 ④胴部片	外面：擬格子状タタキ目。 内面：ナデ。	
16	土師器 甑	口径　(27.9) 底径　－ 器高　[12.4]	①酸化焔②にぶい橙 ③角閃石、白色・赤褐色粒子 ④口縁～胴部片1/4	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラ調整。 内面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ。口縁端部肥厚。	貼床内出土。

表6　SI－4出土遺物観察表（2）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
17	土師器 甑	口径 (13.4) 底径 － 器高 [9.3]	①酸化焔②にぶい褐 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁～胴部片 1/3	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ。	SB-1地業土内出土。
18	台石	長さ 29.2 幅 19.2 厚さ 6.5 重量 5090	①安山岩製。 ④完存。	表面：敲打痕を全面に有する。中央部は稜をなし、稜部分を除く全面は錆状に変色している。 裏面：一部に敲打痕を有する。	
19	磨石	長さ [10.2] 幅 7.3 厚さ 4.5 重量 [501.3]	①安山岩製。 ④上部欠損。	表面に研磨痕跡、側面に敲打痕を有する。	
20	砥石	長さ 7.7 幅 6.9 厚さ 5.0 重量 135.9	①泥岩。 ④欠損。	表面、側面に線状痕。	
21	鉄鎌	長さ [2.5] 幅 [3.3] 厚さ 0.2 重量 [3.6]	④欠損。	刃部、背側。 背側は湾曲する。	

SI－5　（第18・19・20・21・22図）

平面形態　不明

規模　東西長7.42ｍである。

主軸方向　N－19°－Eである。

遺構所見　南側は調査区域外に延びている。重複関係はSI－7より新しく、SK－6より古い。そのほか、浅間A軽石が多量に含まれている複数の土坑に掘り込まれている。

その中で、カマド左袖部脇、中央部、西壁の外側にそれぞれ位置する3基の土坑からは、直径100cm～129cm、短径83cm～85cmの大型の礫がそれぞれ1個ずつ出土している（第5図参照）。特に中央部から出土した礫は、表面が剥落しており、自然面は一部しか残っていない。全面赤変しているため、火を受けているものと考えられる。それ以外の2個の礫も赤変している。これらの礫は、土坑に落とし込まれており、原位置からは動かされているが、3個が近接して出土していることから、近くに礎石建物跡が配置されていることが推測できる。

床は貼り床で、カマド前面からP1～P4の内側に硬化面が広がる。壁高は最大86cmである。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは4か所確認した。P1は長径56cm、短径44cm、深さ20cm、P2は東西径32cm、深さ50cm、P3は東西径40cm、深さ66cm、P4は長径50cm、短径44cm、深さ15cmである。P1～P4は位置から主柱穴と考えられる。

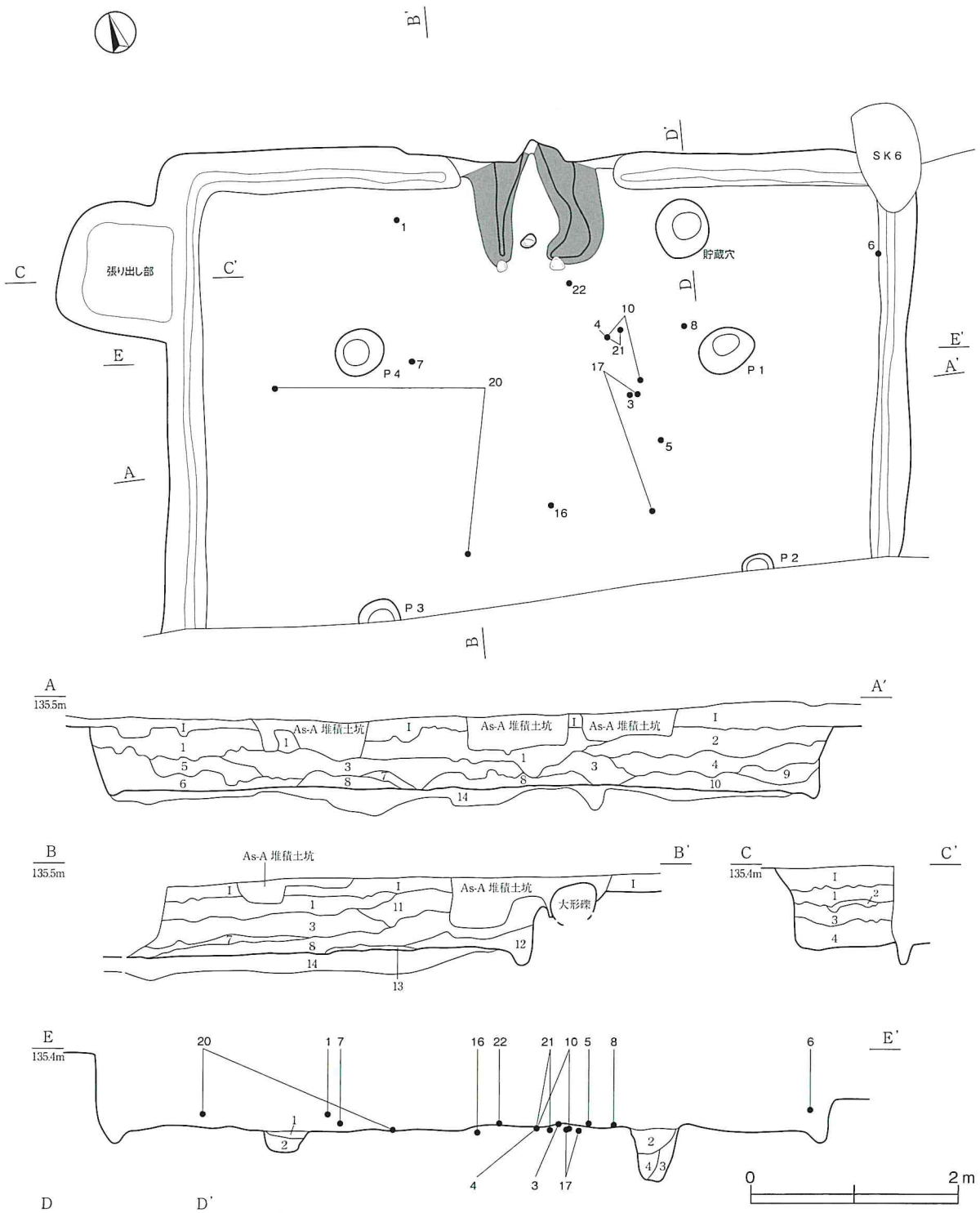
貯蔵穴はカマド右袖部脇に位置する。長径58cm、短径52cm、深さ66cmで、覆土下層にローム主体の褐色土、中層に明黄褐色粘土が堆積している。

北西コーナー付近には、東西114cm、南北130cmの張り出し部が設けられている。その覆土は黒褐色土と暗褐色土を基調としており、住居覆土に連続するため本住居跡に伴うものと判断した。底面は平坦で硬化面は認められない。壁は直立している。

覆土は13層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックとAs－YP軽石ブロックがあまり含まれていない。

住居掘方はAs－YP軽石層まで達しており、カマドから中央部にかけて島状に残されている。貼り床は黒褐色土で構築されており、硬く締まっている。

カマドは北壁中央部に付設されている。カマドの位置は、地山のAs－YP軽石層を一段高く掘り残して



D−D'(貯蔵穴)

1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック・ローム小ブロック中量、As-YP粒子・ローム粒子多量
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック中量、ローム小ブロック少量、As-YP粒子・ローム粒子多量
3　明黄褐色・粘土(10YR7/6)　粘性あり、締り強。As-YP小ブロック微量
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック中量。
5　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック・ローム小ブロック微量。
6　褐色土(10YR4/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、As-YP小ブロック少量、ローム粒子多量。

E−E'(P1・P2)

1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As-YP中ブロック微量、As-YP小ブロック中量、ローム粒子・As-YP粒子微量
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック多量、ローム小ブロック少量、As-YP粒子・ローム粒子多量
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締り強。ローム小ブロック・As-YP小ブロック中量。柱穴埋土。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP粒子少量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック微量

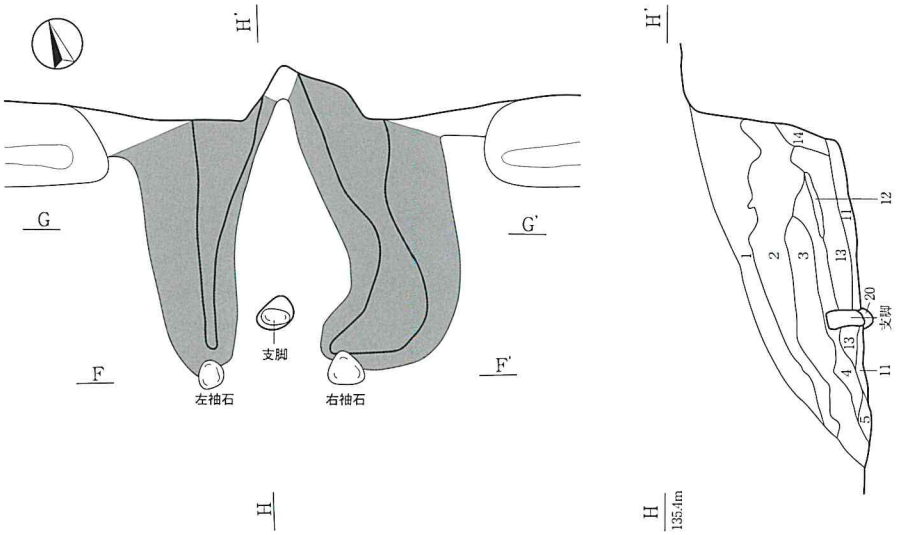
第18図　SI－5（1）

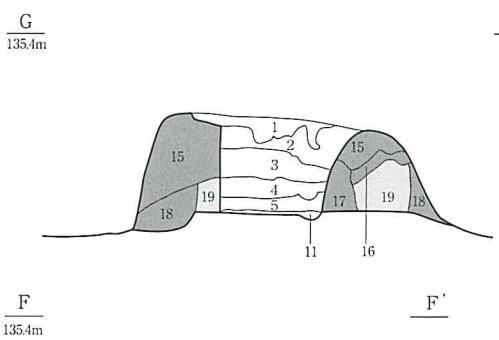
A−A'、B−B'

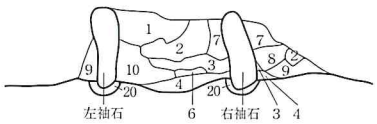
Ⅰ　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。※SI6の第Ⅳ層と同じ層。(包含層)
1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子少量(覆土)
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子少量(覆土)
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子少量(覆土)
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック・As−YP小ブロック少量、ローム小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム大ブロック微量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)
6　褐色土(10YR4/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)
7　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム大ブロック少量、ローム小ブロック微量(覆土)
8　褐色土(10YR4/4)　粘性あり、締りあり。ローム中ブロック中量、As−YP小ブロック少量、ローム粒子多量(覆土)
9　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)
10　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As−YP少ブロック多量、ローム粒子多量(覆土)
11　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As−YP粒子少量(覆土)
12　褐色土(10YR4/4)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)
13　明黄褐色土(10YR7/6)　粘性あり、締り強い。粘土(覆土)
14　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・明黄褐色粘土小ブロック多量(貼床構築土)

C−C'(張り出し部)

1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック微量、ローム粒子・As-YP粒子少量
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック・ローム小ブロック・As-YP粒子・ローム粒子少量
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム粒子・As-YP粒子少量
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As-YP小ブロック少量、ローム粒子微量
Ⅰ　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。焼土粒子・ローム粒子・As-YP粒子微量





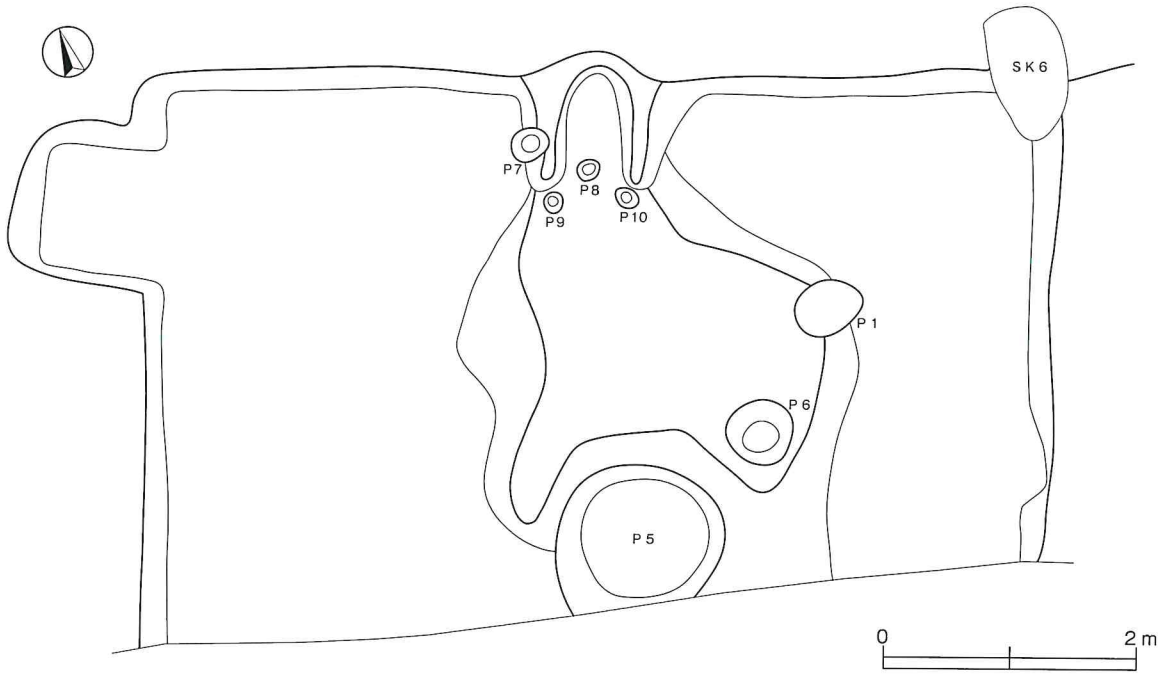


カマド

1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック・焼土小ブロック微量、明黄褐色粘土多量
2　明黄褐色・粘土(10YR7/6)　粘性あり、しまりあり。カマド構築材。As-YP小ブロック微量。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック少量、焼土粒子中量、明黄褐色粘土多量
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック中量、焼土粒子少量、明黄褐色粘土多量
5　赤褐色土(2.5YR4/8)　粘性弱い、締りあり。焼土・灰層含む。炭化粒子少量
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。焼土粒子多量
7　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。明黄褐色粘土多量
8　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。焼土粒子少量、As-YP粒子中量、明黄褐色粘土粒子多量
9　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As-YP小ブロック少量、明黄褐色粘土粒子多量
10　明赤褐色(2.5YR5/6)　粘性強い、締り強い。カマド構築材の明黄褐色粘土が火により赤変。As-YP小ブロック微量
11　灰(5Y6/1)　粘性なし、しまりなし。
12　明黄褐色・粘土(10YR7/6)　粘性強い、締り強い。カマド構築材の崩落
13　明赤褐色土(2.5YR5/6)　カマド構築材の明黄褐色粘土が被熱により赤変。
14　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。明黄褐色粘土・As-YP粒子・ローム粒子多量
15　明黄褐色・粘土(10YR7/6)　粘性強い、締り強い。As-YP小ブロック微量
16　明黄褐色・粘土(10YR7/6)　粘性強い、締り強い。As-YP小ブロック少量、暗褐色土小ブロック少量
17　明赤褐色土(2.5YR5/6)　粘性強い、締り強い。明黄褐色粘土が被熱により強く赤変
18　(10YR5/6)　黄褐色土　粘性あり、締り強い。As-YP小ブロック中量、明黄褐色粘土小ブロック少量、焼土粒子微量
19　地山As-YP層削り出し
20　据え付け穴埋土

0　1 m

第19図　SI－5（2）



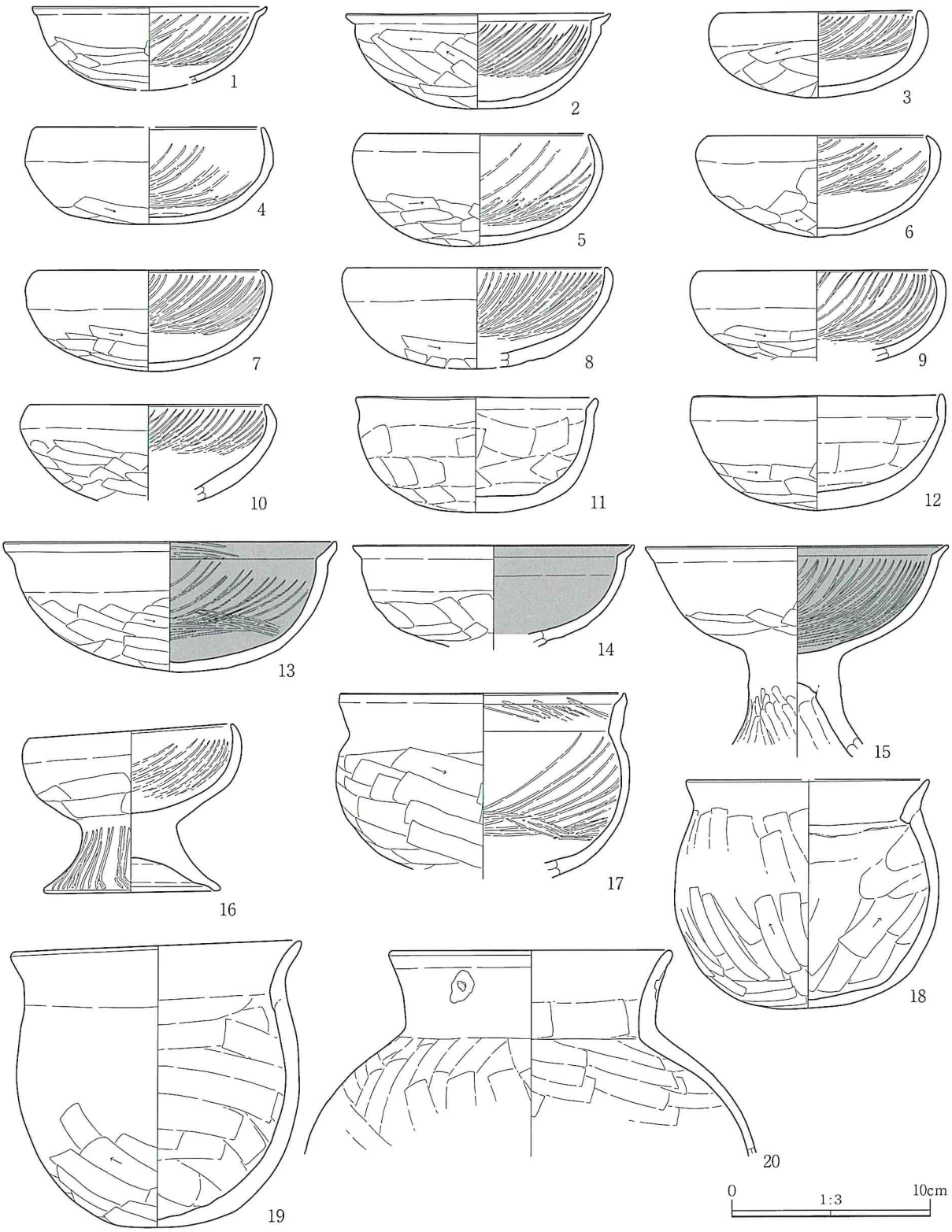
第20図　SI－5（3）

おり、火床部はAs－YP軽石層をそのまま使用している。長径20cm、短径14cm、深さ10cmのＰ８を掘り、自然礫の支脚が据えられている。支脚は全面赤変している。両袖部は、As－YP軽石層を削り出して芯にしており、それに明黄褐色粘土を積み上げて構築している。袖部の先端には、長径18cm、短径14cm、深さ12cmのＰ９と長径20cm、短径14cm、深さ14cmのＰ10を掘り、自然礫の袖石が据えられている。袖石の内側は全面赤変している。

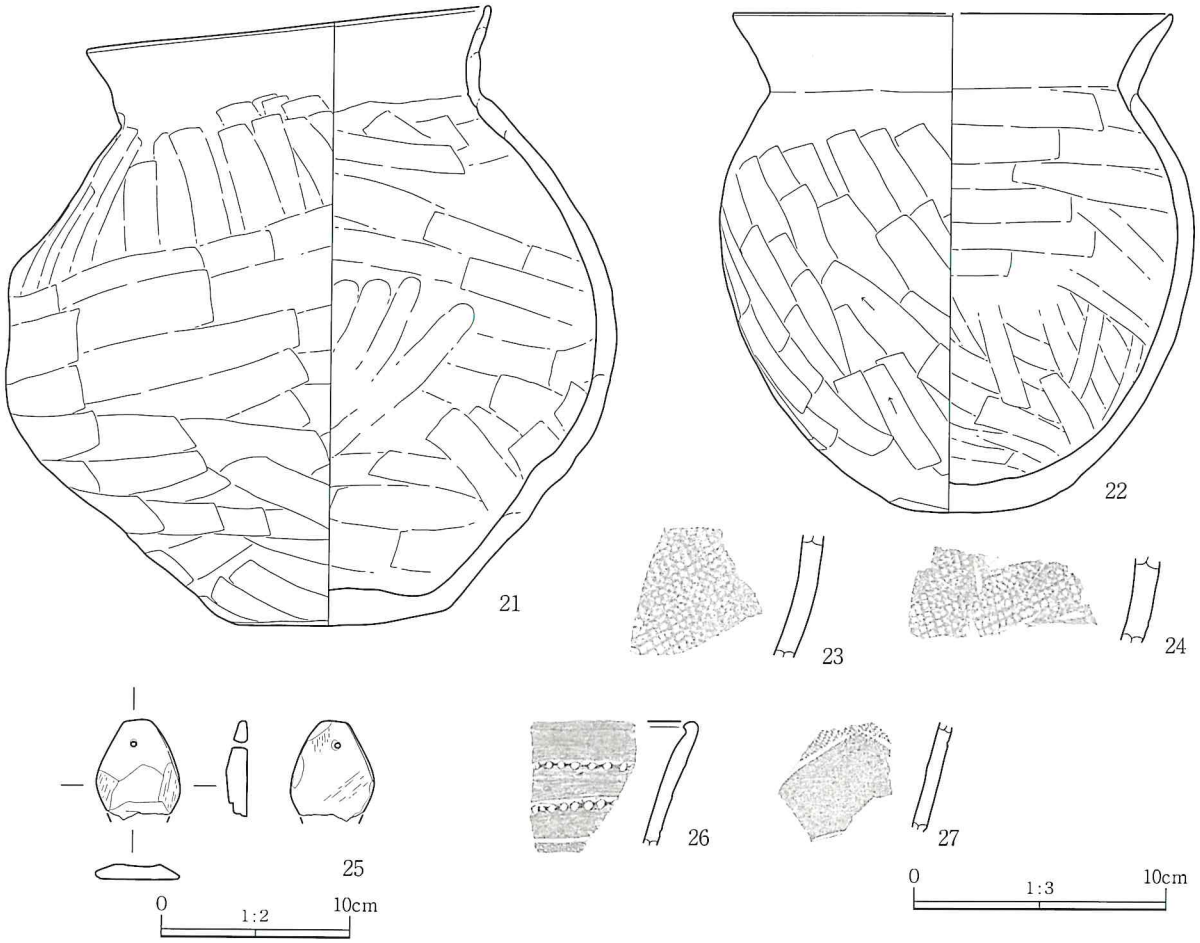
カマド土層断面の第11層は灰層で、そのすぐ上に焼土層が形成されている。

遺物所見　遺物は覆土中を中心に出土しているが、カマド周囲の床面にも遺物が集中している。覆土上・中層から出土した土器片は細片もしくは小片であり、覆土下層から床面にかけて大きな破片や完形品が出土している。完形の土師器坏が、東壁際（６）と中央部の覆土下層（３・４・５）からそれぞれ出土している。

時期　出土した土器から５世紀後半に位置づけられる。なお26・27の縄文土器は混入である。



第21図　SI－5出土遺物（1）



第22図　SI－5出土遺物（2）

表7　SI－5出土遺物観察表（1）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　11.8 底径　－ 器高　(4.2)	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　13.2 底径　－ 器高　4.8	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部上半渦巻状ミガキ。	
3	土師器 坏	口径　10.0 底径　－ 器高　4.4	①酸化焔②赤褐 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁～体部上半渦巻状ミガキ。	
4	土師器 坏	口径　(11.4) 底径　－ 器高　4.9	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色粒子、角閃石 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：体部渦巻状ミガキ。	
5	土師器 坏	口径　11.3 底径　－ 器高　5.7	①酸化焔②にぶい褐 ③白色・黒色粒子 ④完形	外面：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：体部渦巻状ミガキ。	
6	土師器 坏	口径　11.2 底径　－ 器高　5.1	①酸化焔②橙 ③白色・黒色粒 ④完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：体部上半渦巻状ミガキ。	
7	土師器 坏	口径　11.4 底径　－ 器高　5.1	①酸化焔②橙 ③白色・黒色粒子 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：体部上半渦巻状ミガキ。	
8	土師器 坏	口径　13.0 底径　－ 器高　[5.1]	①酸化焔②橙 ③白色粒子、赤色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
9	土師器 坏	口径　11.8 底径　－ 器高　[4.1]	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒、赤褐色・黒色粒子 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横位ナデ。体部下半以下ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
10	土師器 坏	口径　12.0 底径　－ 器高　[4.9]	①酸化焔②橙 ③白色粒子、石英、角閃石 ④口縁～体部2/3	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
11	土師器 坏	口径　11.9 底径　－ 器高　5.9	①酸化焔②にぶい黄褐 ③白色石、赤褐色粒 ④ほぼ完形	外面：体～底部ヘラ調整。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラナデ。	
12	土師器 坏	口径　12.4 底径　－ 器高　5.8	①酸化焔②にぶい黄橙 ③白色粒子、角閃石 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	

表８　SI－５出土遺物観察表（２）

13	土師器 坏	口径　16.5 底径　－ 器高　6.6	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤色粒、角閃石 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁～体部上半横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。黒色処理。	カマド構築材内出土。
14	土師器 坏	口径　14.0 底径　－ 器高　[5.3]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④坏部 2/3	外面：口縁～体部上半横位ナデ。体部下半ヘラケズリ。 内面：ナデ。黒色処理。	
15	土師器 高坏	口径　15.1 底径　－ 器高　[10.7]	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・黒色粒子 ④脚部下半欠損	外面：口縁部横位ナデ。坏体部ヘラ調整。脚部ミガキ。 内面：坏部放射状ミガキ。黒色処理。脚部ナデ。	
16	土師器 高坏	口径　10.3 底径　8.6 器高　8.6	①酸化焔②橙 ③石英、白色・褐色粒 ④ほぼ完存	外面：口縁部横位ナデ。坏体部ヘラ調整。脚部暗文状ミガキ。 内面：坏部放射状ミガキ、剥離。脚部横位ナデ。	
17	土師器 鉢	口径　14.3 底径　－ 器高　[9.3]	①酸化焔②橙 ③白色・黒色粒子 ④口縁～体部 3/4	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部・体部渦巻状ミガキ。	
18	土師器 鉢	口径　(12.2) 底径　－ 器高　11.5	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色粒、黒色粒子 ④口縁～底部 1/2	外面：口縁部横位ナデ。体部上半ヘラナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。丸底。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラナデ。	
19	土師器 小形甕	口径　14.4 底径　－ 器高　14.4	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・黒色・赤褐色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。ふきこぼれ状の付着物。丸底。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラナデ。	
20	土師器 壺	口径　(13.9) 底径　－ 器高　[10.4]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④口縁～胴部 3/4	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ。 内面：	
21	土師器 甕	口径　16.0 底径　8.4 器高　24.6	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色・赤褐色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラ調整。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	
22	土師器 甕	口径　(17.3) 底径　6.2 器高　19.9	①酸化焔②にぶい褐 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラ調整。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	
23	韓式系土器 甕？	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③白色・褐色粒子、角閃石 ④胴部片	外面：擬格子状タタキ目。 内面：ヘラナデ。	
24	韓式系土器 甕？	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③角閃石、褐色粒子 ④胴部片	外面：擬格子状タタキ目 内面：ヘラナデ。	
25	石製品 剣形	長さ　[2.6] 幅　[2.4] 厚さ　0.6 重量　[4.4]	①滑石製 ④刃部欠損	断面台形。茎部に穿孔１ヶ所。裏面多方向研磨痕。	
26	縄文 深鉢	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③白色粒子、角閃石 ④口縁部片	外面：口縁部にキザミをもつ微隆起線。沈線で区画後、縄文充填。 内面：横位ミガキ。	
27	縄文 深鉢	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③白色粒子、角閃石 ④胴部片	外面：沈線による区画後、ＬＲ単節縄文を充填。 内面：ナデ。	

SI－６　（第 23･24 図）

平面形態　不明

規模　不明

主軸方向　不明

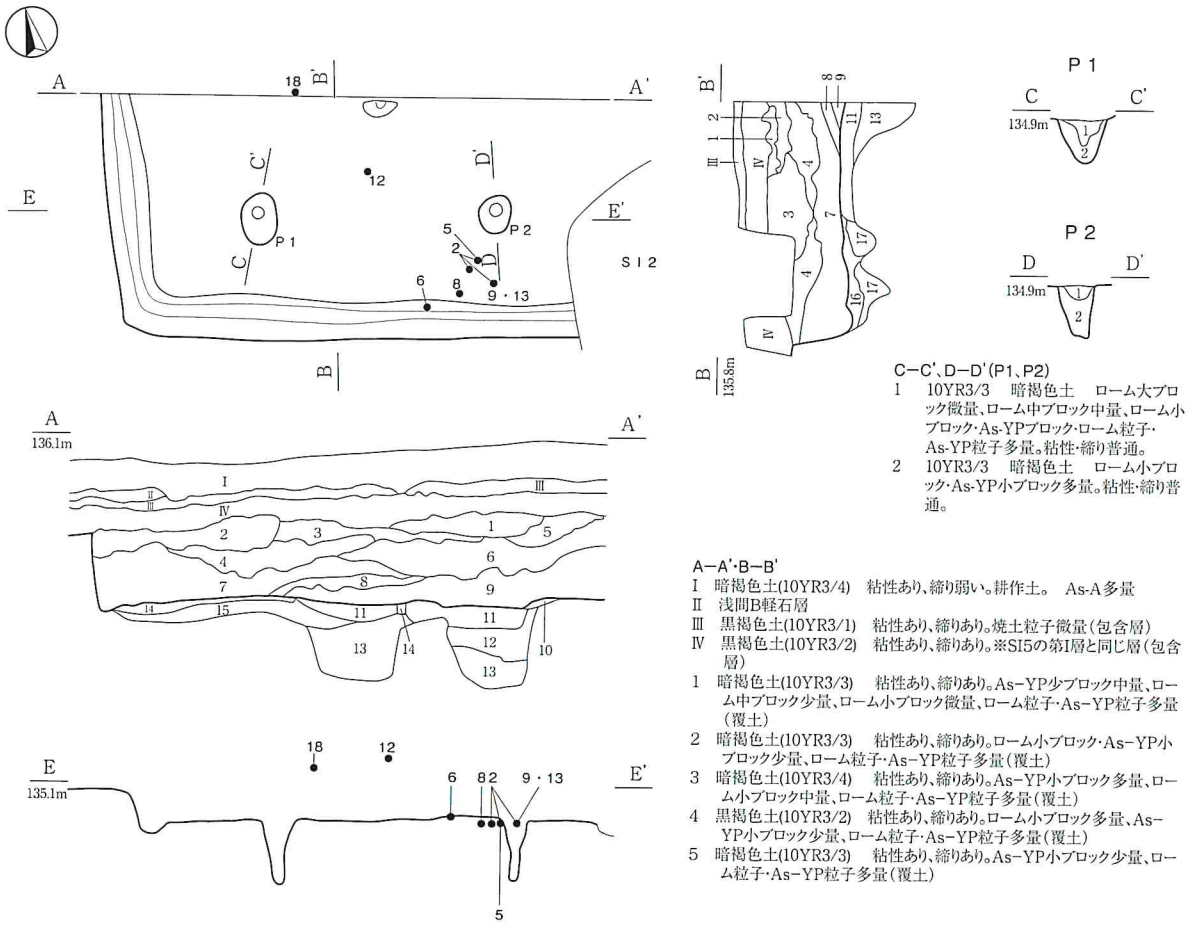
遺構所見　北側は調査区域外に延びている。重複関係はSI－２より古い。本住居跡はⅣ層（第 23 図）直下、基本土層Ⅱｂ層上面で検出できた。SI－２は基本土層Ⅱａ層上面で検出していることから層位的にも先後関係が把握できる。

床は貼り床で、硬化面は認められない。壁高は最大 35cm である。壁溝は各壁下で確認した。ピットは２か所確認した。Ｐ１は長径 41cm、短径 28cm、深さ 52cm、Ｐ２は長径 31cm、短径 25cm、深さ 50cm である。Ｐ１とＰ２は位置から主柱穴と考えられる。

覆土は９層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックと As－YP 軽石ブロックが含まれ、覆土下層の第７層と第９層に多量に含まれている。

住居掘方は As－YP 軽石層まで達しており、壁際だけ掘られ中央部が島状に残されている。Ｐ３～Ｐ８は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は黒褐色土で構築されており、硬く締まっている。

遺物所見　遺物は覆土中を中心に出土しているが、南壁際の覆土下層から床面にも遺物が集中している。覆土中から出土した土器片は、細片もしくは小片がほとんどであるが、剣形石製模造品（18）や韓式系土器（12･



C−C'、D−D'(P1、P2)

1　10YR3/3　暗褐色土　ローム大ブロック微量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・As-YPブロック・ローム粒子・As-YP粒子多量。粘性・締り普通。

2　10YR3/3　暗褐色土　ローム小ブロック・As-YP小ブロック多量。粘性・締り普通。

A−A'・B−B'

Ⅰ　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。耕作土。　As-A多量

Ⅱ　浅間B軽石層

Ⅲ　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり、締りあり。焼土粒子微量(包含層)

Ⅳ　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。※SI5の第Ⅰ層と同じ層(包含層)

1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As−YP少ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック多量、ローム小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

5　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

6　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量、ローム中ブロック中量、明黄褐色粘土小ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量(覆土)

8　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子少量(覆土)

9　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締りあり。ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量(覆土)

10　明黄褐色土(10YR7/6)　粘性あり、締り強い。As−YP小ブロック微量(貼床構築土)

11　黄褐色(2.5Y5/6)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・明黄褐色粘土・暗褐色土の混合土。(貼床構築土)

12　オリーブ褐(2.5Y4/4)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・明黄褐色粘土・暗褐色土の混合土。(床下土坑埋土)

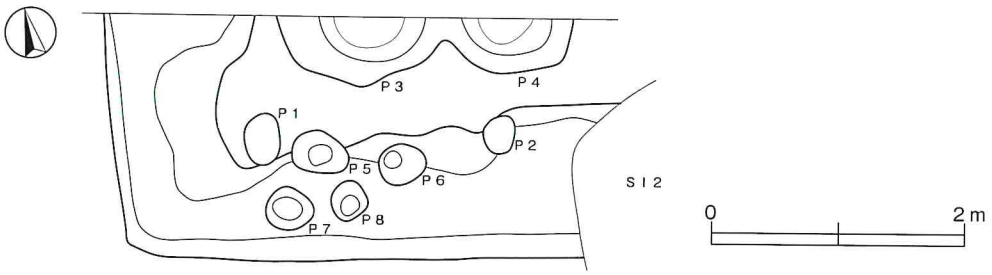
13　褐色(10YR4/4)　粘性あり、締り強い。As−YP小ブロック・明黄褐色粘土小ブロック・暗褐色土小ブロック多量(床下土坑埋土)

14　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量(貼床構築土)

15　黄色土(2.5Y4/4)　粘性あり、締り強い。As−YP小ブロック多量、ローム小ブロック・明黄褐色粘土小ブロック少量(貼床構築土)

16　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、締り強い。ローム小ブロック、As-YP小ブロック中量、ローム粒子・As-YP粒子多量。(貼床構築土)

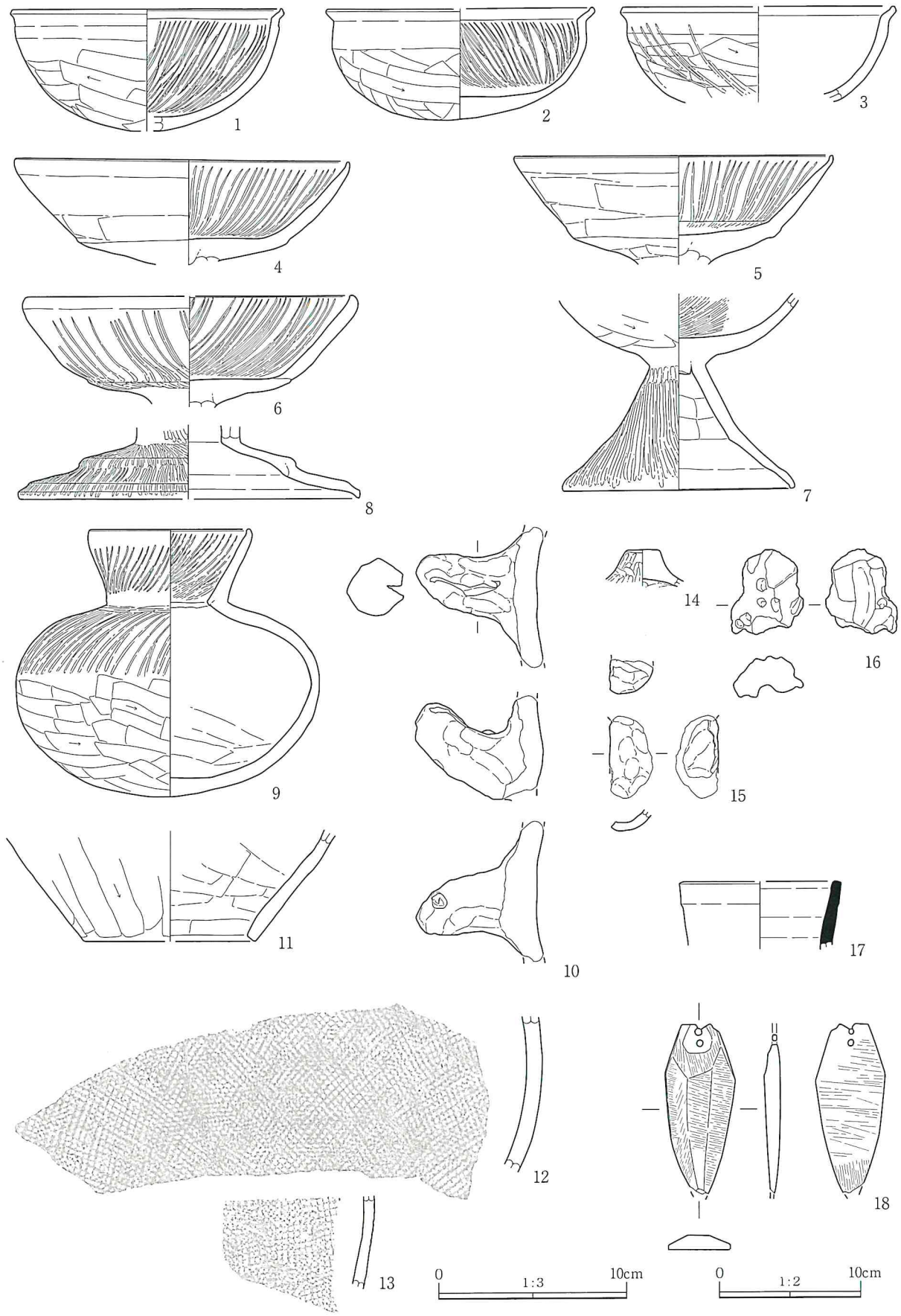
17　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり、締り強い。暗褐色土・As-YP小ブロックの混合土。(貼床構築土)



第23図　SI－6

13）も覆土中から出土している。床面からは土師器壺（9）の破片が潰れた状態で出土している。

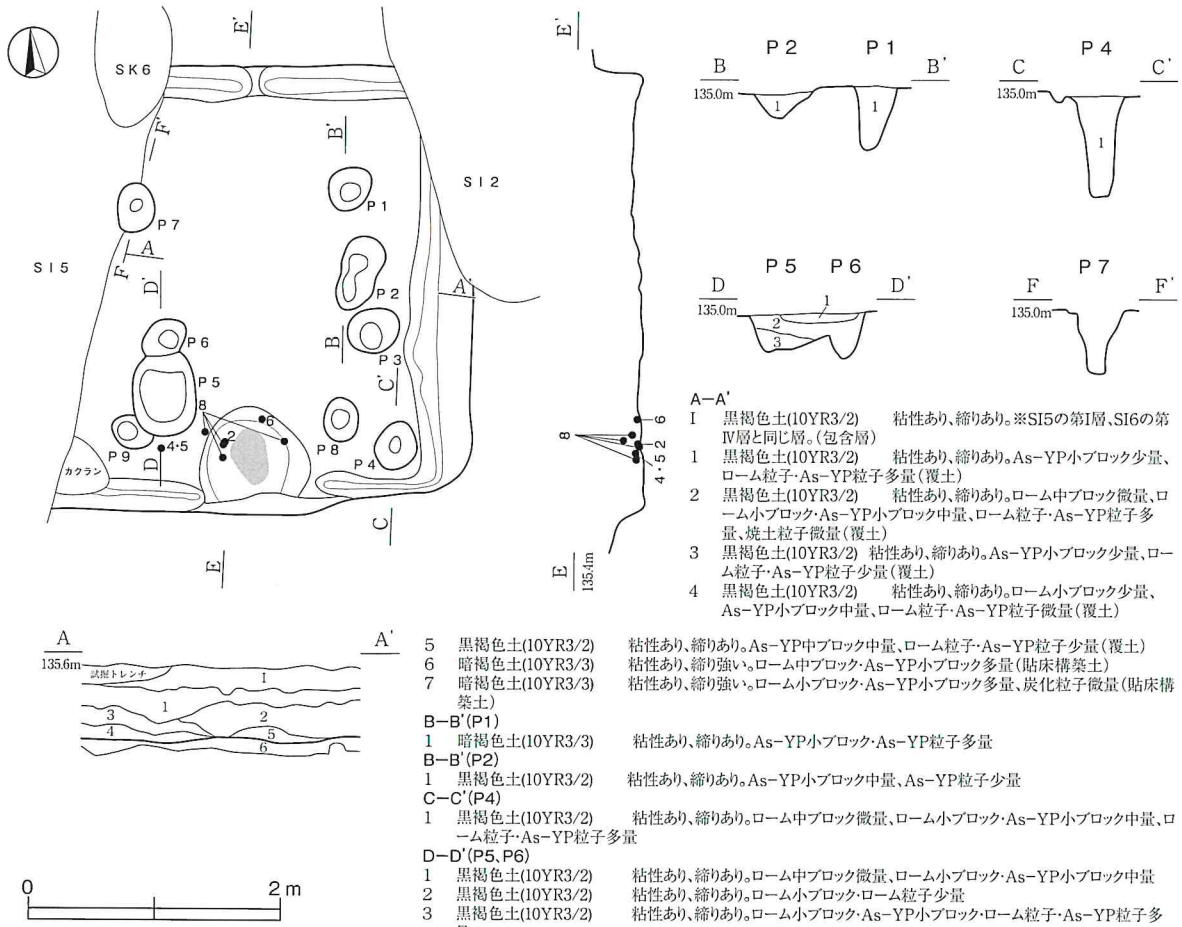
時期　出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。

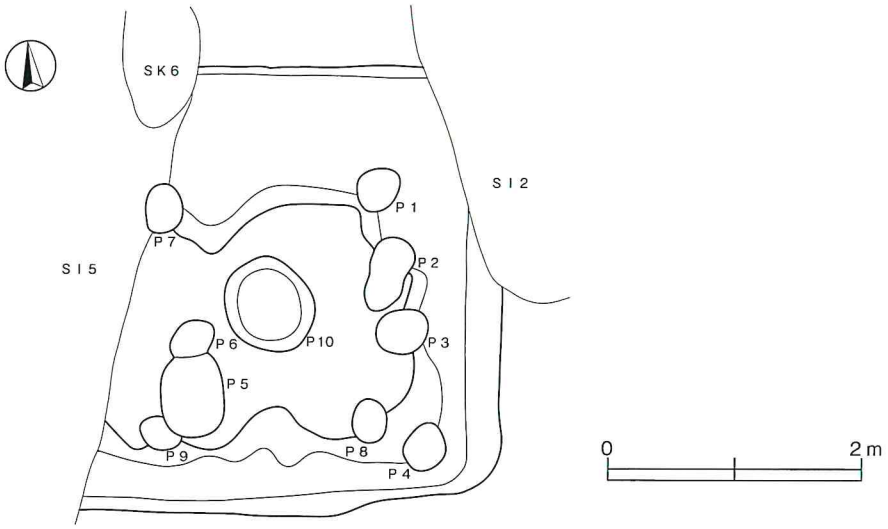


第24図　SI－6出土遺物

南壁際の中央部が皿状にくぼんでおり、一部強く焼けて赤変している。カマド構築材等は確認できないが、カマドの可能性が考えられる。

住居掘方はAs－YP軽石層まで達しており、壁際だけ掘られ中央部が島状に残されている。P 10はさらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、ロームブロックとAs－YP軽石ブロックを多量に含む暗褐色土で構築されている。





第25図 SI－7

表９　SI－６出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　14.3 底径　－ 器高　6.5	①酸化焔②明赤褐 ③白色石、赤褐色粒、角閃石 ④口縁～底部 1/4	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　(14.0) 底径　－ 器高　6.0	①酸化焔②明赤褐 ③白色・黒色・赤褐色粒 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体～底部渦巻状ミガキ。	
3	土師器 坏	口径　(14.4) 底径　－ 器高　[5.1]	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒子、赤褐色粒 ④口縁～体部 1/2	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ後ミガキ。 内面：剥離。	
4	土師器 高坏	口径　17.6 底径　－ 器高　[5.7]	①酸化焔②橙 ③石英・赤褐色粒子 ④坏部	外面：横位ナデ。坏部下端横位ヘラナデ。口縁端部内湾。 内面：渦巻状ミガキ。	
5	土師器 高坏	口径　16.8 底径　－ 器高　[5.8]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒 ④坏部	外面：横位ヘラナデ。 内面：渦巻状ミガキ。口縁端部肥厚。	
6	土師器 高坏	口径　(17.2) 底径　－ 器高　[5.9]	①酸化焔②橙 ③白色粒子、角閃石 ④坏部 1/3	外面：口縁部横位ナデ。放射状ミガキ。 内面：放射状ミガキ。	
7	土師器 高坏	口径　－ 底径　12.1 器高　[10.6]	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒子 ④坏部～脚部	外面：坏部ヘラケズリ。脚部ミガキ。 内面：坏部ミガキ。脚部ヘラケズリ。裾端部内湾。	
8	土師器 高坏	口径　－ 底径　(17.9) 器高　[3.9]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④脚部 1/2	外面：放射状ミガキ。 内面：ナデ。裾端部内湾。	
9	土師器 壺	口径　8.4 底径　－ 器高　14.3	①酸化焔②明赤褐 ③石英、角閃石 ④ほぼ完存	外面：口頸部～肩部放射状ミガキ。胴～底部ヘラケズリ。 内面：口頸部放射状ミガキ。胴部ヘラナデ。口縁端部肥厚。	
10	土師器 甑	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒子、角閃石 ④把手部	外面:牛角形把手。上面に切り込み後、ユビによる整形。下面に刺突。	
11	土師器 甑	口径　－ 底径　(9.0) 器高　[5.9]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒 ④体～底部 1/3	外面：縦位ヘラケズリ。 内面：横位ヘラナデ。下端部面取り。	貼床内出土。
12	韓式系土器 甕？	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④胴部片	外面：擬格子状タタキ目。 内面：ヘラナデ。	
13	韓式系土器 甕？	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③角閃石、赤褐色粒 ④胴部片	外面：擬格子状タタキ目。 内面：ナデ。	
14	土製品 蓋？	摘み径 1.7 口径　－ 器高　[2.0]	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒子 ④摘み片	外面：ミガキ。頂部ユビによる整形。 内面：ナデ、ミガキ。	
15	土製品 土鈴か	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②明褐 ③石英、赤褐色粒子、角閃石 ④破片	外面：ヘラ状工具による切り込み。ユビナデ。 内面：ユビによる整形。	
16	土製品 焼成塊	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい黄橙 ③石英、赤褐色粒子、角閃石 ④破片	外面：複数の穿孔が認められる。	
17	須恵器 壺	口径　(8.6) 底径　－ 器高　[3.6]	①酸化焔②灰 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁部 1/4	外面：ロクロ整形。口縁端部肥厚。 内面：ロクロ整形。	
18	石製品 剣形	長さ　[6.0] 幅　3.0 厚さ　0.5 重量　10.7	①滑石製 ④一部欠損	表面：横裁面形台形。茎部穿孔２孔。 裏面：横方向・縦方向研磨痕。	

SI－７　（第 25･26 図）

平面形態　不明

規模　不明

主軸方向　不明

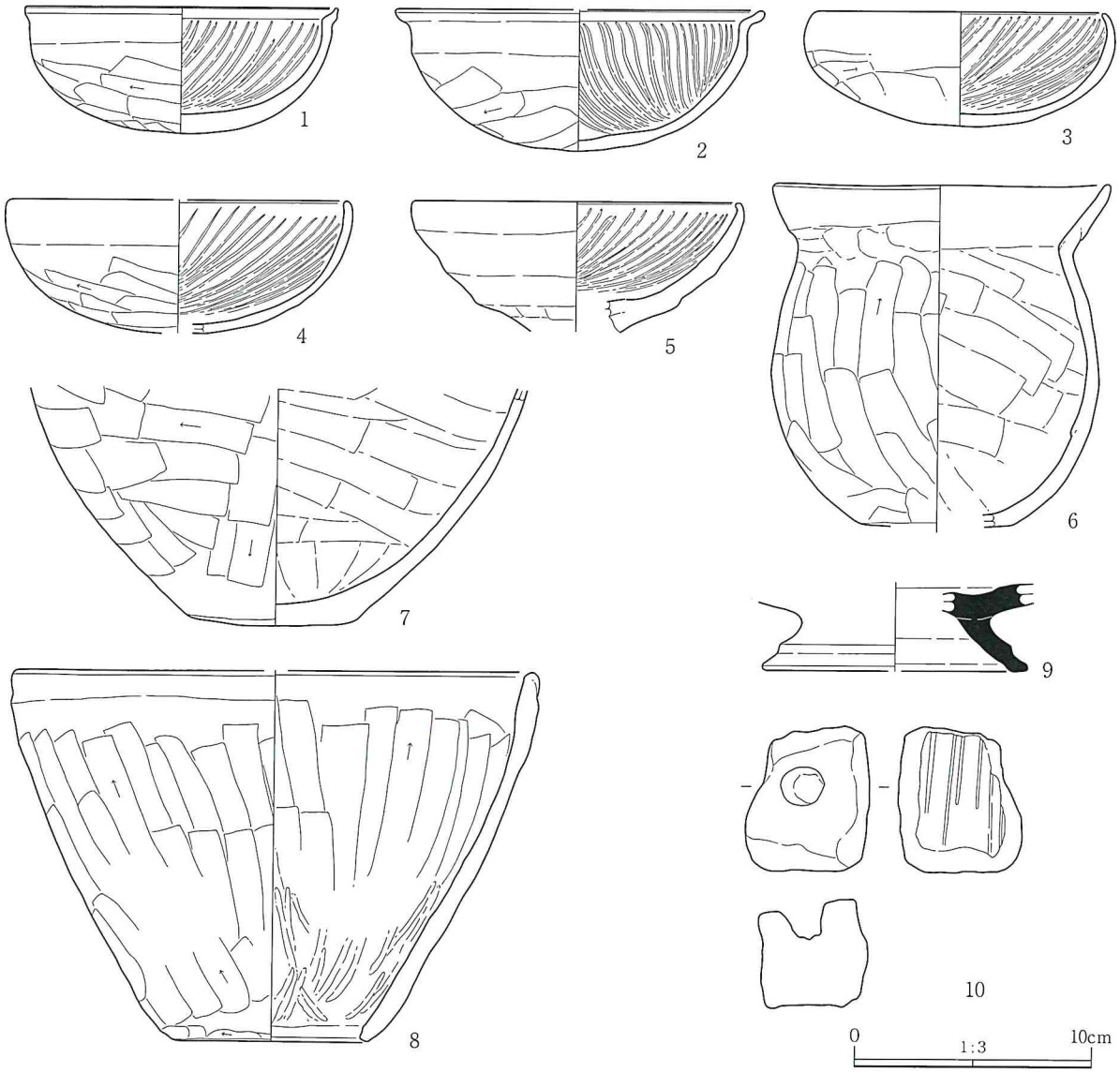
遺構所見　重複関係はSI－２・３・５、SK－６より古い。床は貼り床で、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ５～Ｐ８の内側に硬化面が広がる。壁高は最大 36cm である。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは９か所確認した。Ｐ１は長径 37cm、短径 33cm、深さ 50cm、Ｐ２は長径 61cm、短径 29cm、深さ 25cm、Ｐ３は長径 42cm、短径 36cm、Ｐ４は長径 42cm、短径 36cm、深さ 81cm、Ｐ５は長径 63cm、短径 50cm、深さ 30cm、Ｐ６は長径 40cm、短径 30cm、深さ 51cm、Ｐ７は長径 39cm、短径 30cm、深さ 35cm、Ｐ８は長径 35cm、短径 27cm、Ｐ９は長径 35cm、短径 26cm である。

覆土は５層に分層できる。黒褐色土を基調としており、覆土中層から下層に堆積している第２・第４・第５層にロームブロックと As－YP 軽石ブロックが多く含まれているのが特徴である。

遺物所見　遺物は覆土中を中心に出土しており、土器片の多くは細片もしくは小片である。南壁際中央部の覆土下層から床面にかけて、土師器の大きな破片が集中している。

時期　出土した土器から５世紀後半に位置づけられる。なお９の須恵器高盤は混入と考えられる。



第26図　SI－７出土遺物

表10　SI－７出土遺物観察表（１）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　13.0 底径　－ 器高　5.3	①酸化焔②橙 ③石英、白色・赤褐色粒 ④完形	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。口縁端部つまみ出し。 内面：口縁部横位ナデ。体部渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　(15.3) 底径　－ 器高　6.0	①酸化焔②明赤褐 ③石英、赤褐色粒 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部渦巻状ミガキ。	
3	土師器 坏	口径　12.0 底径　－ 器高　4.9	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒 ④口縁～底部 3/4	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
4	土師器 坏	口径　(14.1) 底径　－ 器高　5.8	①酸化焔②明赤褐 ③白色・黒色粒子、石英 ④口縁～底部 1/3	外面：口縁部横位ナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
5	土師器 高坏	口径　13.7 底径　－ 器高　[5.5]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子 ④坏部	外面：口縁部横位ナデ。口縁部下端ヘラ調整。 内面：放射状ミガキ。	

表11　SI－7出土遺物観察表（2）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 甕	口径　13.9 底径　(6.3) 器高　14.6	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ。底部平底か。 内面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ。	
7	土師器 甕	口径　－ 底径　6.9 器高　[10.1]	①酸化焔②明黄褐 ③赤褐色粒子、角閃石 ④胴部～底部	外面：胴部ヘラケズリ。 内面：胴部ヘラナデ。	
8	土師器 甑	口径　(21.6) 底径　(8.0) 器高　15.6	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒 ④口縁～底部1/4	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：体部上半ヘラケズリ。体部下半ミガキ。	
9	須恵器 蓋	口径　－ 底径　(10.9) 器高　[3.7]	①還元焔②灰白 ③白色粒子 ④体部～台部1/4	外面：ロクロ整形。台端部は強いナデにより稜を作出する。 内面：ロクロ整形。	
10	石製品 砥石	長さ　6.1 幅　5.2 厚さ　4.6 重量　98.5	①泥岩製 ④欠損	上面穿孔、未調整、未貫通。側面に線状痕。	

SI－8　（第27・28・29・30図）

平面形態　不明

規模　東西長3.95ｍである。

主軸方向　N－129°－Eである。

遺構所見　重複関係はSI－10より新しい。

床はカマド部分を除いて貼り床である。硬化面は床面全体に広がる。壁高は最大120cmである。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは6か所確認した。南東壁際にカマドを挟んで2か所、南西壁際に4か所位置している。Ｐ４ＡとＰ４ＢはＰ４Ａが新しく、柱を据え直したものと考えられる。Ｐ４Ｂの覆土は締りが強い。Ｐ１は長径36cm、短径26cm、深さ22cm、Ｐ２は長径39cm、短径35cm、深さ52cm、Ｐ３は長径30cm、短径26cm、深さ36cm、Ｐ４Ａは長径37cm、短径26cm、深さ62cm、Ｐ４Ｂは31cmだけ確認でき、深さ45cmである。Ｐ５は長径36cm、短径21cm、深さ47cmである。

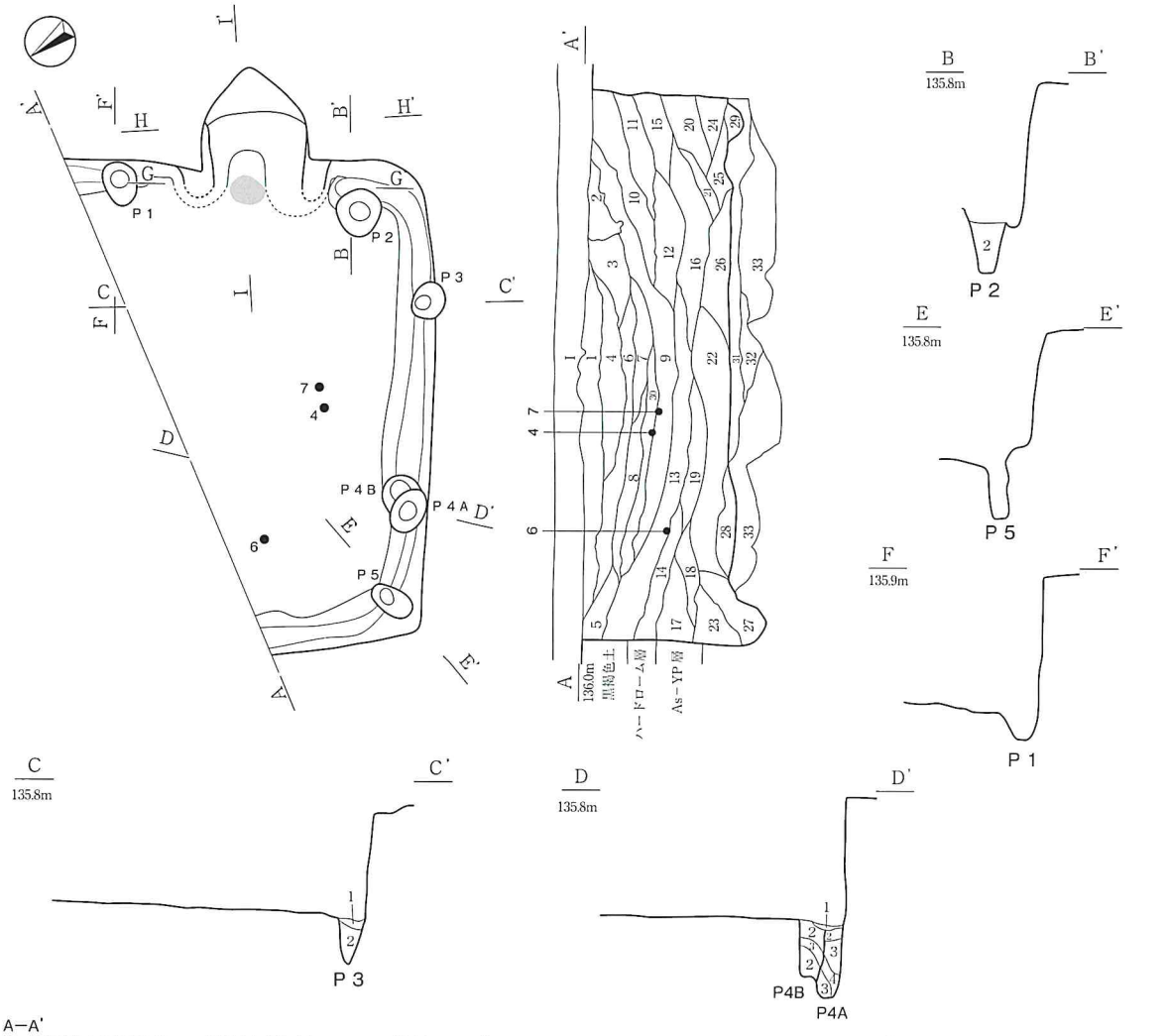
覆土は30層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、レンズ状の堆積をしている。全体的にロームブロックとAs－YP軽石ブロックが含まれており、覆土上層の第2層と覆土中層の第30層は、ローム主体の土である。

カマドは東壁のやや南寄りに付設されている。煙道部は、確認面の黒褐色土からAs－YP軽石層まで掘り込まれており、地山に粘土を貼り付けて構築している。粘土は強く焼けており、赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、As－YP軽石層をそのまま使用しており、一部強く焼けて赤変している。両袖部は、As－YP軽石層を削り出して芯にしており、そこに明黄褐色粘土を積み上げて構築している。袖部の内側は、強く焼けて赤変している。カマド土層断面の第4層は灰層である。その上に堆積している第1～第3・第9・第10層は、天井部等のカマド構築材が崩落したものと考えられる。第1層の上に堆積している第11～第13層は、ロームブロックとAs－YP軽石ブロックが多量に含まれており、人為堆積土と考えられる。

住居掘方は、カマド部分を除いた全体をAs－YP軽石層を土坑状に掘り込み、明黄褐色粘土層まで達している。土坑は不整形で大きさと深さは不統一で、切り合いが認められる。As－YP軽石ブロックおよび明黄褐色粘土ブロックを多量に含む、黒褐色土と明黄褐色粘土で構築されている。

遺物所見　遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。覆土中層および覆土下層から須恵器の蓋、貼り床構築土中、掘方から土師器鉢（2）・甕（3）が出土している。

時期　遺物の出土状況から考えると、本住居跡は7世紀後半～7世紀末におさまるものと考えられる。



A−A'

I	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。※SI5·7の第I層、SI6の第Ⅳ層と同じ層。(包含層)
1	褐色土(10YR4/4)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック少量(覆土)
2	黄褐色土(10YR5/6)	粘性あり、締りあり。ローム。(覆土)
3	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック少量、ローム粒子·As−YP粒子中量(覆土)
4	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック微量、ローム粒子·As−YP粒子中量(覆土)
5	褐色土(10YR4/4)	粘性あり、締りあり。As−YP中ブロック微量、ローム小ブロック·As−YP小ブロック多量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
6	黒褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、As−YP小ブロック多量、ローム小ブロック少量(覆土)
7	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック中量、焼土粒子微量(覆土)
8	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム中ブロック少量、ローム小ブロック中量(覆土)
9	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック多量、ローム粒子·As−YP粒子少量(覆土)
10	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック少量、ローム粒子·As−YP粒子少量(覆土)
11	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック中量、ローム粒子·As−YP粒子少量(覆土)
12	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック少量、明黄褐色粘土小ブロック微量(覆土)
13	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック多量、明黄褐色粘土小ブロック微量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
14	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック中量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
15	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック·明黄褐色粘土小ブロック·ローム粒子·As−YP粒子少量(覆土)
16	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック微量、As−YP小ブロック少量、明黄褐色粘土小ブロック·ローム粒子·As−YP粒子中量(覆土)
17	暗褐色土(10YR3/3)	ローム小ブロック·ローム粒子·As−YP粒子多量、明黄褐色粘土中ブロック微量、As−YP小ブロック少量(覆土)
18	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり、締りあり。As−YP中ブロック微量、ローム小ブロック·As−YP小ブロック多量、明黄褐色粘土中ブロック少量(覆土)
19	黒褐色土(10YR3/2)	明黄褐色粘土中ブロック少量、As−YP小ブロック中量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
20	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック·ローム粒子微量(覆土)
21	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
22	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。明黄褐色粘土中ブロック微量、ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック少量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
23	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック微量、ローム粒子·As−YP粒子中量(覆土)
24	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム粒子·As−YP粒子微量(覆土)
25	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。明黄褐色粘土小ブロック·As−YP小ブロック微量(覆土)
26	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。明黄褐色粘土小ブロック·As−YP小ブロック多量(覆土)
27	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック中量、ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
28	褐色土(10YR4/4)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック多量(覆土)
29	明黄褐色粘土(10YR7/6)	粘性あり、締り強い。粘土。暗褐色土小ブロック中量(覆土)
30	黄褐色土(10YR5/6)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック·As−YP小ブロック·ローム粒子·As−YP粒子多量(覆土)
31	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性あり、締り強い。As-YP小ブロック·明黄褐色粘土小ブロック·ローム小ブロック·暗褐色土小ブロック多量(貼床構築土)
32	褐色土(10YR4/4)	粘性あり、締り強い。As-YP小ブロック·明黄褐色粘土小ブロック·ローム小ブロック·暗褐色土小ブロック多量(貼床構築土)
33	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり、締り強い。As-YP小ブロック·明黄褐色粘土小ブロック·ローム小ブロック·暗褐色土小ブロック·ローム大ブロック多量(貼床構築土)

0　2m

第27図　SI－8（1）

B−B'、C−C'(P2、P3)

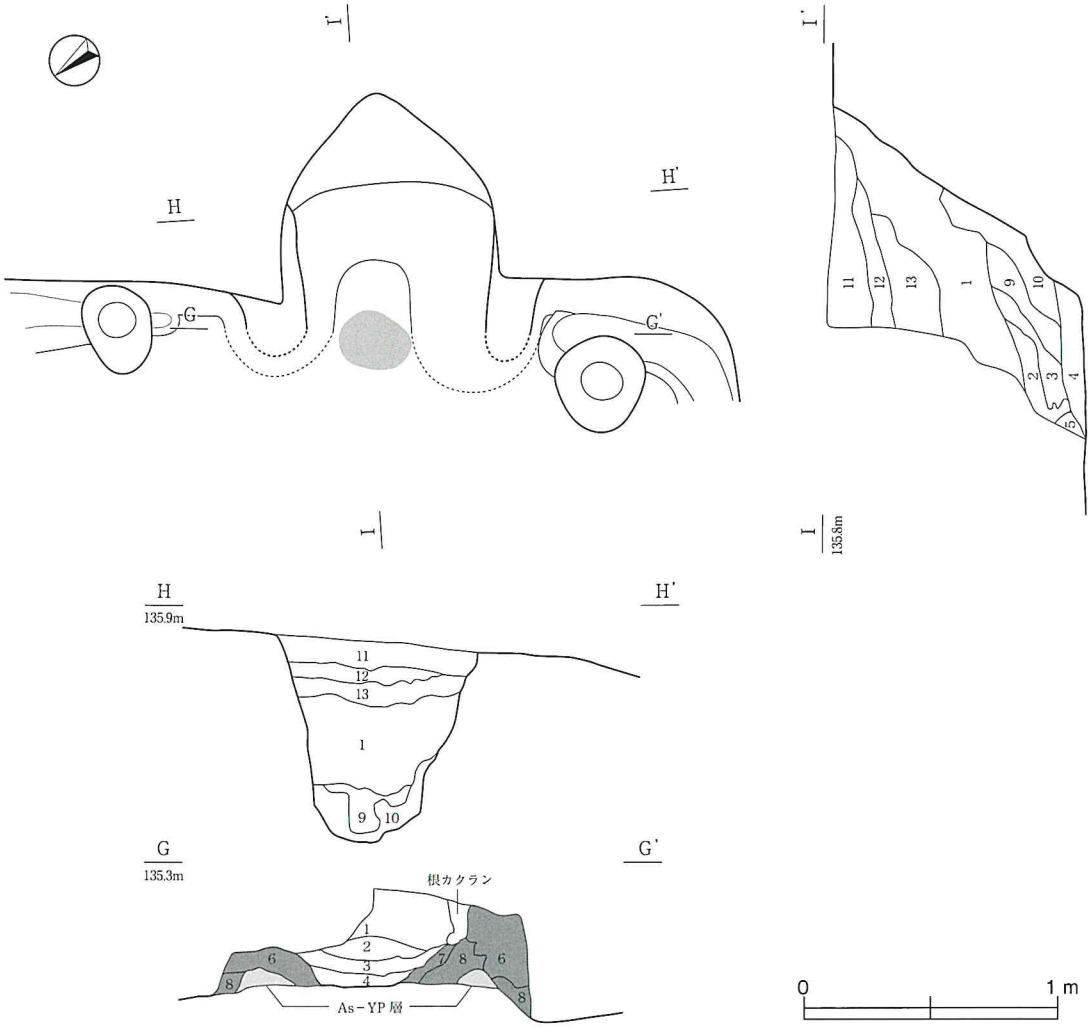
1	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック中量、ローム小ブロック少量
2	褐色土(10YR4/4)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量

D−D'(P4A)

1	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック微量
2	褐色土(10YR4/6)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック少量
3	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック中量
4	褐色土(10YR4/6)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量

D−D'(P4B)

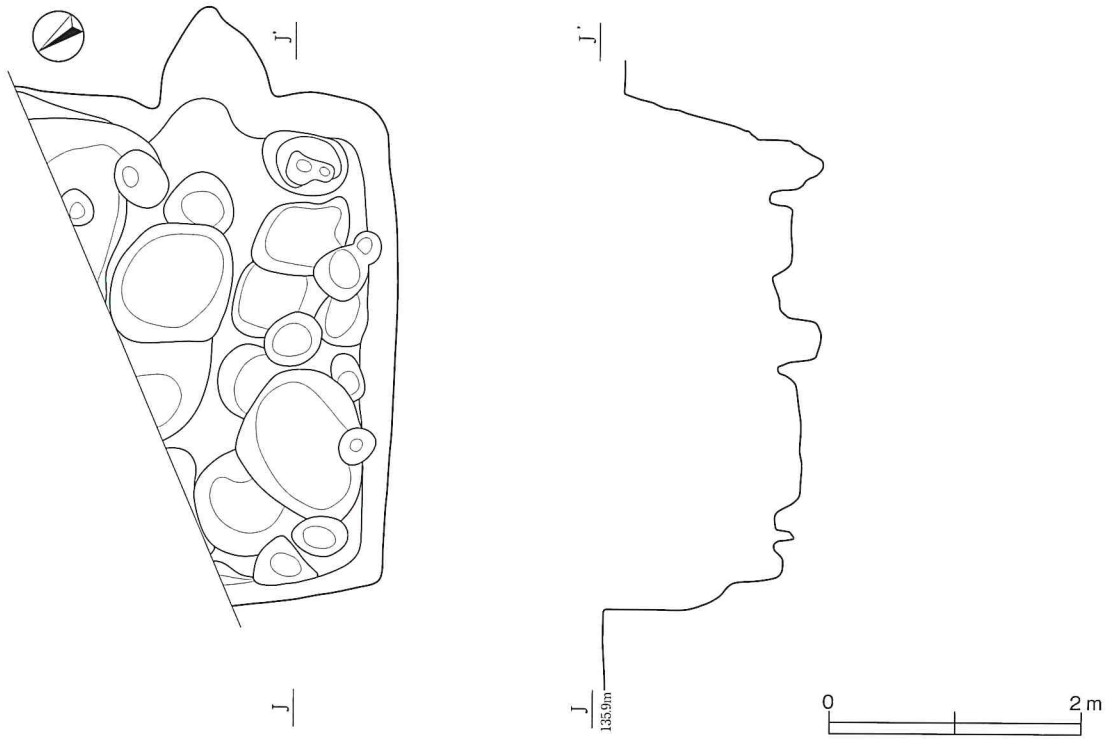
1	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締り強い。As−YP小ブロック少量
2	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり、締り強い。ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック多量
3	褐色土(10YR4/6)	粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量



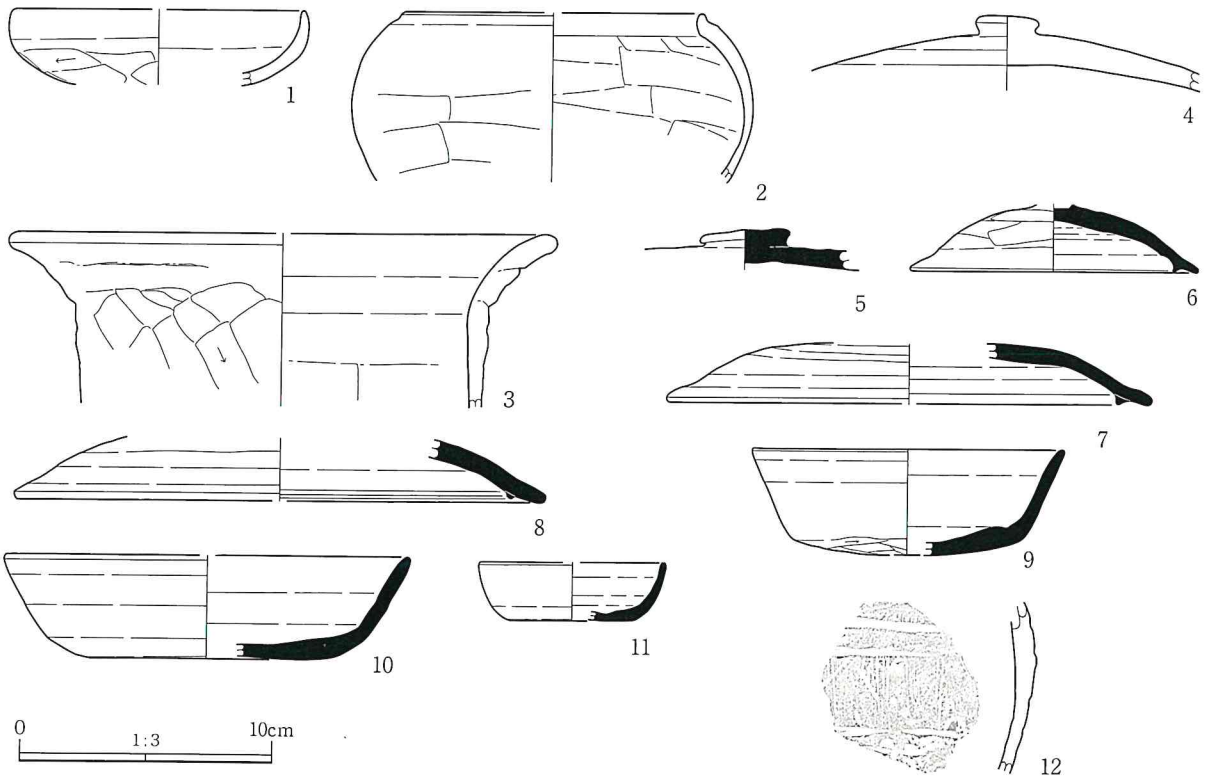
カマド

1	黄橙色粘土(10YR8/6)	粘性強い、締り強い。暗褐色土小ブロック少量。カマド構築材。
2	黄橙色粘土(10YR8/6)	粘性強い、締り強い。暗褐色小ブロック中量、焼土小ブロック微量。カマド構築材。
3	黄橙色粘土(10YR8/6)	粘性強い、締り強い。As−YP小ブロック微量。カマド構築材。
4	灰(5Y6/1)	粘性なし、締り弱い。焼土粒子中量、炭化粒子微量。灰層。
5	黄橙色粘土(10YR8/6)	粘性強い、締り強い。As−YP粒子少量。カマド構築材。
6	黄橙色粘土(10YR8/6)	粘性強い、締り強い。As−YP小ブロック少量。カマド構築材。
7	赤褐色粘土(2.5YR4/8)	粘性強い、締り強い。袖部。
8	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、締り強い。暗褐色土小ブロック・As−YP小ブロック多量。袖部。
9	赤褐色粘土(2.5YR4/8)	粘性強い、締り強い。As−YP小ブロック微量。カマド構築材。
10	黒褐色土小ブロック・As−YP小ブロック・明黄褐色粘土の混合土。	粘性強い、締り強い。カマド構築材。
11	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子・焼土粒子微量
12	暗褐色土(10YR3/4)	ローム小ブロック・As−YP小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量、焼土粒子微量
13	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量

第28図　SI − 8（2）



第29図　SI－8（3）



第30図　SI－8出土遺物

表12　SI－8出土遺物観察表

遺物№	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　(11.4) 底径　－ 器高　[3.0]	①酸化焔②橙 ③石英、黒色粒 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：横位ナデ。	
2	土師器 鉢	口径　(11.7) 底径　－ 器高　[6.7]	①酸化焔②にぶい褐 ③片岩、白色・赤褐色粒 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	貼床内出土。
3	土師器 甕	口径　(20.8) 底径　－ 器高　[6.9]	①酸化焔②にぶい橙 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④口縁～胴部 1/6	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部横位ヘラナデ。	貼床内出土。
4	須恵器 蓋	摘み径 2.5 底径　－ 器高　[3.0]	①酸化焔②にぶい褐 ③石英、赤褐色粒 ④摘み～天井部片	外面：天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
5	須恵器 蓋	摘み径 3.6 底径　－ 器高　[1.6]	①還元焔②灰白（サンドイッチ状） ③黒色粒子 ④摘み～天井部片	外面：ロクロ整形。摘み扁平。 内面：ロクロ整形。	
6	須恵器 蓋	口径　11.3 底径 器高　[2.7]	①還元焔②黄灰 ③赤褐色・白色粒子 ④天井～口縁部 3/4	外面：天井部手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
7	須恵器 蓋	口径　(18.8) 底径 器高　[2.4]	①還元焔②灰 ③白色粒子 ④天井～口縁部 1/4	外面：天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
8	須恵器 蓋	口径　(20.0) 底径 器高　[2.5]	①還元焔②灰白 ③灰色粒 ④天井～口縁部 1/2	外面：天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
9	須恵器 坏	口径　(12.2) 底径　－ 器高　4.2	①還元焔②灰白 ③黒色粒子 ④口縁～底部 1/4	外面：ロクロ整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
10	須恵器 坏	口径　(15.8) 底径　(10.2) 器高　4.1	①還元焔②灰 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁～底部 1/4	外面：ロクロ整形。底部静止ヘラ切り。 内面：ロクロ整形。	
11	須恵器 小坏	口径　(6.6) 底径　(5.0) 器高　2.3	①還元焔②灰 ③黒色・白色粒子 ④口縁～底部 1/4	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。 内面：ロクロ整形。	
12	土師器 壺	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②にぶい褐 ③片岩、白色粒 ④胴部片	外面：ハケメの後、沈線による施文。 内面：ナデ。	貼床内出土。

SI－9　（第31･32図）

平面形態　不明

規模　不明

主軸方向　不明

遺構所見　重複関係はSB－1・SI－4より古い。床は貼り床で、硬化面は認められない。SB－1の下層に位置し、壁高は最大30cm残っている。

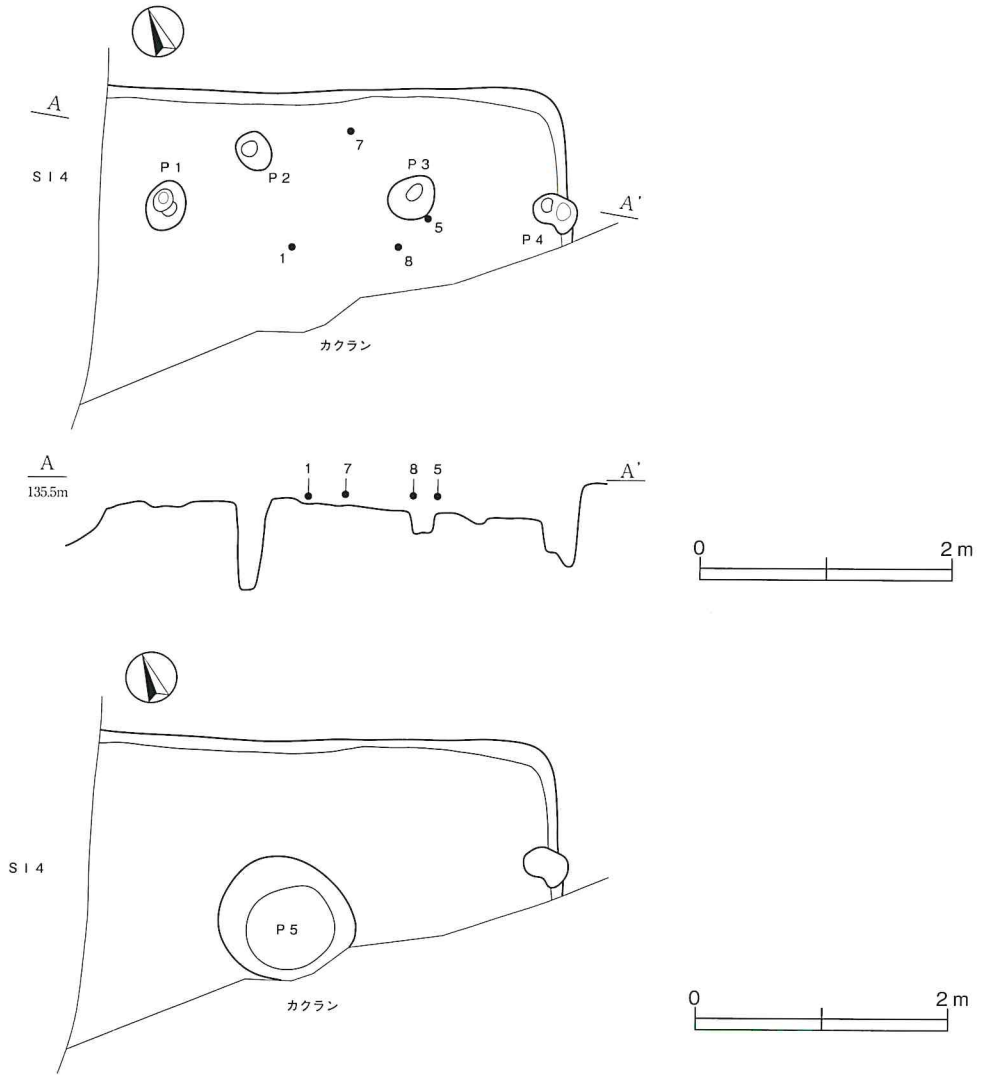
ピットは4か所確認した。P1は長径40cm、短径30cm、P2は長径32cm、短径26cm、深さ70cm、P3は長径40cm、短径34cm、深さ19cm、P4は長径35ｃｍ、短径23cm、深さ40cmである。

覆土は3層である。暗褐色土と褐色土を基調としており、ロームブロックとAs－YP軽石ブロックを多量に含むのが特徴である。

住居掘方はAs－YP軽石層まで達しており、平坦に掘り下げられている。P5は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、As－YP軽石ブロックとロームブロックを多量に含む褐色土で構築されている。

遺物所見　遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。

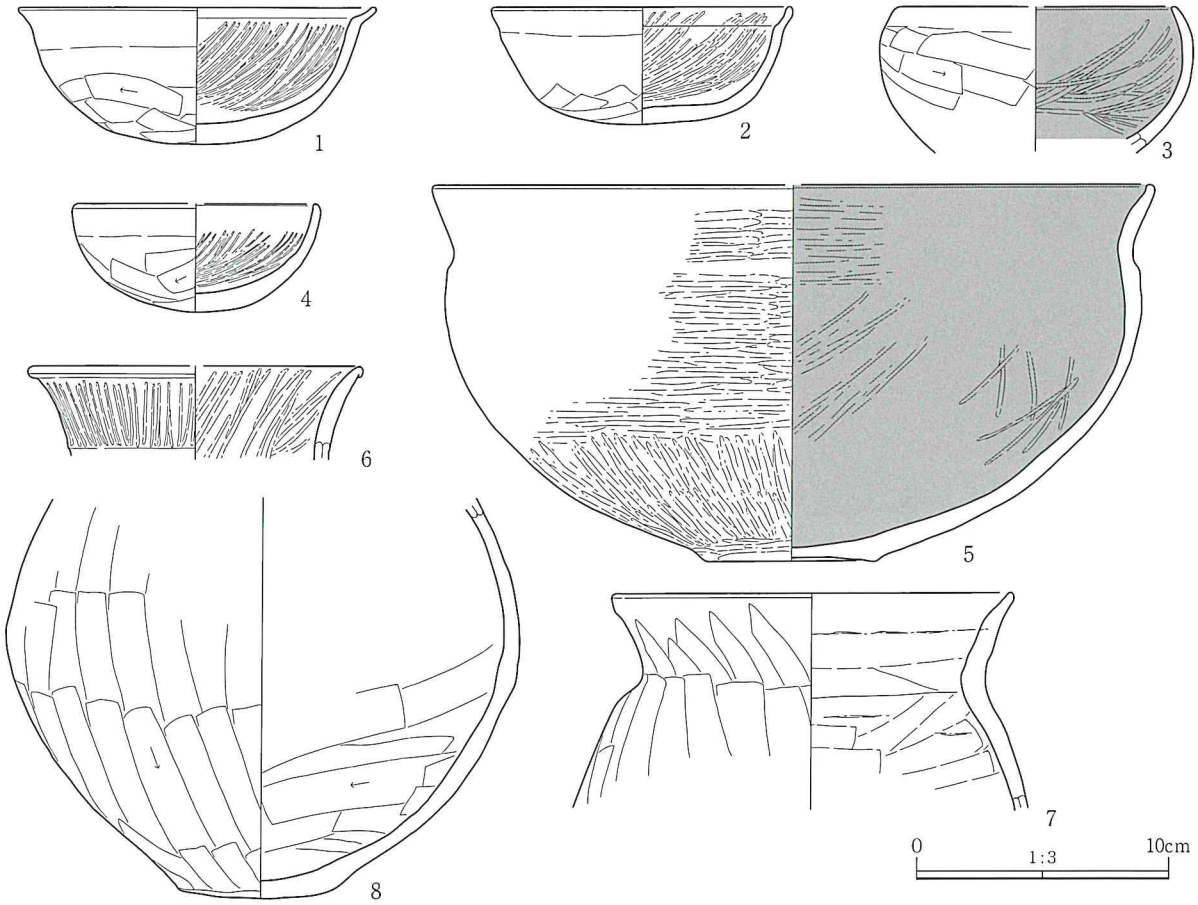
時期　出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。



第31図　SI－9

表13　SI－9出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　14.0 底径　－ 器高　5.4	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径　11.7 底径　－ 器高　4.7	①酸化焔②明赤褐 ③褐色・白色粒 ④口縁～底部 3/4	外面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
3	土師器 坏	口径　(10.8) 底径　－ 器高　5.8	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒、角閃石 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部横位ナデ後、体部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。黒色処理。	
4	土師器 坏	口径　(9.4) 底径　－ 器高　4.3	①酸化焔②明赤褐 ③白色・黒色粒子、石英 ④口縁～底部	外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
5	土師器 鉢	口径　(28.3) 底径　6.7 器高　15.0	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁～底部	外面：丁寧なミガキ。 内面：ミガキ。黒色処理。口縁端部肥厚。	
6	土師器 壺	口径　(12.9) 底径　－ 器高　[3.7]	①酸化焔②明赤褐 ③赤褐色粒、角閃石 ④口縁部	外面：放射状ミガキ。口縁下端横位ナデ。口縁端部折り返し。 内面：放射状ミガキ。	
7	土師器 甕	口径　15.6 底径　－ 器高　[8.5]	①酸化焔②明赤褐 ③赤褐色・白色粒子、角閃石 ④口縁～肩部	外面：ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。口縁下端～肩部ヘラケズリ。	
8	土師器 甕	口径　－ 底径　6.3 器高　[16.0]	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子、角閃石 ④胴～底部	外面：ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ。	



第32図　SI－9出土遺物

SI－10　（第33･34図）

平面形態　不明

規模　不明

主軸方向　不明

遺構所見　北側が調査区域外に延びている。重複関係はSI－4より新しく、SB－1、SI－2より古い。

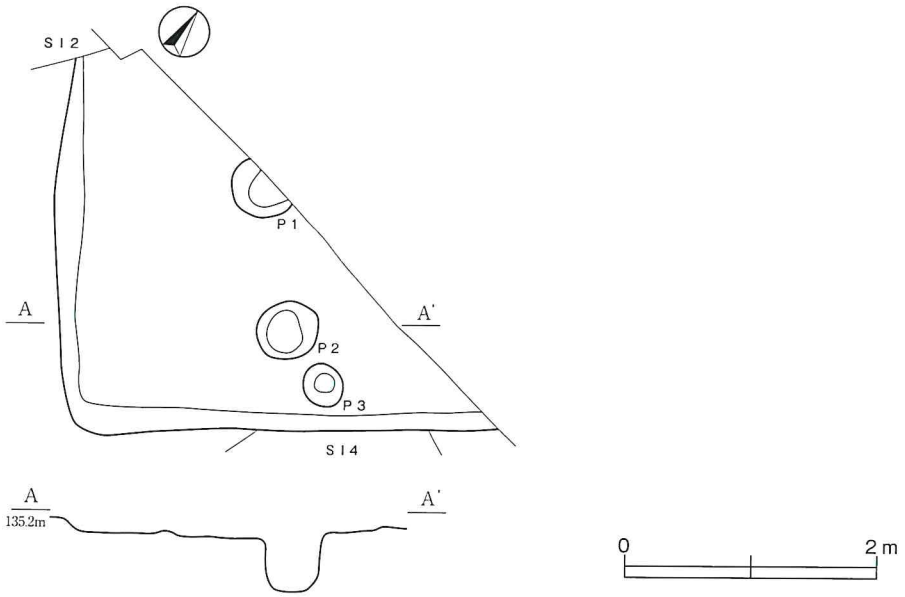
床は地山のAs－YP軽石層をそのまま使用しており、硬化面は認められない。SB－1の下層に位置し、壁高は最大49cm残っている。

ピットは3か所確認した。P1は長径52cmだけ確認でき、深さ67cm、P2は長径50cm、短径45cm、深さ47cm、P3は長径33cm、短径30cmである。

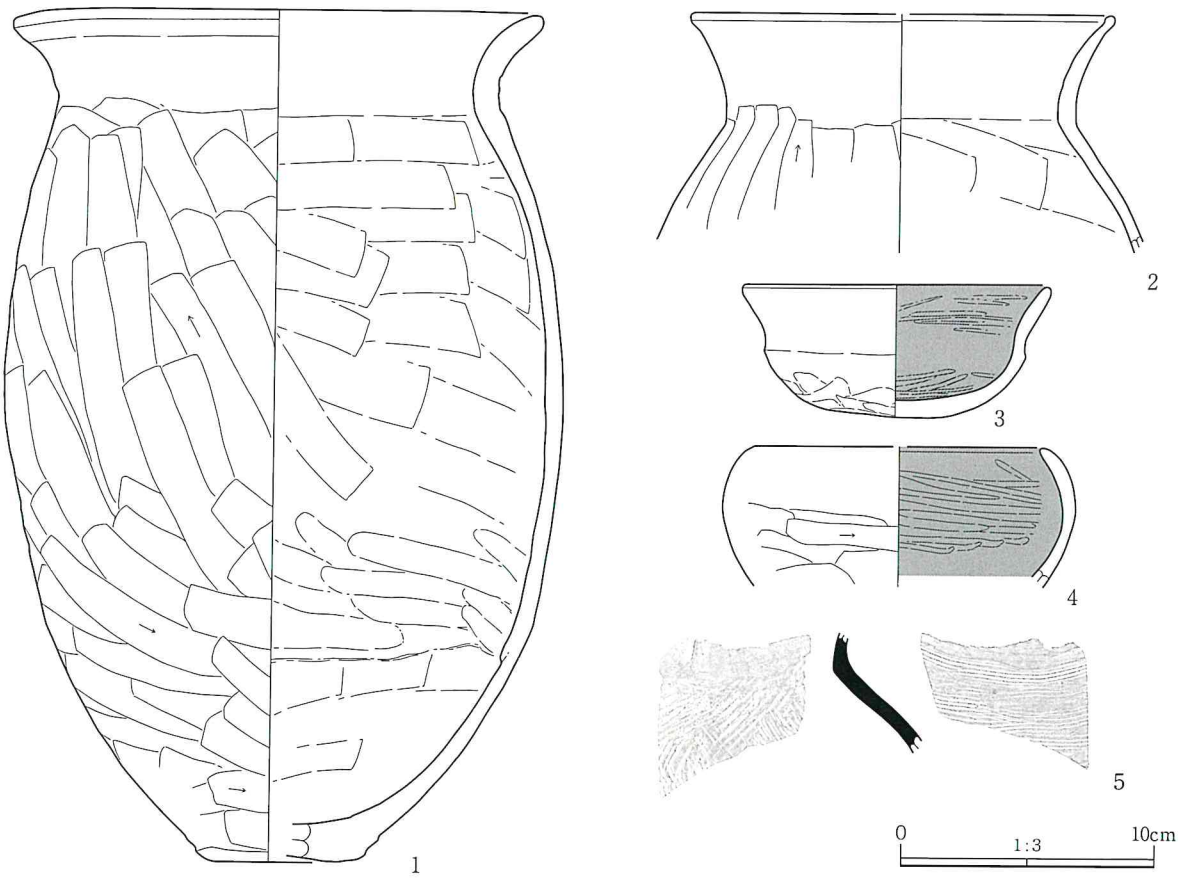
覆土は11層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックとAs－YP軽石ブロックを多量に含むのが特徴である。

遺物所見　遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。土師器の坏が覆土下層から出土している。

時期　出土した土器から6世紀第一四半期に位置づけられる。



第33図　SI － 10



第34図　SI － 10出土遺物

表14　SI－10出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径　21.0 底径　(6.8) 器高　33.8	①酸化焔②橙 ③白色・赤褐色粒子 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ。胴部下半接合ユビナデ。	
2	土師器 甕	口径　(16.8) 底径　－ 器高　[9.5]	①酸化焔②明赤褐 ③白色・黒色粒 ④口縁～胴部1/2	外面：口縁部横位ナデ。体部縦位ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。	
3	土師器 坏	口径　12.2 底径　－ 器高　5.3	①酸化焔②明赤褐 ③白色粒子 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラ調整による光沢あり。 内面：ミガキ。黒色処理。	
4	土師器 鉢	口径　(11.4) 底径　－ 器高　[5.6]	①酸化焔②明赤褐 ③白色・赤褐色粒 ④口縁～体部1/4	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：横位暗文状ミガキ。黒色処理。	
5	須恵器 壺	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②黄灰 ③黒色粒子 ④肩部1/4	外面：横位カキメ。 内面：タタキの後、ハケメか。	

3　礎石建物跡

SB－1　（第35・36・37・38・39図）

基礎地業：総地業。南北10m×東西13m以上、面積130㎡以上。

想定される建物：東西棟総柱式建物。桁行4間×梁行2間以上。

本調査（第5次調査）の後、調査区外の部分については高崎市教育委員会によって範囲確認調査を行った（第6次調査）。以下、第5次調査の成果および第6次調査の概要についてそれぞれの調査区ごとに記述する。

1　第5次調査区（本調査）の状況

（1）遺構

形式　総地業を伴う東西棟の総柱式建物と考えられる。

掘込地業の範囲と主軸方向　掘込地業の範囲は東西13mまで確認できた。市道によって掘込地業の東側は削られており、本来はさらに東側に続くものと考えられる。掘込地業の主軸方向はN－0°である。

掘込地業の状況　掘込地業は厚さ10～28cmの表土層を除去し、その直下にある黒褐色土（基本土層Ⅱ層）上面で確認した。

掘込地業は確認面から深さ最大75cmで、東側約3分1の範囲はハードローム層、残りの範囲はAs－YP軽石層および古墳時代の住居跡であるSI－4・9・10の覆土にまで達しており、底面に段差が認められる。ハードローム層を底面としている範囲には、幅約15cmの鋭利な掘り込みが連続しており、掘削痕の可能性がある。この痕跡は、As－YP軽石層および住居跡の覆土を底面とする範囲には認められないが、軟弱な地盤のため残存していないものと考えらえる。そのほか、底面を巡る溝などの施設は確認できない。

地業底面ハードローム層の状況

掘込地業の内部は、角があるローム小ブロックとAs－YP軽石小ブロックを含む褐色土と暗褐色土を、交互に丁寧に搗き固めた版築が施されている。版築の厚さは最大約5cmである。ローム小ブロックとAs－YP軽石小ブロックを多量に含む層がほとんどであるが、それらの含有量が少ない層もある。

ただしAs－YP軽石層および住居跡覆土が掘り込み底面にあたる範囲は、版築の下層に角があるローム大ブロックとAs－YP軽石ブロックと黒褐色土ブロックの混合土が、厚さ５～26cmと厚く搗き固められている。この層は、地盤の軟弱なAs－YP軽石層や住居跡の覆土上面を、水平かつ強固にするための整地と考えられる。特に住居跡覆土にあたる箇所は、複数の層を積み上げている。底面を強固に整え、その後の版築土を水平に積み上げための工夫と考えられる。

版築の下層の整地状況

版築土の中には瓦片、礫は含まれておらず、砂や粘土など土質が明らかに異なるものも認められない。

下層建物の有無　掘込地業の下層には、掘立柱建物跡は確認できなかった。地業内にあるＰ７は長径56cm、短径48cm、深さ10cmである。覆土は版築土であり、掘込地業の一連の工程で掘削され、埋め戻されたものと考えられる。

掘込地業周囲のピット　掘込地業の南辺と西辺の外側30～70cmの位置で、ピットを６か所確認した。これらのピットは、建物に付随する遺構と考えられる。

Ｐ１は長径50cm、短径42cm、深さ41cm、Ｐ２は長径46cm、短径42cm、深さ35cm、Ｐ３は長径36cm、短径28cm、深さ14cm、Ｐ４は長径28cm、短径26cm、深さ24cm、Ｐ５は長径40cm、短径38cm、深さ18cm、Ｐ６は長径36cm、短径22cm、深さ32cmである。底面までの深さは一定しておらず、Ｐ１の掘り込みだけがAs－YP軽石層まで達しており、ほかはすべてハードローム層中に底面がある。

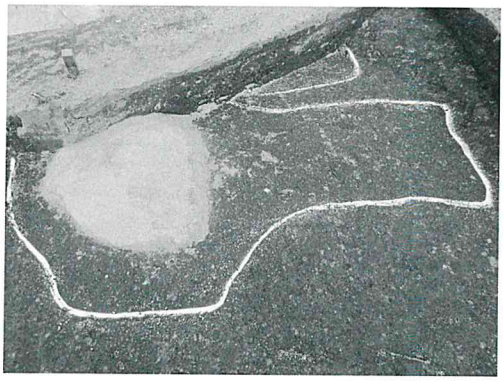
覆土は、すべてロームブロックとAs－YP軽石をほとんど含まない黒褐色土の単層である。

Ｐ１とＰ２の間にも、ピットが配置されていると考えられるが、ここはSI－４の黒褐色土の覆土上面が確認面であり、精査を繰り返しても確認できなかった。

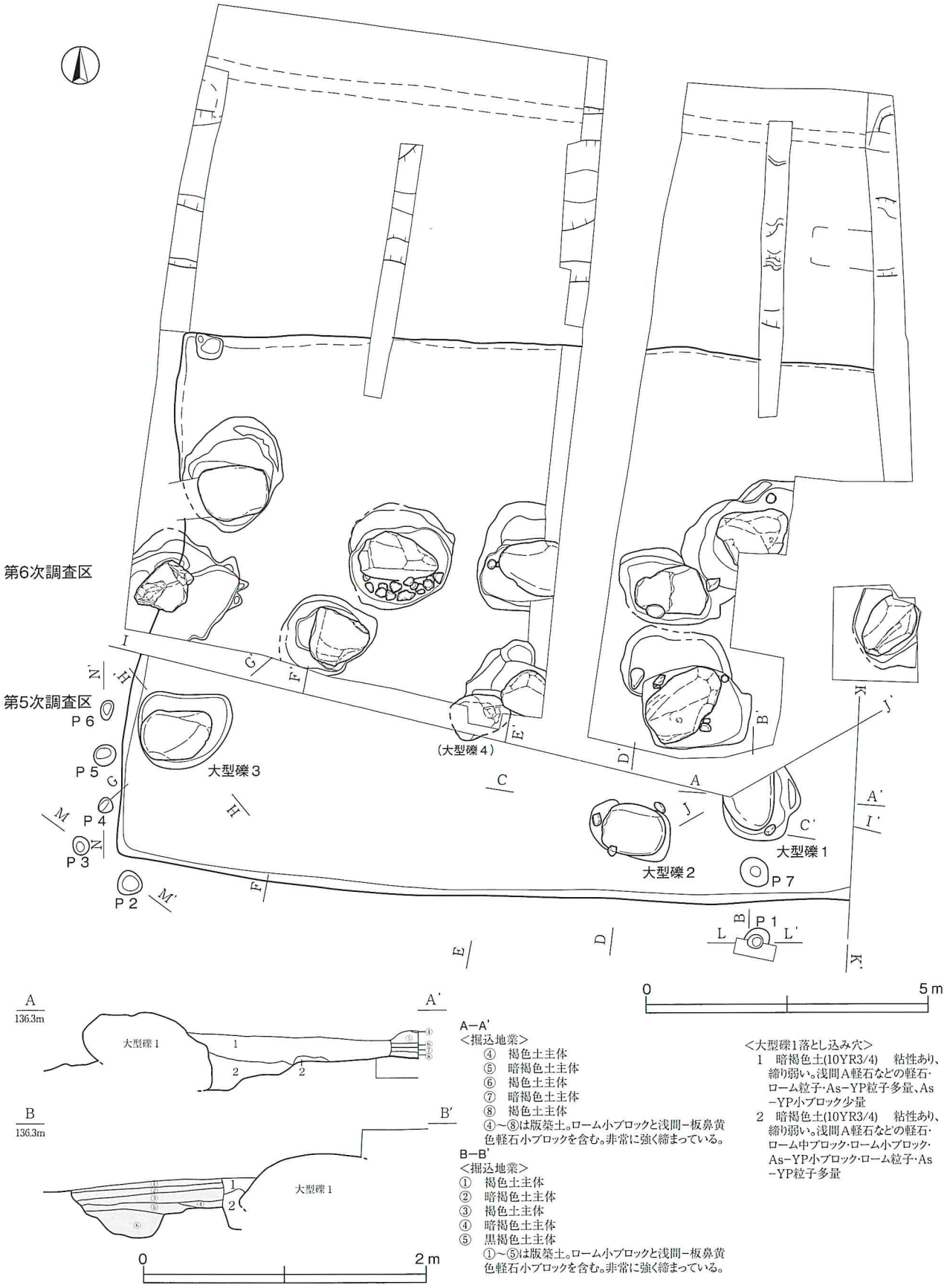
（２）大型礫

大型礫の出土状況　大型礫が３個出土しており、いずれも礎石と考えられる。大型礫１・大型礫２・大型礫３の石材は、輝石安山岩である。自然石を利用したもので、観察できる範囲では、柱を設置するための整形加工は認められない。

大型礫１・大型礫２・大型礫３はいずれも後世に掘り込まれた落とし込み穴内にあることがわかった。これら３個の大型礫は、掘込地業を確認した際にはその上面が露出していた。しかし、これは掘込地業を少し削った位置を確認面としたために露出したもので、本来はいずれも落とし込み穴の中に完全に埋もれた状態であったようである。


大型礫１の確認状況

大型礫１（土層断面Ａ－Ａ'・Ｂ－Ｂ'・Ｊ－Ｊ'）と大型礫３（土層断面Ｇ－Ｇ'・Ｈ－Ｈ'）の落とし込み穴覆土は、浅間Ａ軽石および角があるロームブロックを含む締りがない暗褐色土である。大型礫１には落とし込み穴に切られる土坑が土層断面で確認された（Ｊ－Ｊ'Ｉ層）。大型礫は伴っていなかったが、地業上面から掘り込まれ、その覆土には浅間Ａ軽石を含む。この

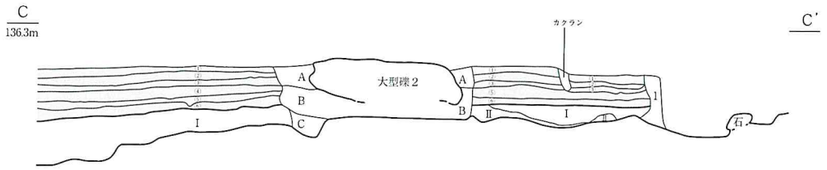


A−A'
<掘込地業>
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
⑥ 褐色土主体
⑦ 暗褐色土主体
⑧ 褐色土主体
④～⑧は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。非常に強く締まっている。

B−B'
<掘込地業>
① 褐色土主体
② 暗褐色土主体
③ 褐色土主体
④ 暗褐色土主体
⑤ 黒褐色土主体
①～⑤は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。非常に強く締まっている。

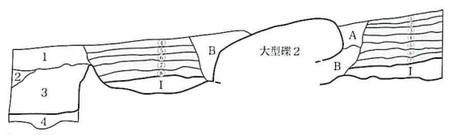
<大型礫1落とし込み穴>
1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム粒子・As−YP粒子多量、As−YP小ブロック少量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量

第35図 SB − 1



C−C'
<掘込地業>
① 暗褐色土主体
② 褐色土主体
③ 暗褐色土主体
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
⑥ 褐色土主体
⑦ 暗褐色土主体
⑧ 褐色土主体

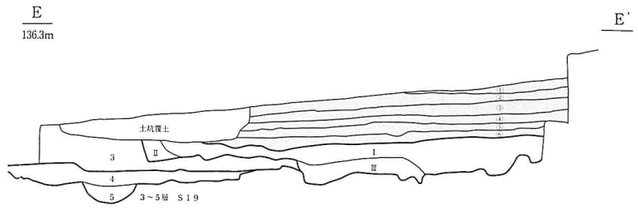
I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
C 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。ローム中ブロック少量、ローム小ブロック中量、ローム粒子多量



D−D'
<掘込地業>
① 暗褐色土主体
② 褐色土主体
③ 暗褐色土主体
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
⑥ 褐色土主体
⑦ 暗褐色土主体
⑧ 褐色土主体
I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
①～⑧は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。Iは整地層。各層とも非常に強く締まっている。

<大型礫2落とし込み穴>
A 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック微量
B 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック微量、ローム粒子・As−YP粒子中量

<SI9>
1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック中量、As−YP粒子多量
2 褐色土(10YR4/6) 粘性あり、締りあり。暗褐色土小ブロック・As−YP小ブロック多量
3 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
4 褐色土(10YR4/6) 貼り床。粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・暗褐色土小ブロック多量

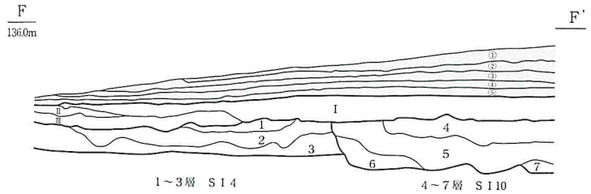


E−E'
<掘込地業>
① 褐色土主体
② 暗褐色土主体
③ 褐色土主体
④ 暗褐色土主体
⑤ 褐色土主体
⑥ 暗褐色土主体
I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
II 黒褐色土(10YR3/2) ローム小ブロック微量
III 黒褐色土(10YR3/2) ローム大ブロック・ローム中ブロック多量、As−YP中ブロック少量

①～⑥は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。I～IIIは整地層。各層とも非常に強く締まっている。

<土坑>
暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム粒子・As−YP粒子多量

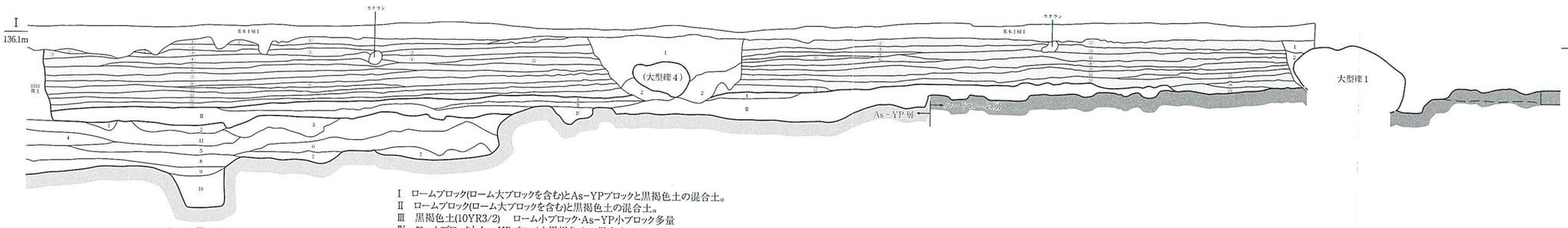
<SI9>
3 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム大ブロック微量、ローム小ブロック少量、As−YP小ブロック中量
4 褐色土(10YR4/4) 貼り床。粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック中量
5 黄褐色土(10YR5/6) 貼り床。粘性あり、締り強い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量。



F−F'
<掘込地業>
① 暗褐色土主体
② 褐色土主体
③ 暗褐色土主体
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
II 黒色土(10YR3/1) ローム小ブロック少量
III 黒褐色土(10YR3/2) ローム大ブロック・ローム中ブロック・As−YP小ブロック多量
①～⑤は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。I～IIIは整地層。各層とも非常に強く締まっている。

<SI4>
1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量
2 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量
3 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック少量

<SI10>
4 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム大ブロック少量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
5 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。ローム中ブロック少量、ローム小ブロック多量、As−YP小ブロック中量、ローム粒子・As−YP粒子多量
6 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック少量、ローム粒子多量
7 褐色土(10YR4/4) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック多量



I−I'
<掘込地業>
① 褐色土
② 暗褐色土
③ 褐色土
④ 暗褐色土
⑤ 褐色土(ローム小ブロック・As−YP小ブロックを特に多く含む)
⑥ 暗褐色土(ローム小ブロック・As−YP小ブロックを特に多く含む)
⑦ 暗褐色土
⑧ 褐色土
⑨ 暗褐色土
⑩ 褐色土
⑪ 暗褐色土
⑫ 褐色土
⑬ 暗褐色土
⑭ 褐色土
⑮ 暗褐色土(ローム小ブロック・As−YP小ブロックを特に多く含む)
⑯ 暗褐色土
⑰ 褐色土
⑱ 暗褐色土
⑲ 褐色土

I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
II ロームブロック(ローム大ブロックを含む)と黒褐色土の混合土。
III 黒褐色土(10YR3/2) ローム小ブロック・As−YP小ブロック多量
IV ロームブロックとAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。As−YPブロックの割合が多い。

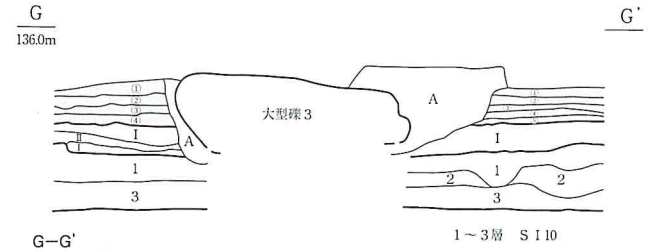
<大型礫1落とし込み穴>
1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム粒子・As−YP粒子多量、As−YP小ブロック少量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量

<大型礫4落とし込み穴>
1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム小ブロック多量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム小ブロック少量

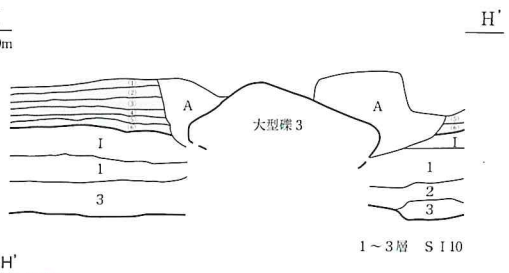
<SI10>
1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック微量、ローム粒子少量
2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。ローム大ブロック少量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック微量
3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。ローム中ブロック微量、ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量
4 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量
5 暗褐色土(10YR3/4) ローム大ブロック・ローム小ブロック中量、As−YP小ブロック・ローム粒子多量
6 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム大ブロック微量、ローム中ブロック少量、As−YP小ブロック中量、As−YP粒子多量
7 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
8 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
9 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量、ローム小ブロック少量
10 褐色土(10YR4/4) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量、暗褐色土小ブロック少量
11 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり。As−YP小ブロック・As−YP粒子中量、ローム小ブロック少量

0 2m

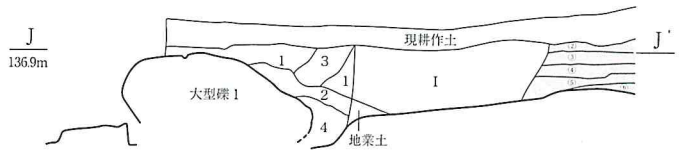
第36図 SB－1土層断面（1）



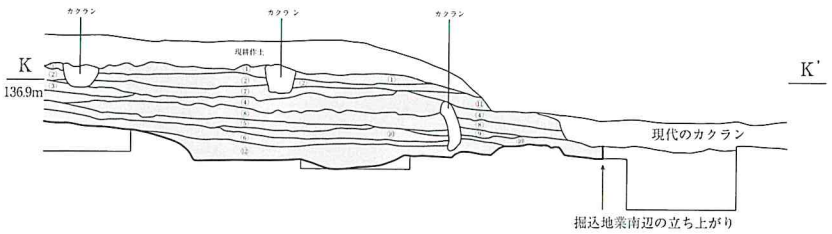
G−G'
<掘込地業>
① 暗褐色土主体
② 褐色土主体
③ 暗褐色土主体
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
I ロームブロック(ローム大ブロックを含む)とAs−YPブロックと黒褐色土の混合土。
II 黒褐色土(10YR3/2) ローム中ブロック中量
①～⑤は版築土。ローム小ブロックと浅間−板鼻黄色軽石小ブロックを含む。I・II層は整地層。各層とも非常に強く締まっている。
<大型礫3落とし込み穴>
A 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石多量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量
<SI10>
1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり。ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
3 褐色土(10YR4/6) 粘性あり、締りあり。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量



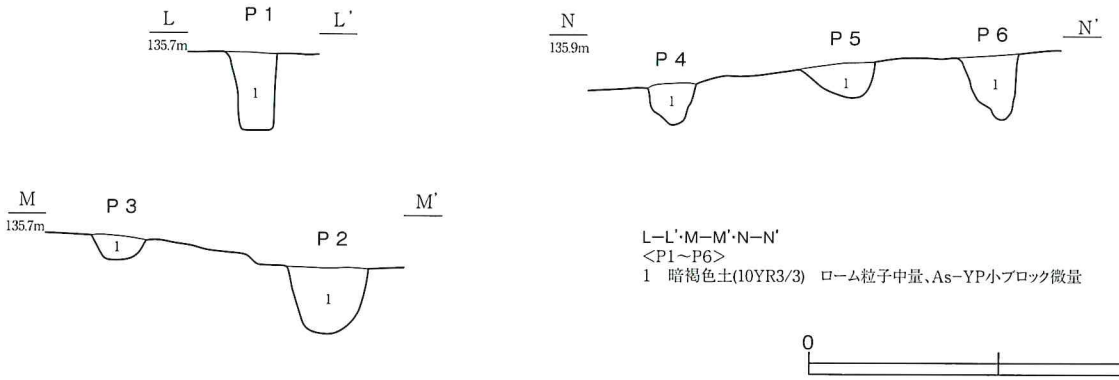
H−H'
<掘込地業>
① 暗褐色土主体
② 褐色土主体
③ 暗褐色土主体
④ 褐色土主体
⑤ 暗褐色土主体
⑥ 褐色土主体
<大型礫3落とし込み穴>
A 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石多量、ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量
1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、締り弱い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック少量、ローム粒子・As−YP粒子多量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
3 褐色土(10YR4/6) 粘性普通、締り弱い。ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量



J−J'
<掘込地業>
② 褐色土
③ 暗褐色土
④ 褐色土
⑤ 暗褐色土
⑥ 褐色土
<大型礫1落とし込み穴>
1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム粒子・As−YP粒子多量、As−YP小ブロック少量
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム中ブロック・ローム小ブロック・As−YP小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
3 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム中ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム小ブロック・ローム粒子・As−YP粒子多量
<土坑>
I 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り弱い。浅間A軽石などの軽石・ローム粒子・As−YP粒子多量

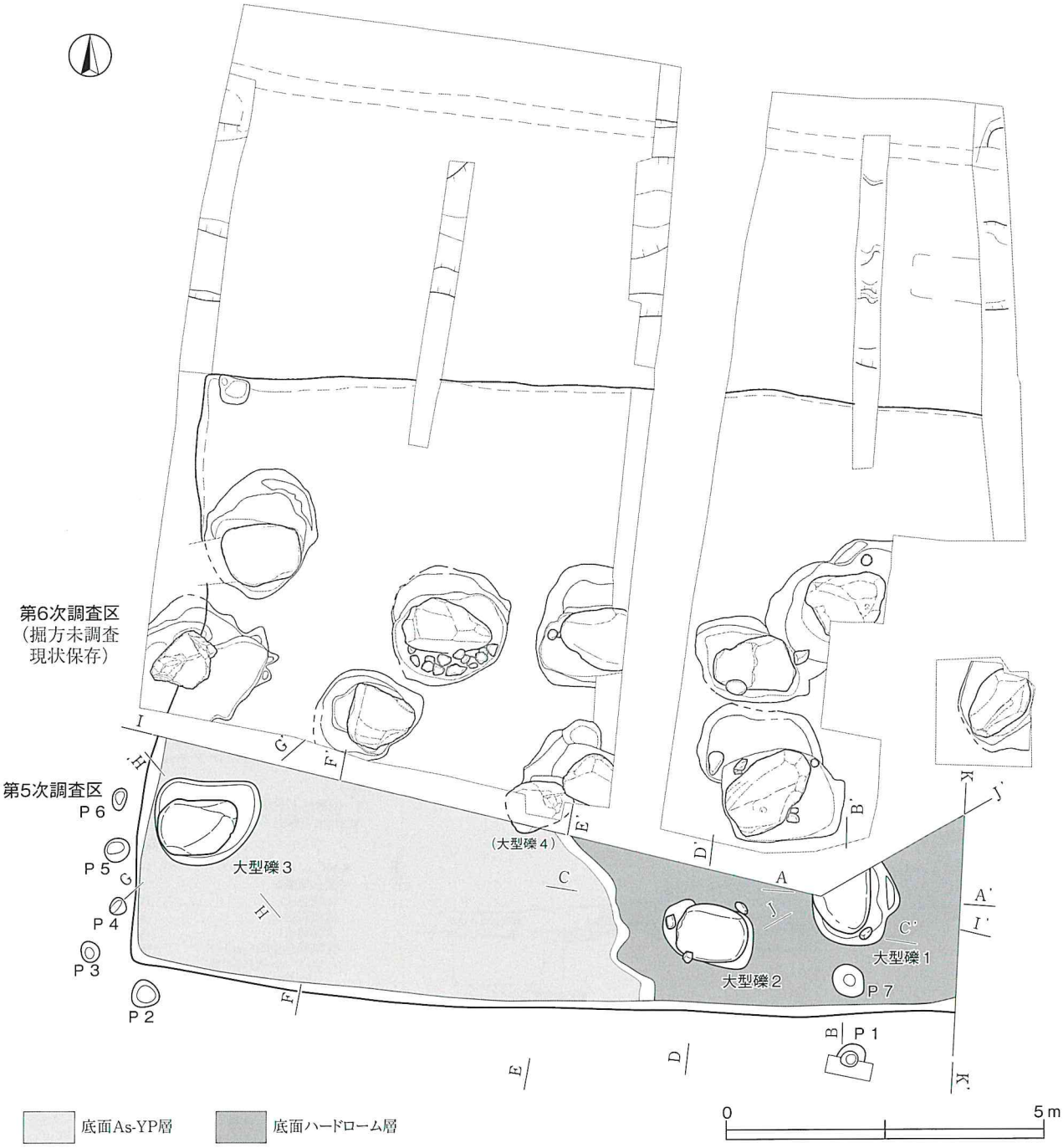


K−K'
<掘込地業>
①褐色土
②暗褐色土
③褐色土
④暗褐色土(ローム小ブロック・As−YP小ブロックを特に多く含む)
⑤褐色土
⑥暗褐色土(ローム小ブロック・As−YP小ブロックを特に多く含む)
⑦暗褐色土
⑧褐色土主体
⑨暗褐色土
⑩褐色土
⑪暗褐色土
⑫褐色土



L−L'・M−M'・N−N'
<P1～P6>
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子中量、As−YP小ブロック微量

第37図　SB－1土層断面（2）



第38図　SB－1掘方

大型礫2の確認状況（1）

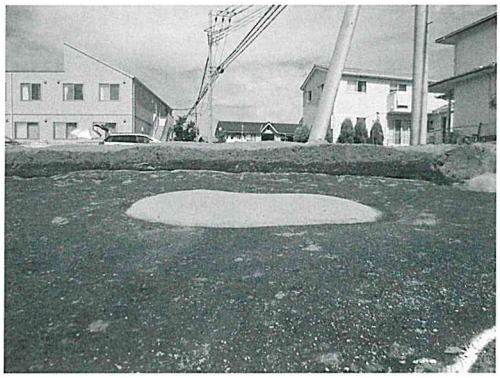
ように大型礫1・大型礫3は、18世紀後半以降に落とし込まれたものと考えられる。大型礫上面の平坦面は、大型礫1が東方向、大型礫3が北東方向に傾いている。いっぽう、大型礫2の落とし込み穴覆土は締りのある暗褐色土で、ほかの落とし込み穴と異なり浅間A軽石を含まないが、版築のように搗き固められた状況も認められなかった。大型礫1・大型礫3の落とし込み穴とは覆土の様相が異なっており、落とし込んだ時期が異なるものと考えられる。大型礫2は上面の平坦面が東方向に傾

く。

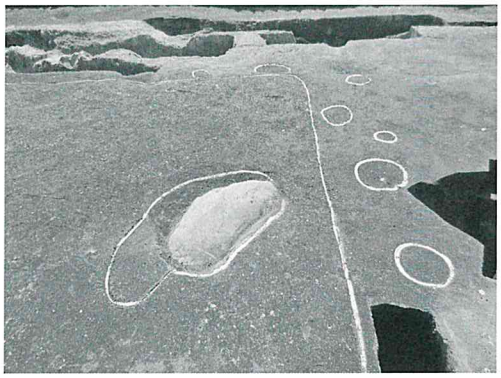
また大型礫１と大型礫２の周囲で確認した拳大の自然礫は、根石の一部と考えられ、これらも大型礫とともに落とし込まれた可能性が高い。

なお大型礫４としたものは、その大半が第６次調査区内にあるが、土層断面観察により落とし込み穴内にあることがわかった。その覆土は大型礫１･大型礫３と同様の状況を示している。

礎石の据え付け痕跡　礎石据え付け痕跡や原位置を保つ根石などは確認できない。



大型礫２の確認状況（２）

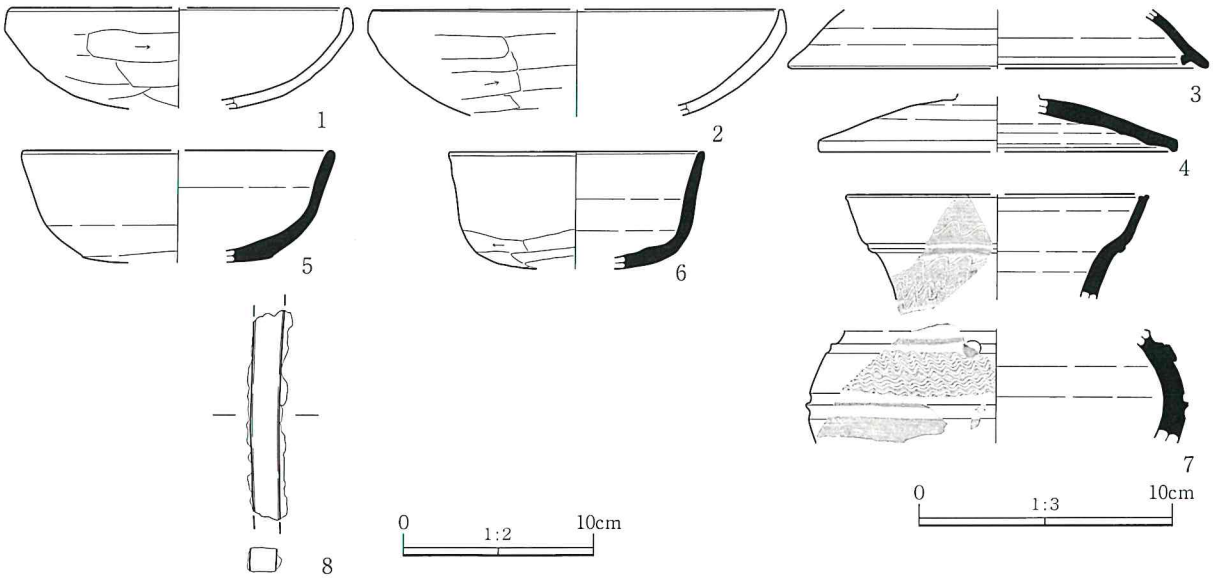


大型礫３の確認状況

（３）遺物

瓦・炭化穀物の有無　瓦や炭化穀物は、掘込地業の内部およびその周辺からも出土していない。

出土遺物の年代　掘込地業の内部から土師器片と須恵器片が出土しており、いずれも地業土内に混入したものである。出土した遺物は８世紀前半以前におさまる。



第39図　SB－１地業土内出土遺物

表15　SB－１地業土内出土遺物観察表（１）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径　(13.4) 底径　－ 器高　[4.0]	①酸化焔②橙 ③角閃石、赤褐色粒 ④口縁～底部 1/6	外面：体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	
2	土師器 坏	口径　(16.2) 底径　－ 器高　[4.2]	①酸化焔②橙 ③角閃石、白色粒子 ④口縁～底部 1/6	外面：体～底部ヘラケズリ。 内面：口縁～底部ナデ。	地業土内出土。
3	須恵器 蓋	口径　(16.6) 底径 器高　[2.3]	①還元焔②灰 ③白色粒子 ④口縁部 1/8	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。かえり貼付。	地業土内出土。

表16　SB－1地業土内出土遺物観察表（2）

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	須恵器 蓋	口径　(14.2) 底径　－ 器高　[2.1]	①還元焔②灰 ③白色・黒色粒子 ④口縁～天井部1/6	外面：ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	地業土内出土。
5	須恵器 坏	口径　(12.4) 底径　(7.4) 器高　[4.5]	①還元焔②灰 ③黒色・白色粒子 ④口縁～底部1/6	外面：ロクロ整形。底部ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	地業土内出土。
6	須恵器 坏	口径　(10.0) 底径　－ 器高　[4.7]	①還元焔②灰 ③黒色粒、白色粒子 ④口縁～底部1/6	外面：ロクロ整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	地業土内出土。
7	須恵器 ハソウ	口径　(12.0) 底径　－ 器高　－	①還元焔（サンドイッチ状）②灰 ③白色・赤褐色粒子 ④口頸部、体部1/8	外面：口縁部1段、頸部2段、体部2段の羽状文。体部上位に円形浮文1残存。 内面：ナデ。	地業土内出土。
8	鉄 棒状鉄製品	長さ　[5.6] 幅　0.7 厚さ　0.6 重量　[12.5]	④破片	断面方形。わずかに反る。	地業土内

2　第6次調査の概要

（1）掘込地業

本調査区では、東西12.4m×南北7.0mの範囲で総地業の掘込地業を確認している。遺構の北辺および西辺はそれぞれ検出している。南は調査区外へと延びているが、南接の5次調査区で確認した範囲と合わせると、同遺構の南北軸は10.0mとなる。東は市道により確認はできないが、東西軸については13mを超えるものと推測される。遺構の深さは遺構確認面より65～85cmである。土層は黄褐色土と黒色土が互層となる版築が明瞭であり、よくしまっている。

遺物については、掘込地業の土層中に土師器・須恵器片が見られる。

（2）大型礫

掘込地業範囲において、総数11石の大型礫を検出した。いずれも粗粒～中粒輝石安山岩の自然石であり、長軸で100cmを超えるものが多い。重量は半数が1tおよびそれ以上と極めて大型であることが理解される。これらの大型の礫は掘込地業を伴う大型建物の柱を支えた礎石であった可能性が考えられる。柱の当たりなど特段加工された様子は看取できないが、ほとんどの礫にやや平坦な面が認められるため、柱はこの平坦面を利用して建てられたものと推測される。

大型礫の検出位置（土坑の位置）は整然とはしていないが、東西方向では一定の間隔となる。礫は東西5石、南北は2列（5次調査の列を加えると3列）となる。礫の規模や重量を考慮すると当初の設置位置からは大きく移動していないと推測できるため、建物規模の推定が可能となる。これにより、建物は東西に長い総柱であり、規模は桁行4間×梁行2間以上であったことが考えられる。

すべての礫は土坑状の掘り込みの中より検出している。これら土坑の埋土中よりAs-Aや陶磁器・キセル等近世遺物が出土していることから、土坑は近世期に掘削されたものと判断している。これらの状況から、大型礫は近世期に現在の位置に移動されたことが推察される。

（3）小結

5・6次の一連の調査で検出した掘込地業は、両調査の成果を合わせると東西13m以上×南北10mの総地業となり、面積は130㎡以上となる。掘込地業の面積と礎石と推定される大型礫の数や配置などから、建物は東西棟の総柱と考えられ、規模は桁桁4間×梁行2間より大きいものと推定される。　（山本）

第６次調査検出状況（西から）

４　土坑

SK－２　（第 41 図）

規模：長軸 160cm、短軸 70cm、深さ 68cm。　**遺構所見**：平面長方形、断面方形を呈する。自然堆積か。

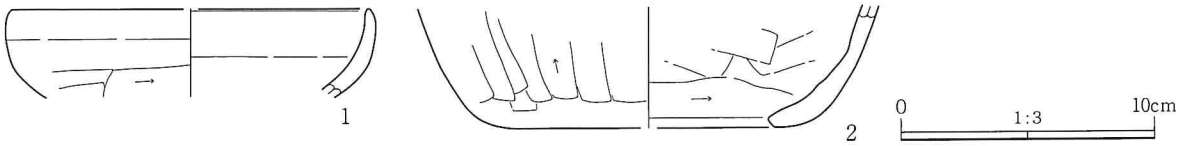
遺物所見：土師器片が少量出土しているが、図化に及んだものはない。　**時期**：不明。

SK－３　（第 41 図）

規模：長軸 [134]cm、短軸 [68]cm、深さ 31cm。　**遺構所見**：平面長方形基調、断面方形を呈する。覆土は人為堆積か。　**遺物所見**：陶器小片が出土しているが、図化には及んでいない。　**時期**：近世か。

SK－６　（第 40･41 図）

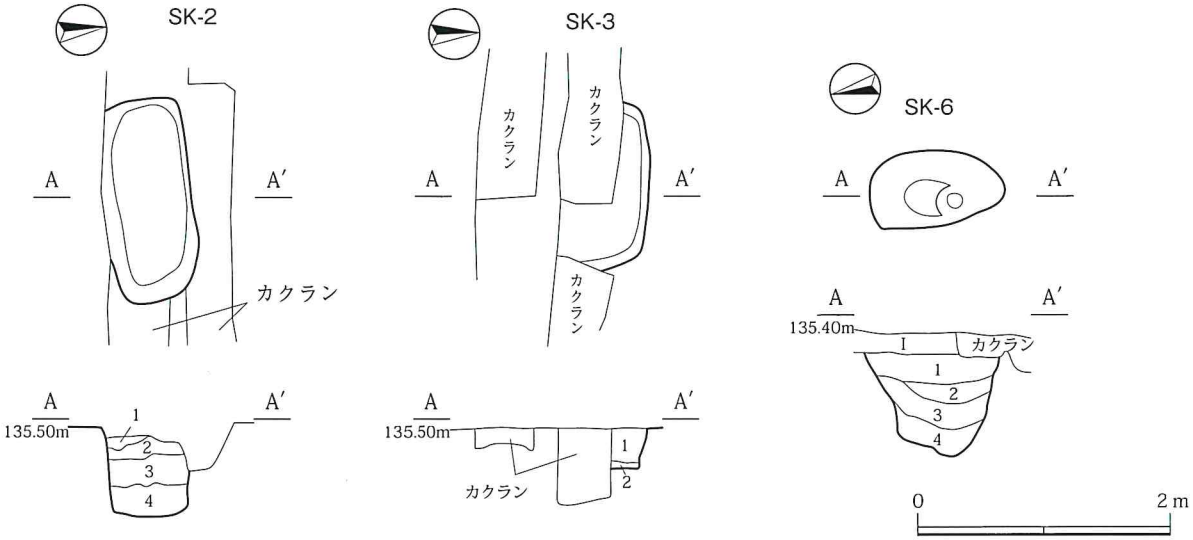
規模:長軸 107cm、短軸 61cm、深さ 81cm。　**遺構所見**:平面楕円形、断面逆台形を呈する。SI－５と重複し、本土坑の方が新しい。　**遺物所見**：土師器片・須恵器片が少量出土している。そのうち図化したものは、土師器坏（１）・甑（２）である。　**時期**：７世紀前半。



第 40 図　SK－６出土遺物

表 17　SK － 6 出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径 (14.2) 底径 － 器高 [3.5]	①酸化焔②明赤褐 ③石英、赤褐色粒 ④破片	外面：口縁ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：ナデ。	
2	土師器 甑	口径 － 底径 (9.8) 器高 [4.8]	①酸化焔②にぶい赤褐 ③白色粒、角閃石 ④破片	外面：体部ヘラケズリ。底部穿孔。 内面：体部ヘラケズリ。	



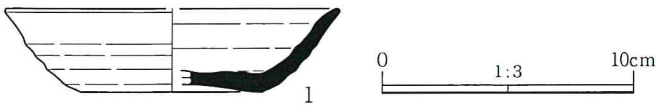
SK−2
1　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり、締り弱い。ローム層。暗褐色小ブロック少量。
2　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。ローム小ブロック少量、As-YP小ブロック微量。
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。ローム大ブロック少量、ローム小ブロック・As-YP小ブロック多量。
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。As-YP・ローム小ブロック多量。

SK−3
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。As-YP大ブロック・ローム大ブロック微量、As-YP・ローム小ブロック多量。
2　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり、締り弱い。As-YP・ローム粒子多量。

SK−6
I　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・締りあり。ローム粒子・As-YP粒子微量。SI-6のⅣ層。
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性・締りあり。As-YP小ブロック・As-YP粒子多量、ローム小ブロック少量、As-YP・ローム粒子中量。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・締りあり。ローム大ブロック微量、As-YP小ブロック・ローム小ブロック中量、As-YP・ローム粒子多量。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性・締りあり。ローム大ブロック微量、ローム小ブロック少量、As-YP小ブロック・As-YP・ローム粒子多量。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性・締りあり。ローム大ブロック微量、As-YP小ブロック・ローム小ブロック・As-YP・ローム粒子多量。

第 41 図　SK － 2・SK － 3・SK － 6

5　遺構外出土遺物



第 42 図　遺構外出土遺物

表 18　遺構外出土遺物観察表

遺物No.	器種	法量	①焼成（石材）②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径 (13.2) 底径 (7.0) 器高 3.3	①還元焔②灰 ③白色・黒色粒子 ④口縁～底部 1/2	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。	

Ⅵ　まとめ

1．律令前史－八幡中原遺跡周辺の古墳時代－

八幡中原遺跡のある八幡台地は東西に延びる小支谷によって北から「剣崎支台」、「若田支台」、「八幡支台」の３つに分けられ、八幡中原遺跡は中央の若田支台に広がる（「Ⅱ 遺跡の環境」参照）。

弥生時代後期では剣崎長瀞西遺跡など大型の集落跡が存在するが、古墳時代前期ではそれらと比べると小規模になる傾向を示す。これは古墳時代前期に入って低地部の開発が急速に進められるようになったことと関係してくるものと考えられる。再びこの八幡台地に集落が広く営まれるようになるのは古墳時代中期後半以降である。八幡中原遺跡においても古墳時代中期後半の住居跡が１次調査地点では３棟以上、第４・５次調査地点では15棟確認されており、中小規模の集落が点在していたことが分かる。また剣崎支台の剣崎長瀞西遺跡では梯子形立聞付Ｘ字銜留楕円形鏡板付轡を伴う馬埋葬土坑や韓式系土器が出土しており、馬匹生産に携わった渡来系集団の存在が想定されている。八幡中原遺跡においても韓式系土器が出土しているが、その胎土は在地土器とほぼ同一であり、故地からの搬入品ではなく当地において韓式系土器を製作していたと考えられ、渡来系集団はこの地においてある程度の生産基盤を有していたと推測される。

また中期後半段階から後期にかけて八幡支台において平塚古墳、八幡二子塚古墳、観音塚古墳と大型前方後円墳が続けて築造される。一方で剣崎支台には傑出した大型古墳を有さない群集墳が営まれる。５世紀代の剣崎長瀞西古墳群は円墳と方墳（積石塚）によって構成され、その出土遺物には半島系の垂飾付金製耳飾があることなどから、先の集落の状況と合わせても渡来系集団が葬られていることがわかる。ただしその群集墳内における墳丘の立地をみると、円墳は標高の高い位置にあり、方墳が標高の低い位置に広がることから、在地集団のもとに編成された渡来系集団の姿をみている見解もある。[(1)] 剣崎長瀞西古墳群における最大の古墳である剣崎長瀞西古墳は直径約30ｍの円墳もしくは帆立貝形古墳で、副葬品として三角板革綴短甲とともに多量の石製模造品が出土している。これは前代、古墳時代中期前半の剣崎天神山古墳で確認された多量の石製模造品のあり方と類似しており、在地的な様相を副葬品からもみることができる。

ここで今一度、剣崎支台に立ってみると八幡支台に展開する大型前方後円墳は、剣崎長瀞西古墳群から見下ろすような位置にあることが分かる。その比高差はおおよそ20ｍ近くある。低地を志向したとは想定しがたい八幡支台の前方後円墳が群集墳から見下ろされるような位置にあることは、おそらく八幡支台の南を東流する碓氷川が交通路して依然重要なルートであったことが推測される。下流には浅間山古墳や大鶴巻古墳など大型古墳が前代に築造され、さらに上流には初期横穴式石室を有する簗瀬二子塚古墳があることとも関係してくるのであろうか。ところが最後の前方後円墳である観音塚古墳は、平塚古墳や八幡二子塚古墳とは谷を挟んで北側の小規模な舌状台地上に位置している。碓氷川からは離れた位置に築造されたことは当時重要視された交通路の変遷との関係が考えられそうである。それは後に礎石建物跡群を有することになる八幡中原遺跡との関係性を想定しておきたい。（石丸）

（1）土生田純之　2003「剣崎長瀞西遺跡Ⅰ区における方墳の性格」『剣崎長瀞西５・27・35号墳』専修大学考古学研究室

２.八幡中原遺跡周辺の礎石建物跡について　（第 43 図）

（１）八幡中原遺跡と七五三引遺跡における掘込地業の調査例

七五三引遺跡　高崎市八幡町字七五三引 1263- 7 ほかが、1982（昭和 57）年に調査されている。報告では「土壇状遺構（SX01）」と扱われている。[1]

この遺構は、東西長 12.0 m、南北長 11.8cm の正方形を呈しており、面積 141.6㎡である。その正方形の範囲の中は、ローム層まで 35 ～ 40cm 掘り下げられており、ローム・ローム小ブロック・浅間－板鼻黄色軽石を主体とした黄褐色土と黒色土を交互に搗き固めた版築が認められる。この遺構の主軸方向は記載されていないが、200 分の１の平面図で計測するとＮ－７°～８°－Ｅである。

掘込地業から出土した遺物は、縄文土器や土師器の小片であり時期を特定できないが、古墳時代の SI －７を掘り込んでいる。瓦、礎石、炭化穀物は出土していない。

八幡中原遺跡（第３次）　高崎市八幡町字中原 1280 番地２ほかが、2010（平成 22）年に調査されている。報告では「基壇状遺構　SX-01」と扱われている。[2]

この遺構は南北長 15.6 ｍで、東西長は東側が調査区域外に延びるため不明であるが、面積は 100㎡を超すことが推測される。主軸方向はＮ－７°－Ｅである。掘り込みの中にロームと黒色土の版築が認められる。掘込地業から出土した遺物は７世紀後半のもので、「本遺構は古代以降に帰属すると判断される」。

調査区からは４個の大型の礫が出土している。そのうちの第１号大型礫は、版築土を掘り込んでいる土坑から出土している。大きさは長さ 104cm、幅 50cm である。第２号大型礫は、第１号大型礫のすぐ近くから出土しており、大きさは長さ 116cm、幅 95cm である。これら２個の大型礫は土坑から出土しており、「土坑内にはしまりのない As －Ｂ軽石を包含する覆土が堆積しており、土坑掘削後に投棄されたもの」と考えられている。なお、これらの大型礫の性格と基壇状遺構との関連性は説明されていない。そのほか、瓦、炭化穀物は出土していない。

この報告では、七五三引遺跡の掘込地業と近在している状況から、「この一帯が一般集落とは異なった性格を有していた可能性」を指摘している。

（２）郡衙の存在の可能性について

八幡中原遺跡（第３次）報告後の 2011（平成 23）年に、「片岡郡衙に関連する遺跡群の報告」と題したレポートが発表される。[3] 八幡六枚遺跡から出土した焼成前に「片岡郡」と刻まれた須恵器甕、八幡中原遺跡（第３次）と七五三引遺跡の掘込地業の存在、東山道駅路との位置関係から、「ここでは、若田町・八幡町があるＢ地域周辺に郡衙の存在を予察」[4] された。このＢ地域とは、八幡中原遺跡と七五三引遺跡を含めた地域を指している。一般集落とは異なる性格に対して、「郡衙」という官衙の可能性を初めて指摘した。

（３）礎石建物跡の性格について

八幡中原遺跡第５・６次調査区は、第３次調査区と七五三引遺跡調査区の間に位置している。ここで東西長 13 ｍ以上、南北長 10 ｍの主軸方向を真北にする総地業の掘込地業が確認された。

七五三引遺跡と八幡中原遺跡（第３次）の掘込地業も、版築の土層断面から同じく総地業と考えられる。掘込地業は建物などを造営する際に、「その基礎となる地面をいったん掘り下げ、その内部を搗き固めながら埋め戻す地盤改良工事」のことであり、[5] 近在した位置に３棟の建物跡が想定できる。これらの建物跡は総

地業を伴い、今回の調査では総地業の範囲内から、原位置を保っていない大型礫が14個出土しており、総柱式の建物跡が推測できる。これらの建物群は、周辺の調査状況も含めて寺院とは考えられないことから、礎石建ちの高床倉庫と考えられる。八幡中原遺跡（第３次）の大型礫も、高床倉庫に伴う礎石だろう。片岡郡衙の存在が指摘されているこの一帯で見つかった高床倉庫群は、「正倉」の可能性がある。

調査された３棟以外にも、七五三引遺跡の建物跡の南側にあるつくし公園脇のグラウンド内に、周囲より硬い土質の場所が１か所あり、掘込地業の可能性が考えられるという。また、八幡中原遺跡第５・６次調査区の南側の道路脇には、礎石と思われる大型礫が置いてある。調査中に地元市民に聞き取り調査を行ったところ、この近くで下水道工事の際にも大型礫が出たという話が聞けた。

（４）八幡中原遺跡第５・６次調査の礎石建物跡について

八幡中原遺跡（第５・６次）の礎石建物跡は、掘込地業の範囲が南北長10ｍ、東西長13ｍよりさらに東側に延び、面積130㎡以上である。礎石と考えられる14個の大型礫はすべて近世以降に掘削された大型礫落とし込み穴から出土しており、原位置は留めていない。東西に５個、南北に３個の大型礫が並んでいることから、桁行４間以上、梁行２間がまず考えられ、掘込地業北辺の大型礫が認められない列に４個目の大型礫が配置されていたと仮定すると、梁行３間の総柱式建物が想定できる。第５次調査の掘込地業の内部から土師器片と須恵器片が出土しており、その土器群は８世紀前半以前におさまっている。この礎石建物跡の造営年代は第６次調査で出土した土器群も含めて総合的に検討する必要があり、今回は出土した土器群の年代を示すだけに留める。

（５）掘立柱建物跡と官的遺物

掘立柱建物跡は、八幡中原遺跡（第３・４次）で合計５棟が調査されている。すべて側柱式と報告されているが、全容については調査区域外に延びているため不明である。柱穴の形状は、第３次調査のSB－４だけが円形であり、それ以外の４棟はすべて方形である。柱穴の規模は、第４次調査のSB－１・２の２棟だけが長軸長100cmを超す。この２棟の主軸方向は、SB－１がＮ－７°－Ｅ、SB－２がＮ－８°－Ｅであり、八幡中原遺跡（第３次）および七五三引遺跡の礎石建物跡の主軸方向と同じである。この主軸方向は、八幡中原遺跡（第３次）で調査された区画溝の性格が想定されるSD－３と同様である。八幡中原遺跡（第５・６次）の礎石建物跡だけは真北を向くため違いがあるが、礎石建物跡と八幡中原遺跡（第４次）の掘立柱建物跡には、主軸方向で共通性が認められる。以上のように掘立柱建物跡については不明な点が多く、礎石建物跡の前身施設について明らかでない。

特徴的な遺物としては、八幡中原遺跡（第４次）でSD－１から円面硯１点、SD－２から平瓦１点が出土している。瓦の年代は小片のため不明である。溝跡の時期は、いずれも古代に位置付けられている。この周辺一帯において地元住民からも瓦が出土したという話は聞けなかった。（早川）

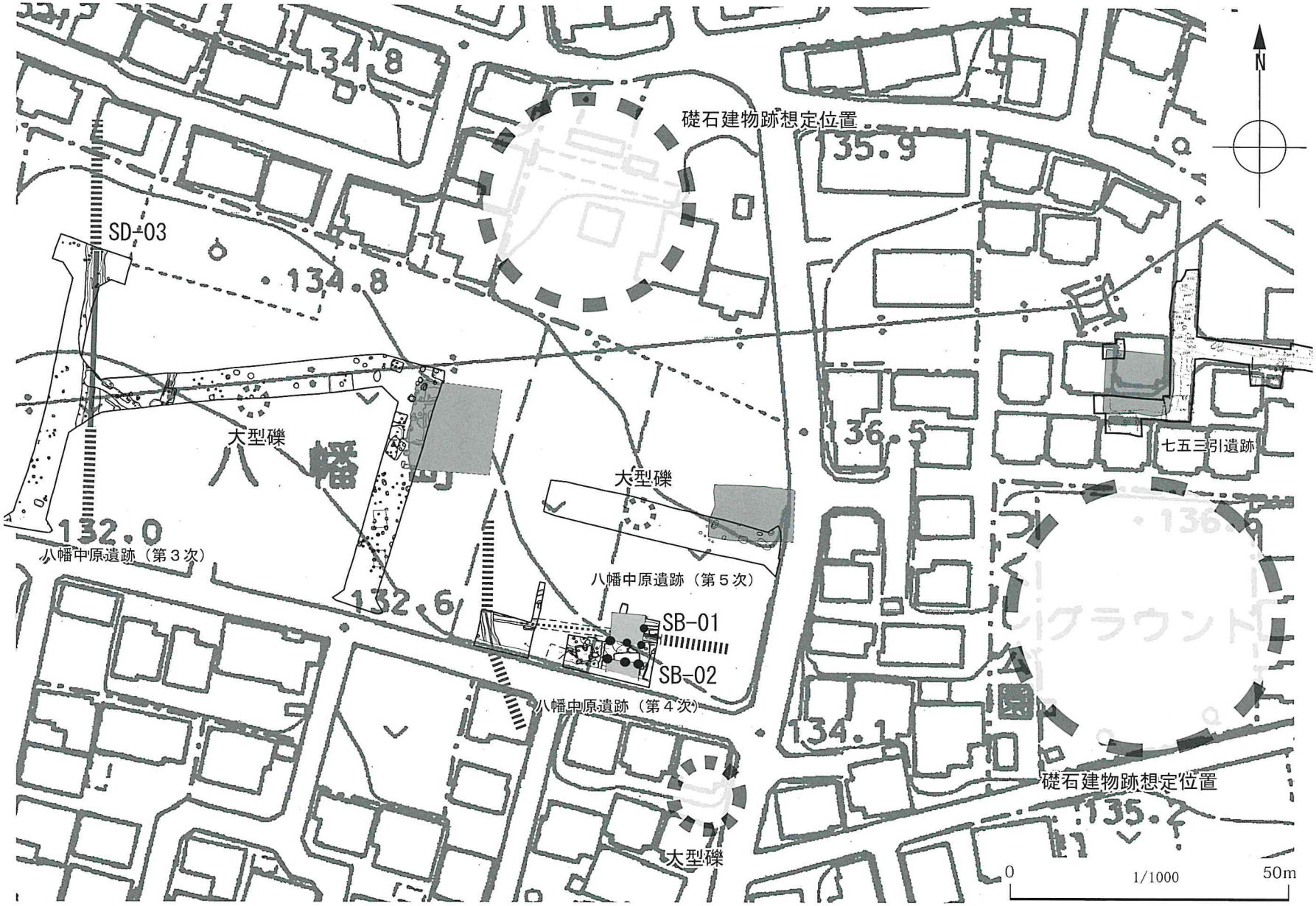
（１）田村 孝　1984 『七五三引遺跡』 高崎市教育委員会

（２）石丸敦史・田口一郎　2011 『八幡中原遺跡３』 高崎市教育委員会

（３）石丸敦史・高林真人・清水豊　2011 「片岡郡衙に関する遺跡群の報告」『群馬文化』第307号　群馬県地域文化研究協議会

（４）註（３）文献中の清水豊「四、小結」より。

（５）山中敏史編　2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ　遺構編』 奈良文化財研究所

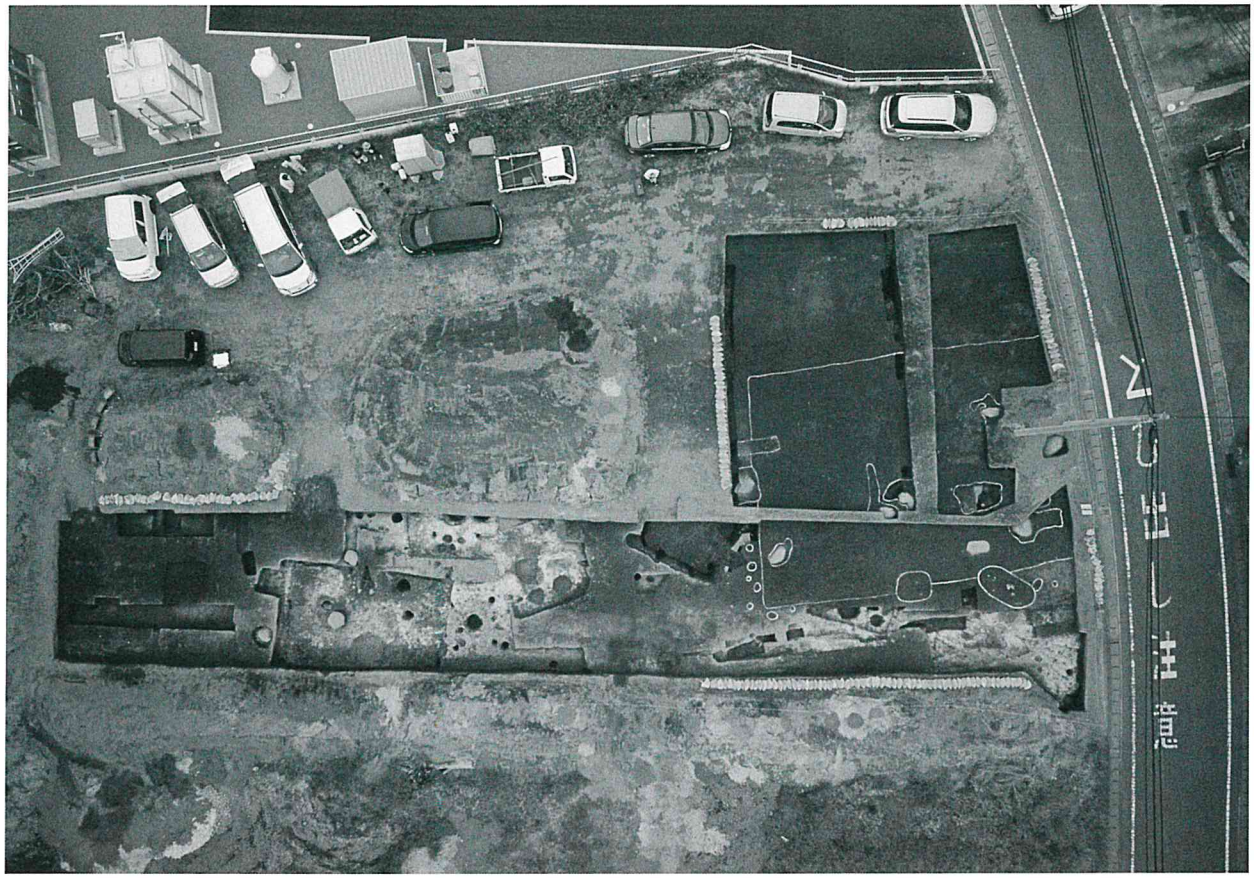


第 43 図　礎石建物跡・掘立柱建物跡配置図

写真図版

調査区全景１
（南西から北東方向。中央鉄塔付近が七五三引遺跡。）

調査区全景２
（南東から北西方向）

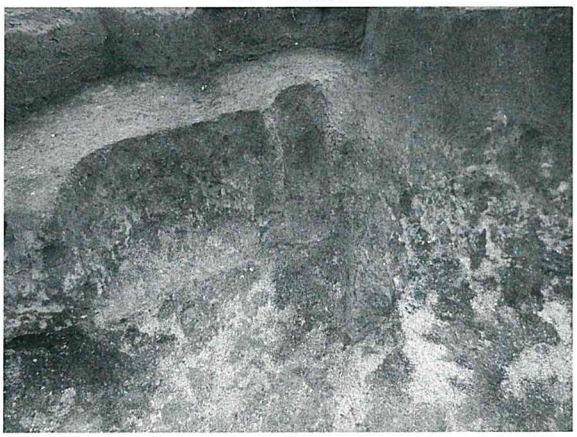


調査区全景３
（上が北）

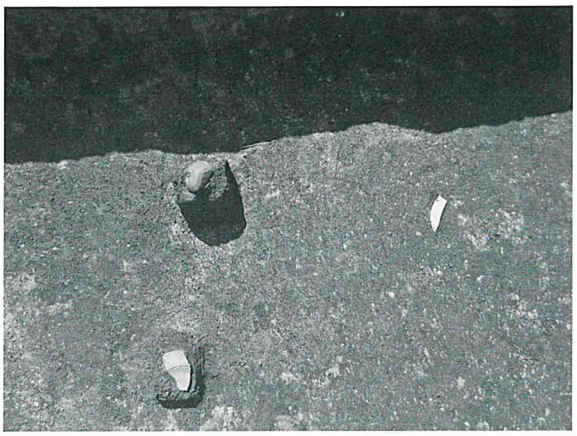
SI－１

SI－１掘方

SI－２



SI－２カマド

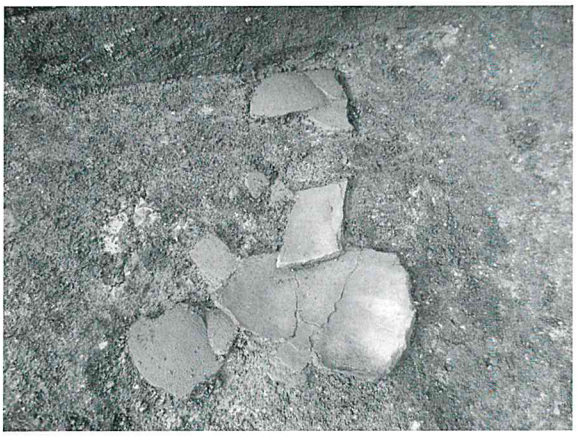


SI－２遺物出土状況

SI－２掘方

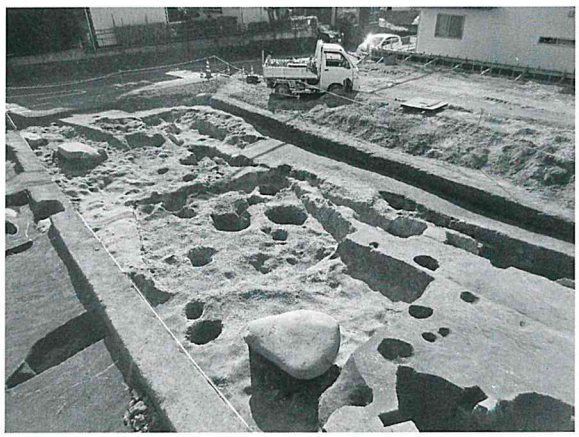
SI－３

SI－４



SI－４韓式系土器出土状況

SI－４貯蔵穴遺物出土状況



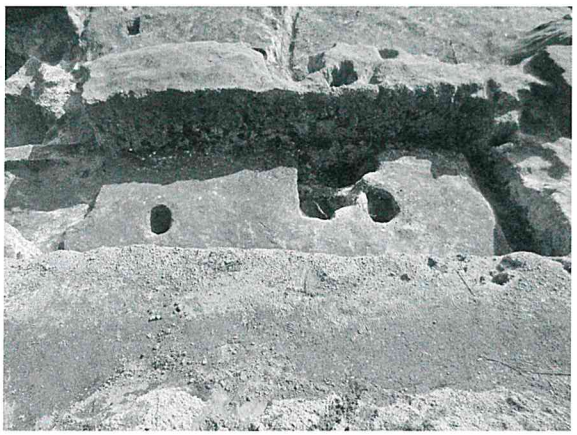
SI－４掘方

SI－５カマド

SI －５カマド袖部断割状況

SI －５遺物出土状況

SI －５掘方



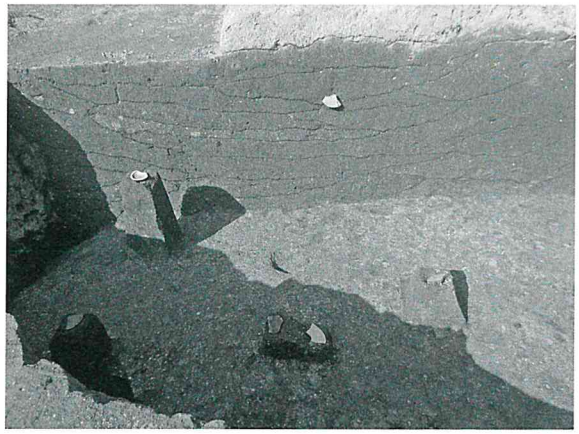
SI －６

SI －６遺物出土状況

SI －７掘方

SI －８

SI －８カマド



ＳＩ－８遺物出土状況

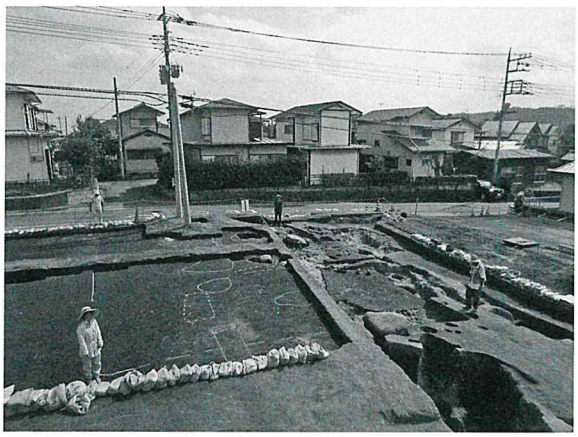
ＳＩ－８土層堆積状況

ＳＩ－８掘方

ＳＩ－９カマド

ＳＩ－９遺物出土状況

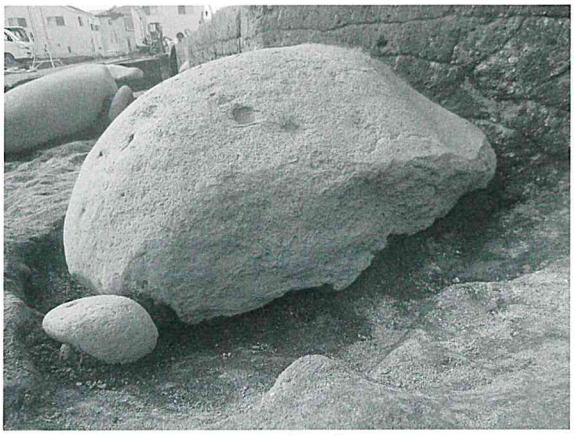
ＳＢ－１平面検出状況



ＳＢ－１完掘状況（１）

ＳＢ－１完掘状況（２）

SB －１大型礫出土状況



SB －１大型礫１

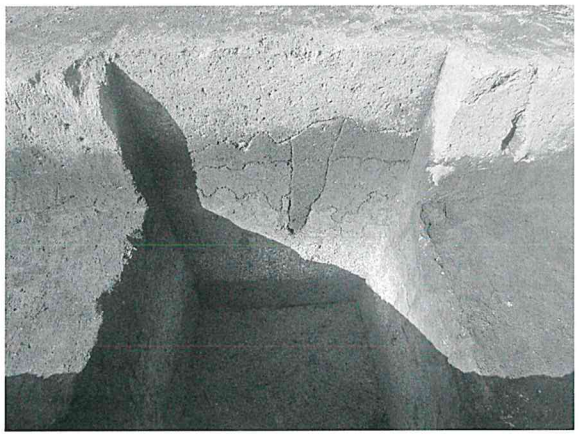
SB －１大型礫２

SB －１大型礫３

SB －１構築状況（１）

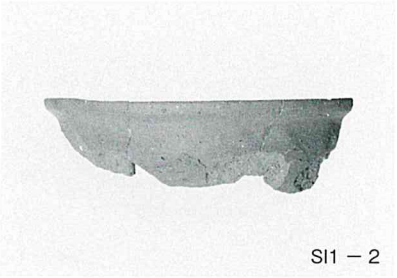
SB －１構築状況（２）

SB －１構築状況（３）



基本土層

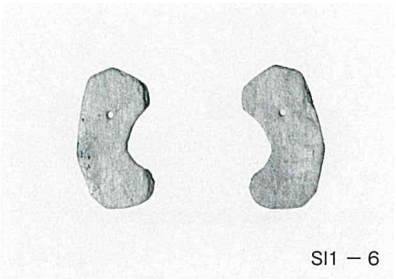
SI1 − 1


SI1 − 2

SI1 − 3

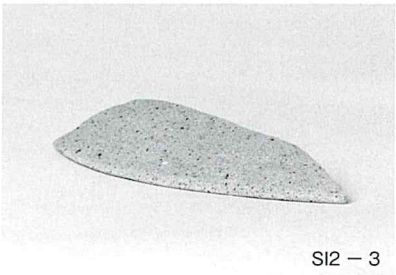
SI1 − 4

SI1 − 5


SI1 − 6

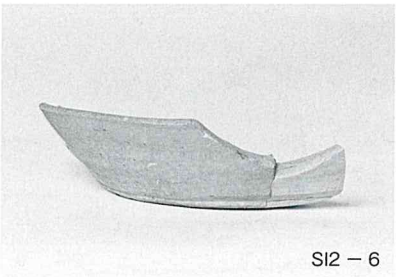
SI2 − 1

SI2 − 2

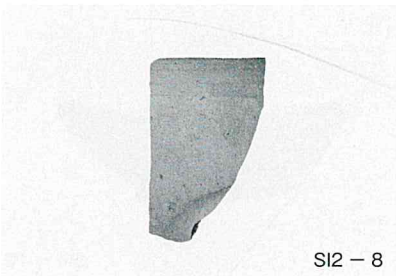

SI2 − 3

SI2 − 4

SI2 − 5


SI2 − 6

SI2 − 7


SI2 − 8

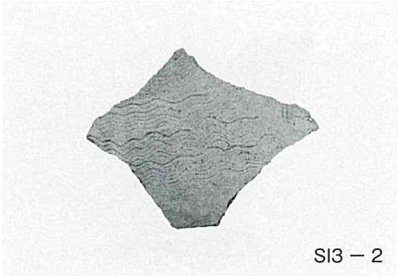
SI2 − 9

SI2 − 10

SI2 − 11

SI3 − 1

PL 8


SI3 − 2

SI4 − 1

SI4 − 2

SI4 − 3

SI4 − 4

SI4 − 5

SI4 − 6

SI4 − 7

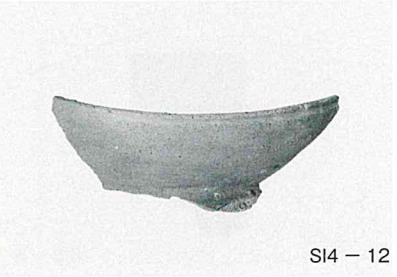
SI4 − 8

SI4 − 9

SI4 − 10

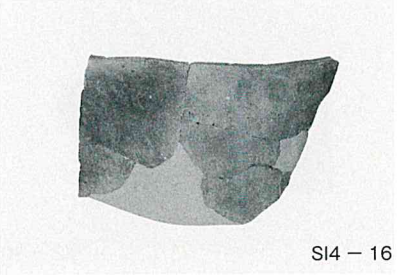
SI4 − 11

SI4 − 13


SI4 − 12

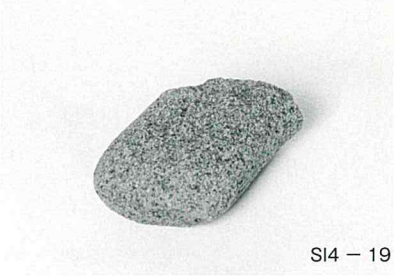
SI4 − 14

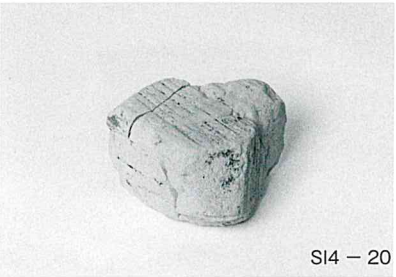
SI4 − 15

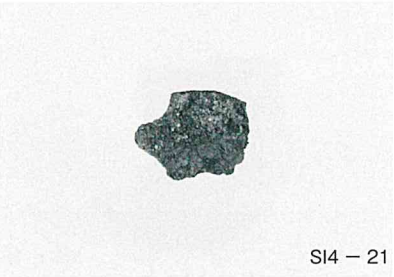

SI4 − 16

SI4 − 17

SI4 − 18


SI4 − 19


SI4 − 20


SI4 − 21

SI5 − 1

SI5 − 2

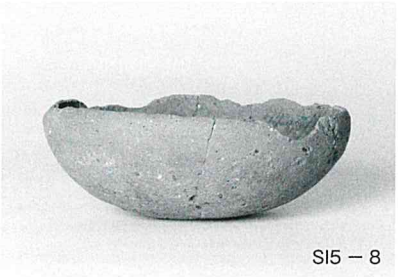
SI5 − 3

SI5 − 4

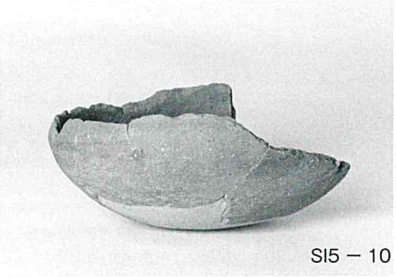
SI5 − 5

SI5 − 6

SI5 − 7


SI5 − 8

SI5 − 9


SI5 − 10

SI5 − 11

SI5 − 12

SI5 − 13

SI5 − 14

SI5 − 15

SI5 − 16

SI5 − 17

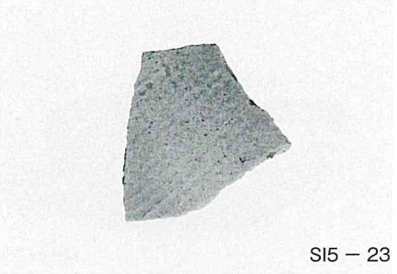
SI5 − 18

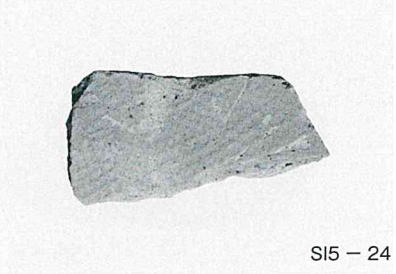
SI5 − 19

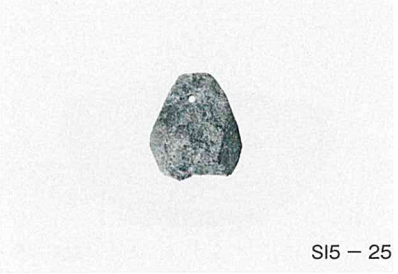
SI5 − 20

SI5 − 21

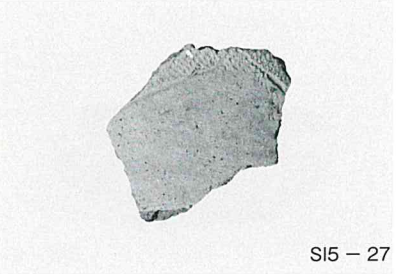
SI5 − 22


SI5 − 23

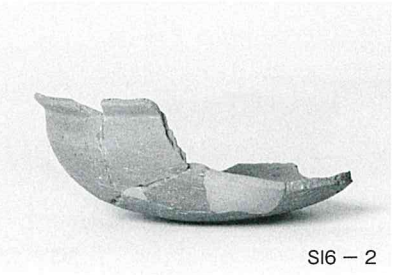

SI5 − 24


SI5 − 25

SI5 − 26


SI5 − 27

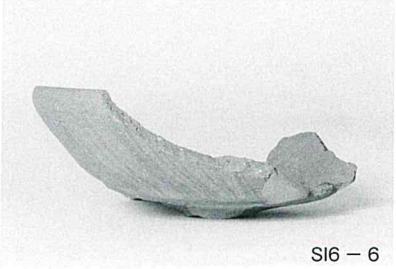
SI6 − 1


SI6 − 2

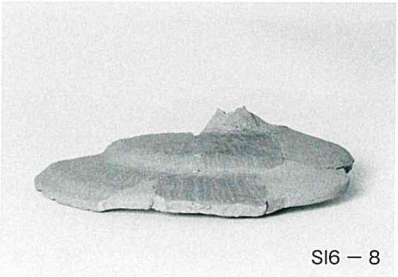
SI6 − 3

SI6 − 4

SI6 − 5


SI6 − 6

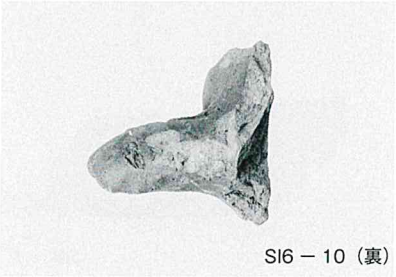
SI6 − 7

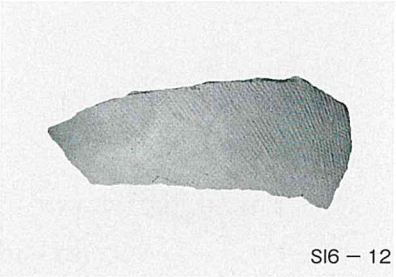

SI6 − 8

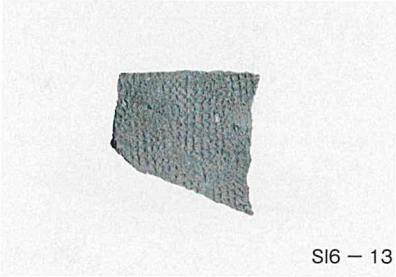
SI6 − 9

SI6 − 11

SI6 − 10


SI6 − 10（裏）

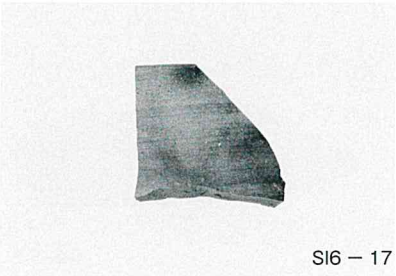

SI6 − 12


SI6 − 13

SI6 − 14

SI6 − 15

SI6 − 16

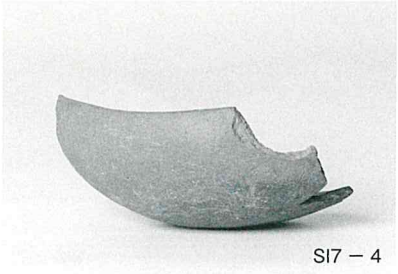

SI6 − 17

SI6 − 18

SI7 − 1

SI7 − 2

SI7 − 3


SI7 − 4

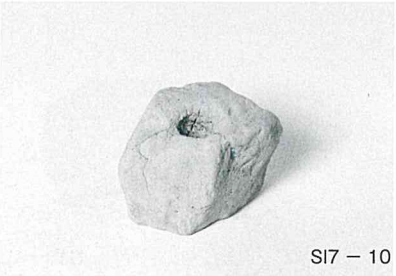
SI7 − 5

SI7 − 6

SI7 − 7

SI7 − 8

SI7 − 9


SI7 − 10

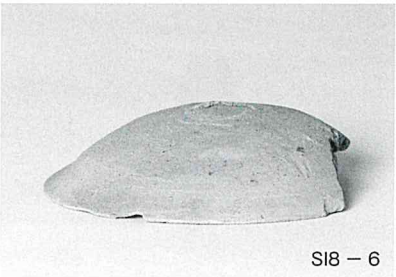
SI8 − 1

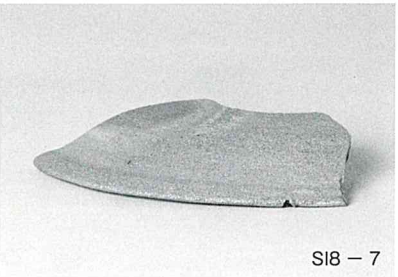
SI8 − 2

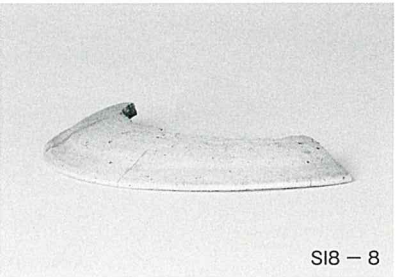
SI8 − 3

SI8 − 4

SI8 − 5


SI8 − 6

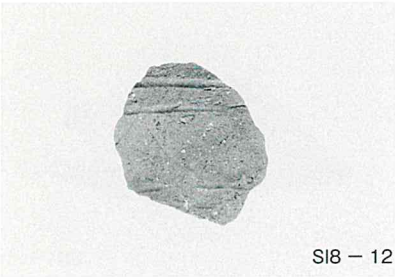

SI8 − 7


SI8 − 8

SI8 − 9

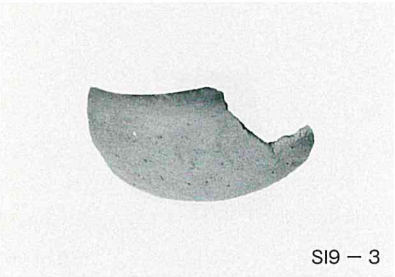
SI8 − 10

SI8 − 11

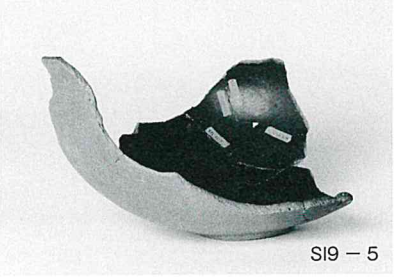

SI8－12

SI9－1

SI9－2


SI9－3

SI9－4


SI9－5

SI9－6

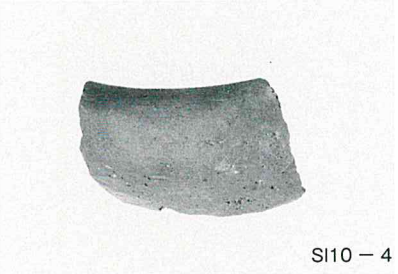
SI9－7

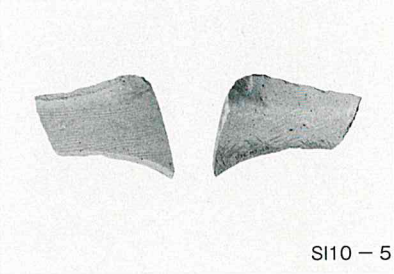
SI9－8

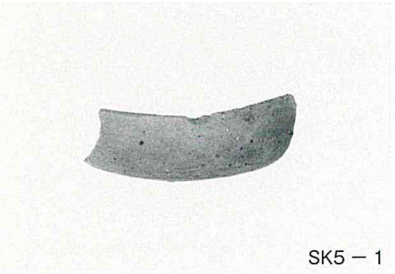
SI10－1

SI10－2

SI10－3

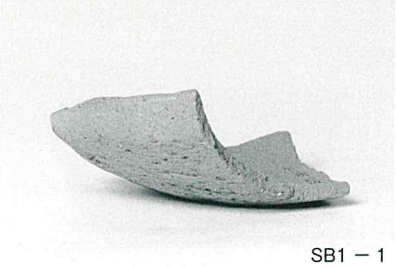

SI10－4


SI10－5

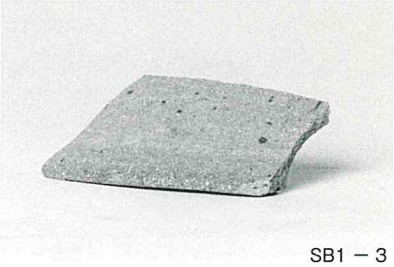

SK5－1

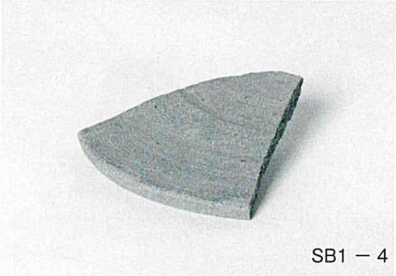
SK5－2

遺構外－1

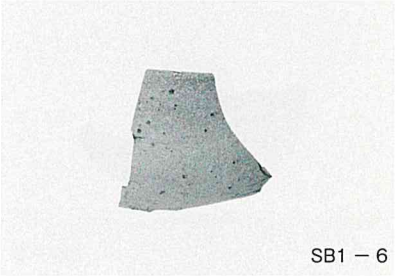

SB1 − 1

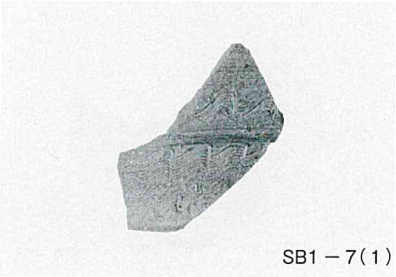
SB1 − 2


SB1 − 3

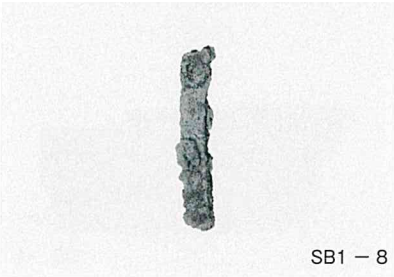

SB1 − 4

SB1 − 5


SB1 − 6


SB1 − 7(1)

SB1 − 7(2)


SB1 − 8

報告書抄録

フリガナ	ヤワタナカハライセキ
書名	八幡中原遺跡５
副書名	宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第328集
編著者名	早川麗司　石丸敦史　山本ジェームズ
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146　群馬県前橋市公田町1002番地１　TEL 027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	平成26年６月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
やわたなかはら 八幡中原遺跡	ぐんまけんたかさきし 群馬県高崎市 やわたまちあざなかはら 八幡町字中原 1276番地1、 1280番地1	102020	571	36° 20′ 35″	138° 56′ 47″	20130826 ～ 20131011	276.25㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡中原遺跡	集落 官衙	古墳 古代	住居跡　10棟 礎石建物跡　1棟 土坑　8基	土師器 須恵器 韓式系土器 石製模造品	総地業を有する礎石建物跡が１棟確認された。

高崎市文化財調査報告書第328集

八幡中原遺跡５

－宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

平成26年６月25日印刷
平成26年６月30日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／有限会社毛野考古学研究所
印刷／朝日印刷工業株式会社